

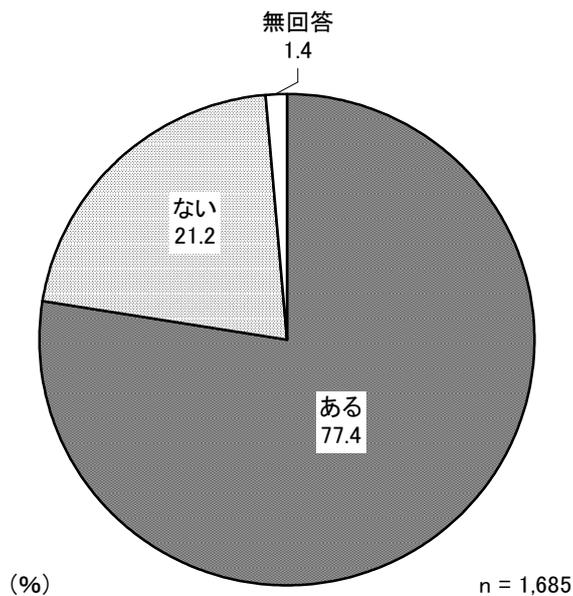
8. 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度

8-1 市の窓口利用の有無

◇ 「ある」が8割近く

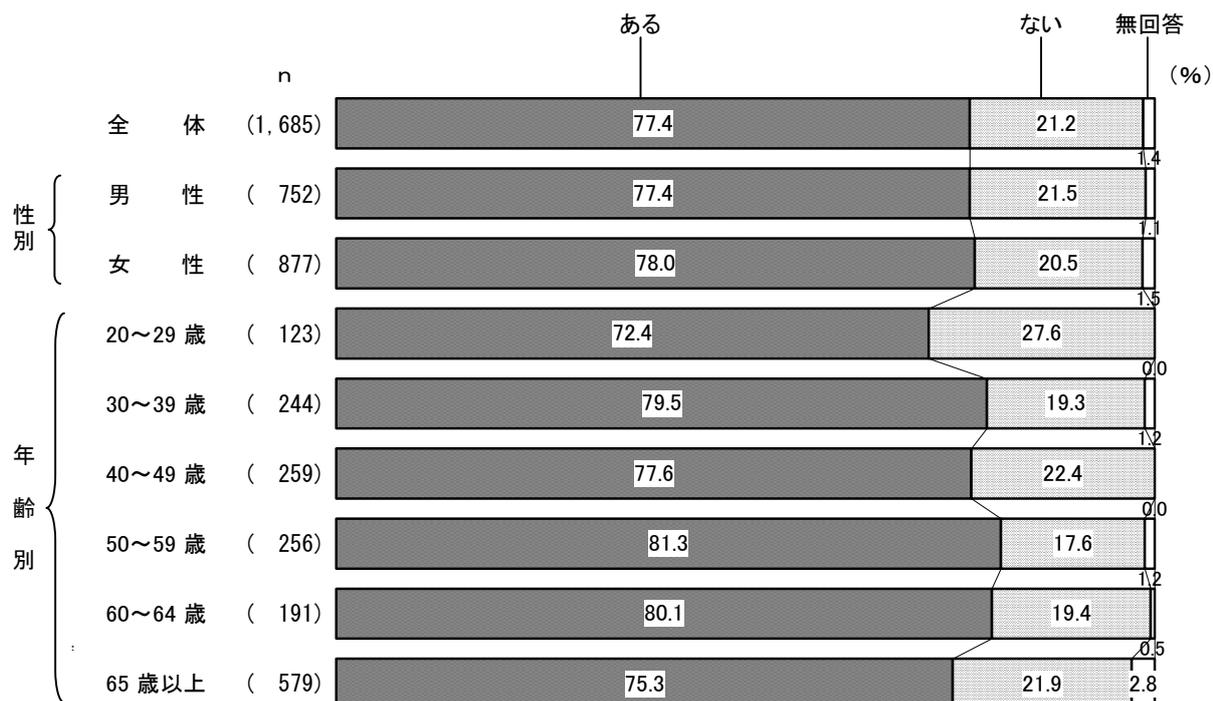
問25 あなたは、この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健所、保健センターなど市の窓口を利用したことはありますか。(○は1つだけ)

図8-1-1



市の窓口を利用したことがあるかを聞いたところ、「ある」が8割近く (77.4%)、「ない」が2割強 (21.2%) となっている。(図8-1-1)

図 8 - 1 - 2 市の窓口利用の有無－性別・年齢別

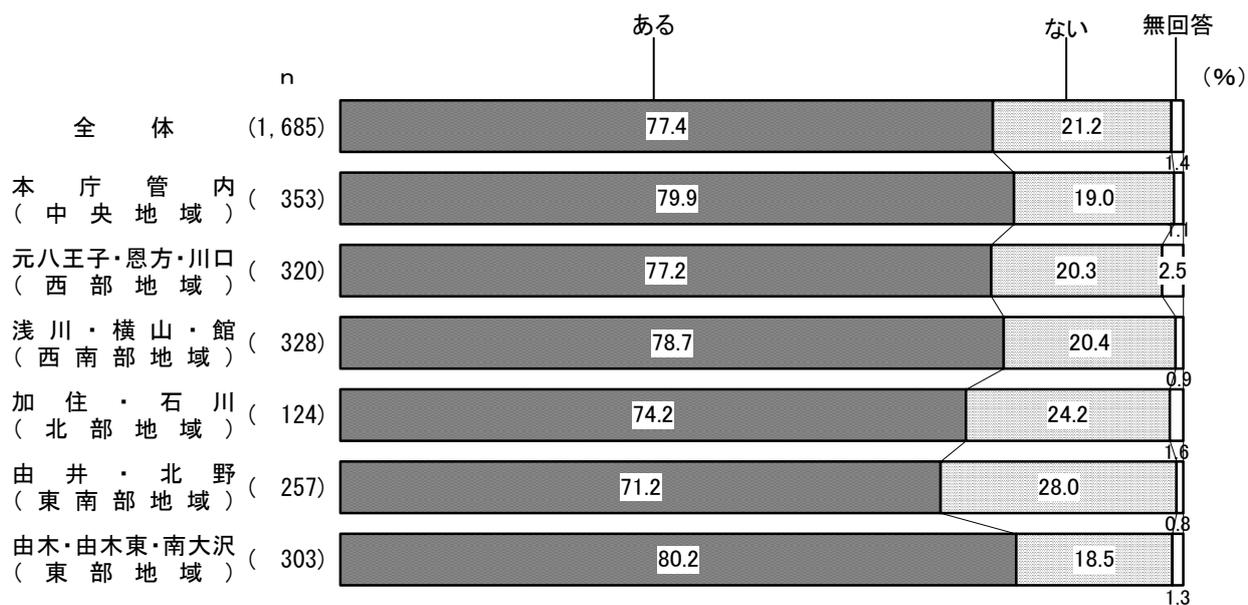


性別にみると、大きな差はない。

年齢別にみると、「ない」は20～29歳で3割近く（27.6%）と高くなっている。

(図 8 - 1 - 2)

図 8 - 1 - 3 市の窓口利用の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「ない」は由井・北野（東南部地域）で3割近く（28.0%）と高くなっている。(図 8 - 1 - 3)

8-2 市の窓口サービスの満足度

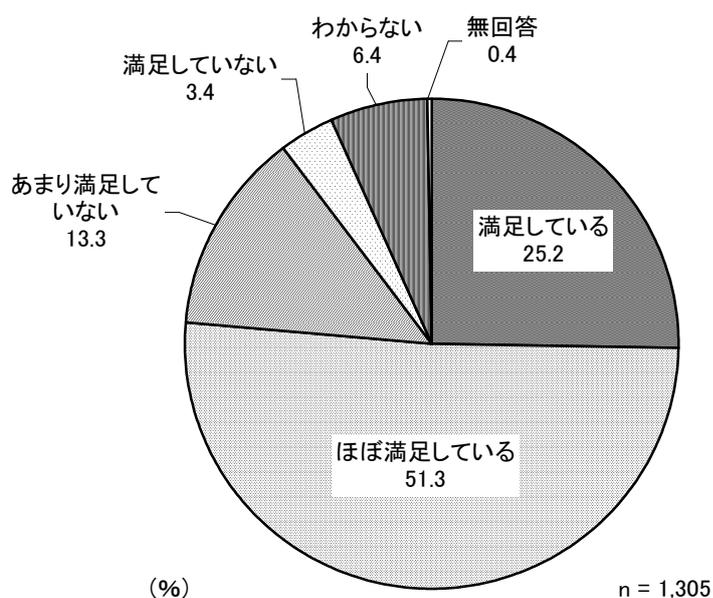
◇《満足している》が8割近く

(問25で、「ある」とお答えの方に)

問25-1 あなたは、市の窓口サービス（接客度や提供内容、処理時間など）に満足していますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。

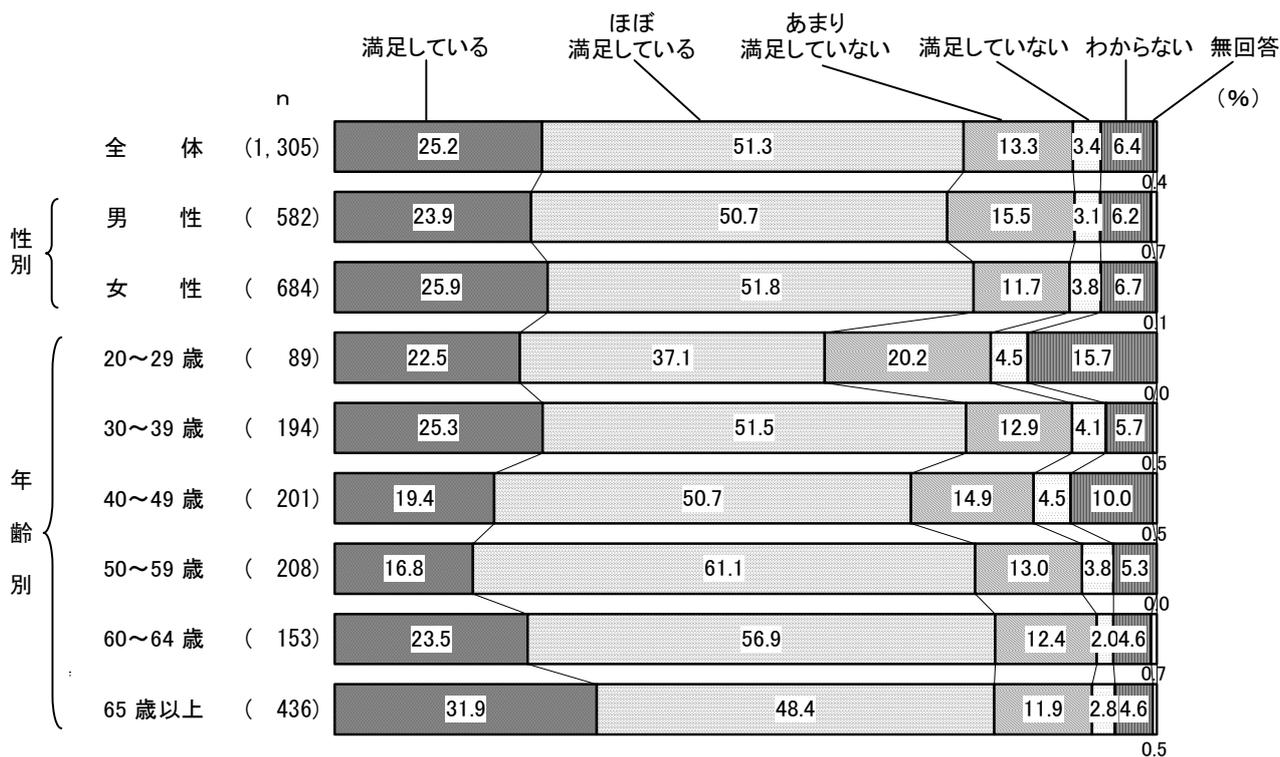
(○は1つだけ)

図8-2-1



市の窓口利用の有無で、市の窓口を利用したことが「ある」と答えた人（1,305人）に窓口サービスの満足度を聞いたところ、「ほぼ満足している」が5割強（51.3%）と最も高く、これに「満足している」（25.2%）を合わせた《満足している》は8割近く（76.5%）となっている。一方、「あまり満足していない」（13.3%）と「満足していない」（3.4%）を合わせた《満足していない》は2割近く（16.7%）となっている。（図8-2-1）

図8-2-2 市の窓口サービスの満足度－性別・年齢別

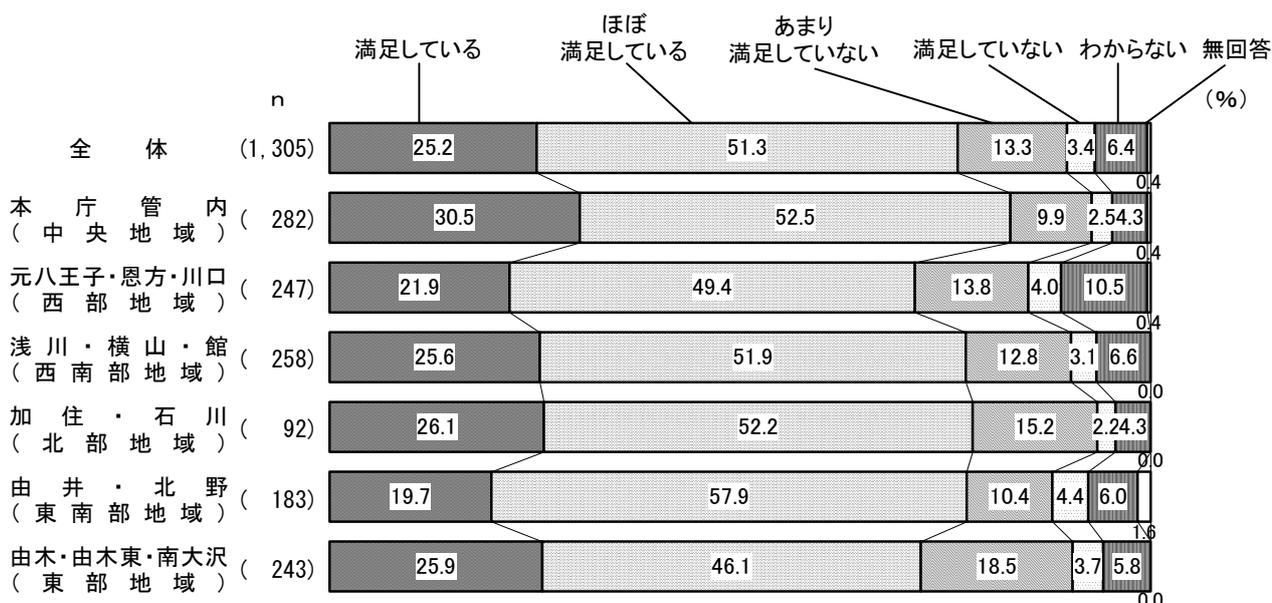


性別にみると、《満足している》は女性が3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《満足していない》は20～29歳で2割台半ば（24.7%）と高くなっている。

(図8-2-2)

図8-2-3 市の窓口サービスの満足度－居住地域別



居住地域別にみると、《満足している》は本庁管内（中央地域）で8割強（83.0%）と高くなっている。(図8-2-3)

8-3 市の情報の分かりやすさ

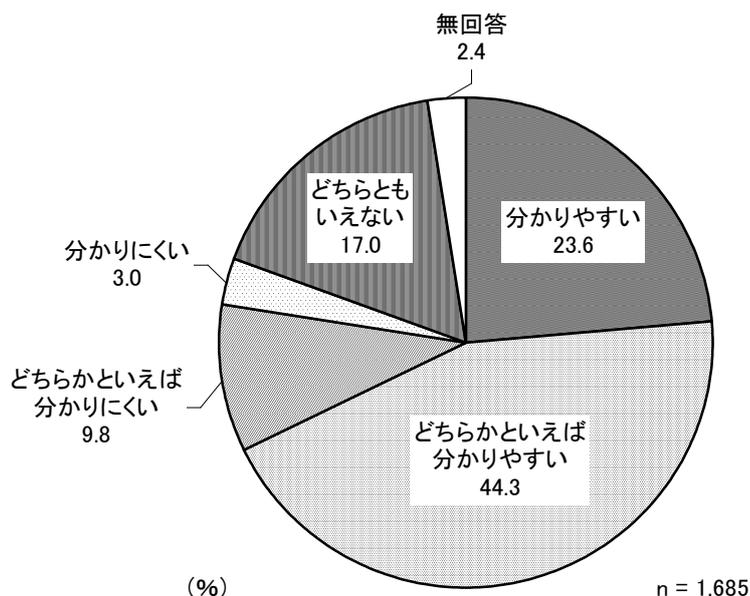
◇ 《分かりやすい》が7割近く

問26 市政情報や市からのお知らせなどの内容は分かりやすいですか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

※市政情報や市からのお知らせとは・・・

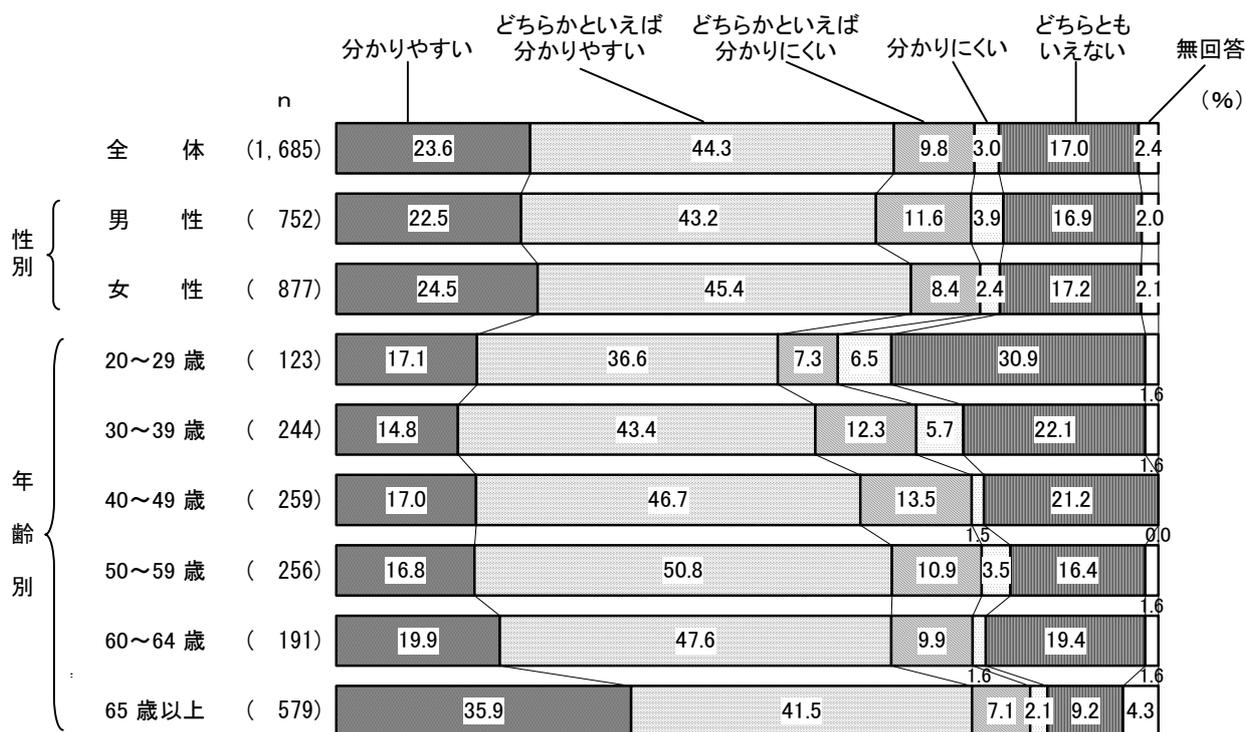
- 広報はちおうじ
- 市ホームページ
- 犯罪・防災情報のメール配信
- ケーブルテレビで放映する番組・ニュース
- 各種手続きなどの個別通知 など

図8-3-1



市政情報や市からのお知らせなどの内容は分かりやすいかを聞いたところ、「どちらかといえば分かりやすい」が4割台半ば(44.3%)と最も高く、これに「分かりやすい」(23.6%)を合わせた《分かりやすい》は7割近く(67.9%)となっている。一方、「どちらかといえば分かりにくい」(9.8%)と「分かりにくい」(3.0%)を合わせた《分かりにくい》は1割強(12.8%)となっている。(図8-3-1)

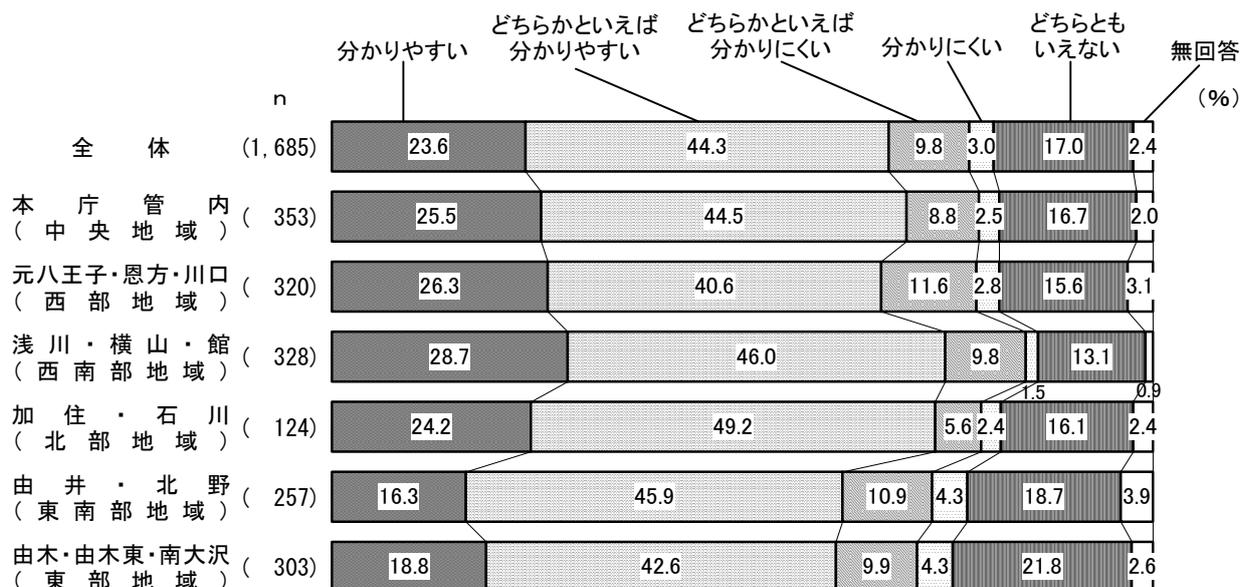
図8-3-2 市の情報の分かりやすさ—性別・年齢別



性別にみると、《分かりにくい》は男性が4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《分かりやすい》はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上で8割近く（77.4%）と高くなっている。（図8-3-2）

図8-3-3 市の情報の分かりやすさ—居住地域別



居住地域別にみると、《分かりやすい》は浅川・横山・館（西南部地域）で7割台半ば（74.7%）と高くなっている。（図8-3-3）

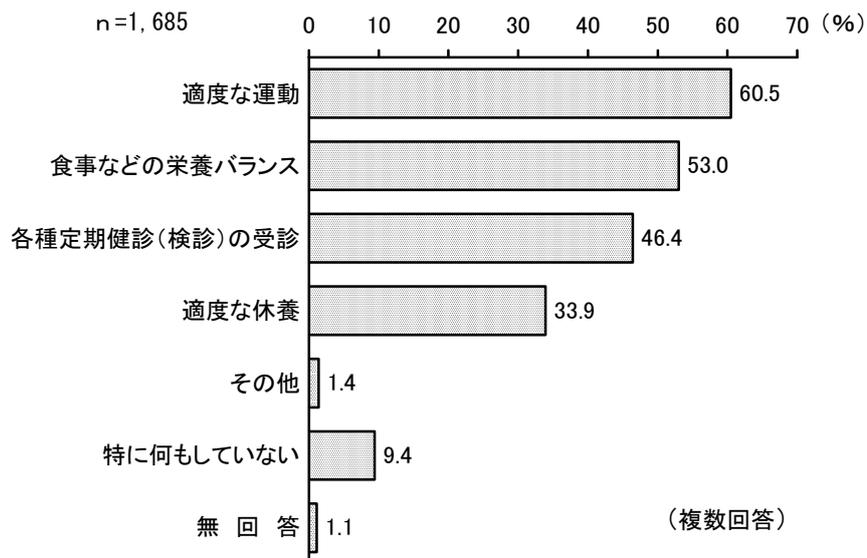
8-4 健康のために心がけていること

◇「適度な運動」が約6割

問27 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

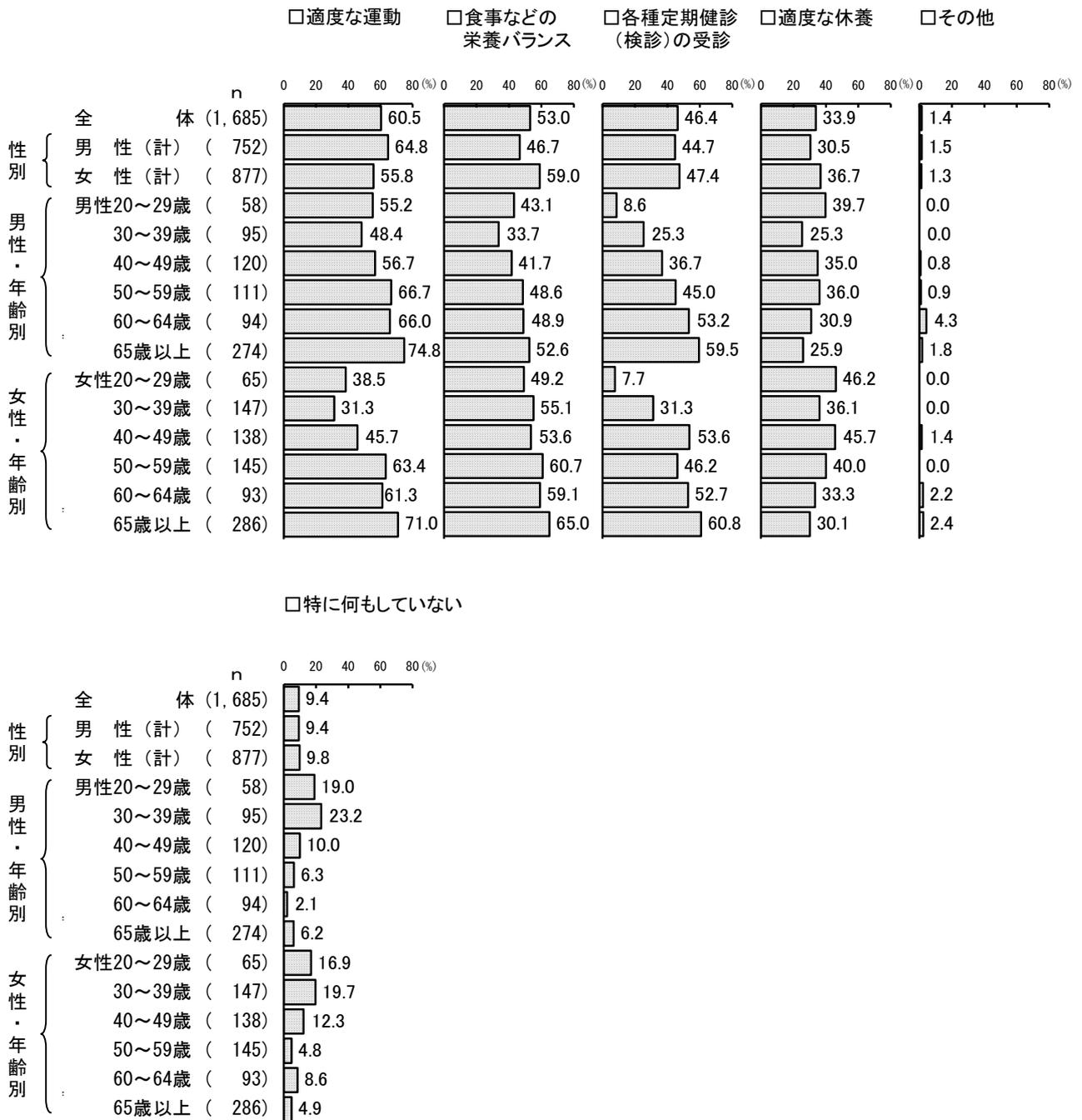
(○はいくつでも)

図8-4-1



健康の維持・増進のために心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」が約6割(60.5%)と最も高く、次いで「食事などの栄養バランス」(53.0%)、「各種定期健診(検診)の受診」(46.4%)、「適度な休養」(33.9%)と続いている。(図8-4-1)

図8-4-2 健康のために心がけていることー性・年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性が12.3ポイント高くなっている。一方、「適度な運動」は男性が9.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「適度な運動」は男女ともに65歳以上で7割台と高くなっている。また、「各種定期健診(検診)の受診」は男女ともにおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で6割前後と高くなっている。(図8-4-2)

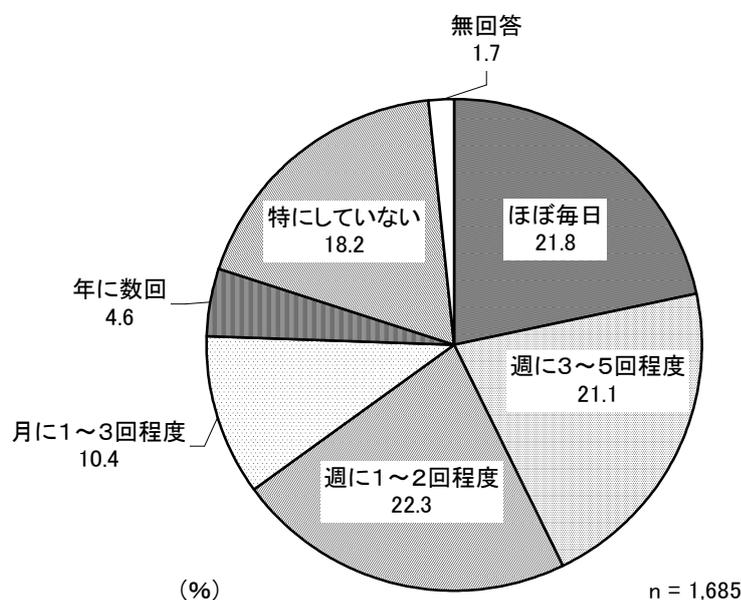
8-5 この1年間の運動頻度

◇ 《週1回以上》が6割台半ば

問28 あなたは、この1年間にどれくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計数をお答えください。(○は1つだけ)

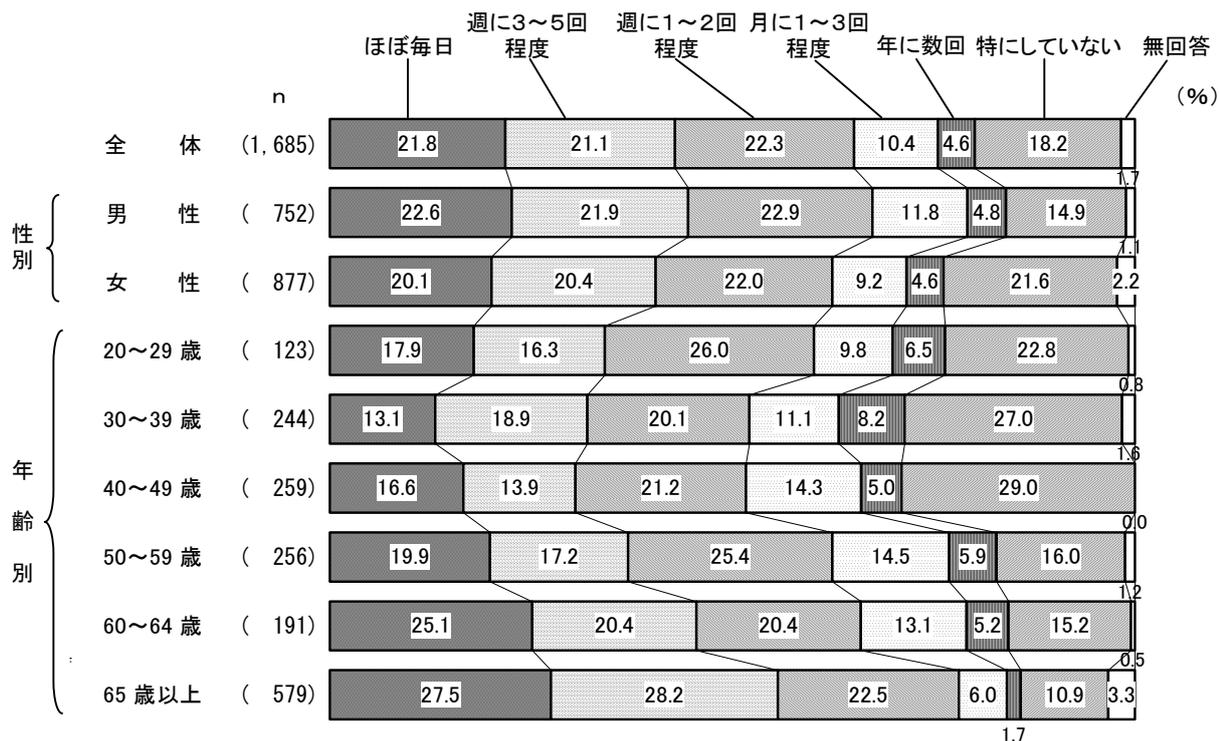
※運動には、野外活動(登山やハイキングなど)や通勤時の自転車・徒歩、散歩(散策、ペットの散歩を含む)などで1日合計30分以上行うものも含めます。

図8-5-1



この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたかを聞いたところ、「週に1~2回程度」(22.3%)、「ほぼ毎日」(21.8%)、「週に3~5回程度」(21.1%)の割合に大きな差はなく、これらを合わせた《週1回以上》は6割台半ば(65.2%)となっている。また、「月に1~3回程度」は約1割(10.4%)、「年に数回」は1割未満(4.6%)、「特にしていない」は2割近く(18.2%)となっている。(図8-5-1)

図 8-5-2 この1年間の運動頻度－性別・年齢別

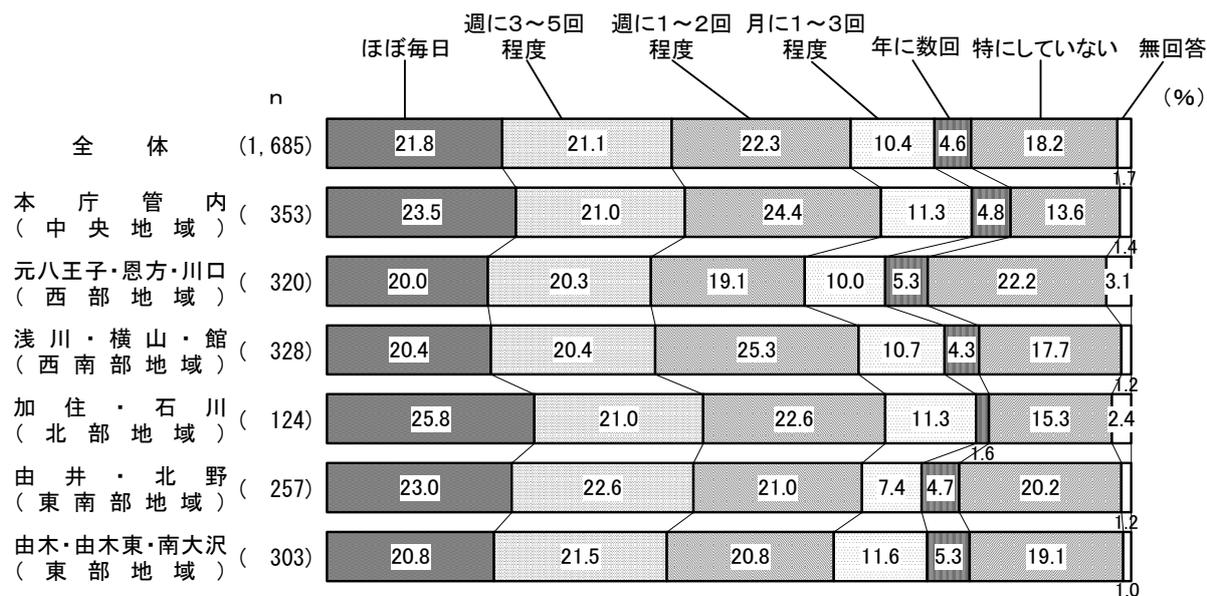


性別にみると、《週1回以上》は男性が4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《週1回以上》は65歳以上で8割近く（78.2%）と高くなっている。

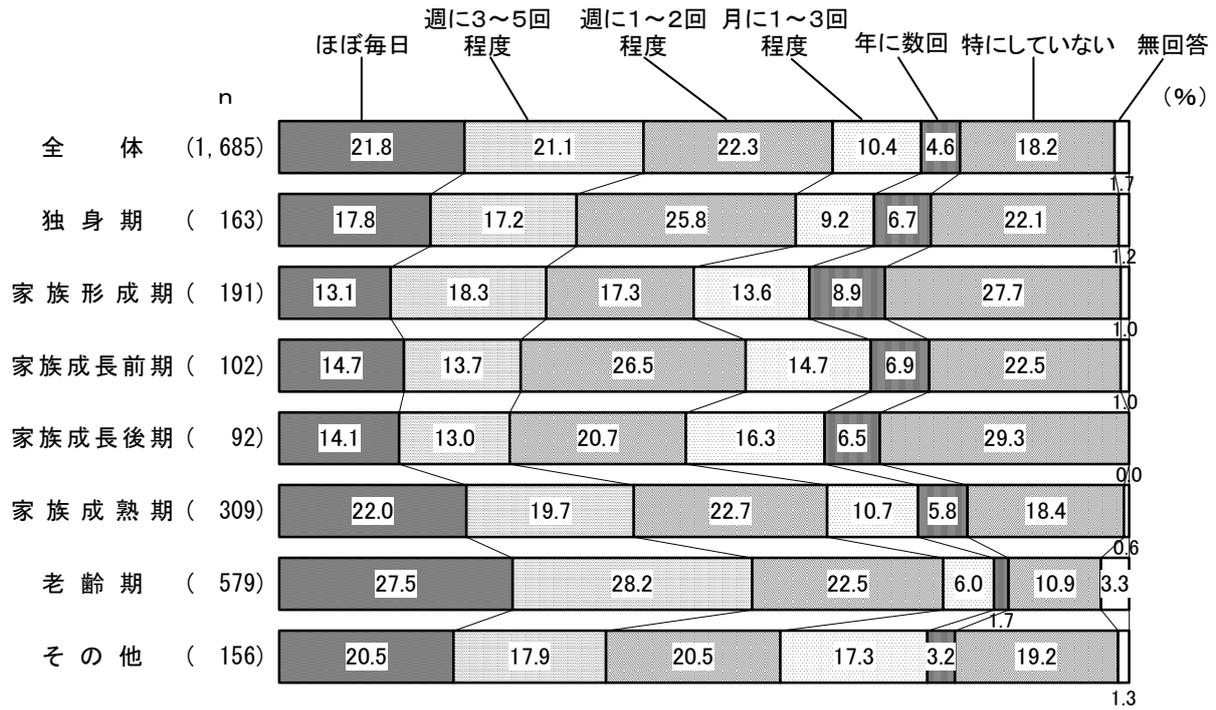
(図 8-5-2)

図 8-5-3 この1年間の運動頻度－居住地域別



居住地域別にみると、《週1回以上》は加住・石川（北部地域）で7割弱（69.4%）と高くなっている。(図 8-5-3)

図 8-5-4 この1年間の運動頻度—ライフステージ（集約型）別



ライフステージ（集約型）別にみると、《週1回以上》は老齡期で8割近く（78.2%）と高くなっている。一方、「特にしていない」は家族成長後期で3割弱（29.3%）と高くなっている。

（図 8-5-4）

8-6 かかりつけの医療機関の有無

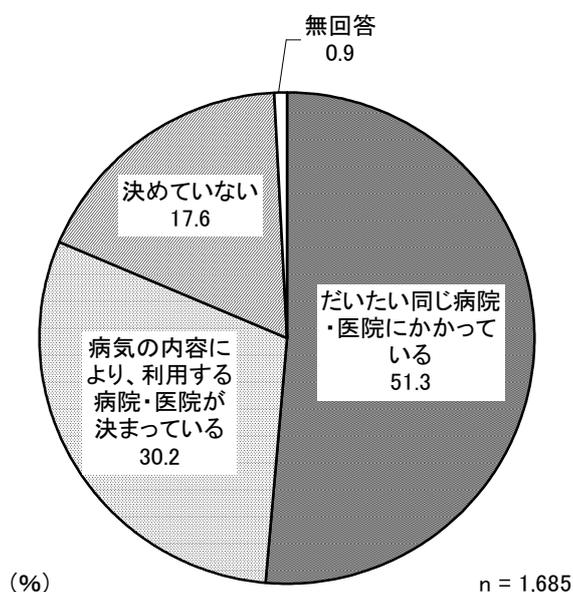
◇《かかりつけの医療機関を決めている》が8割強

問29 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

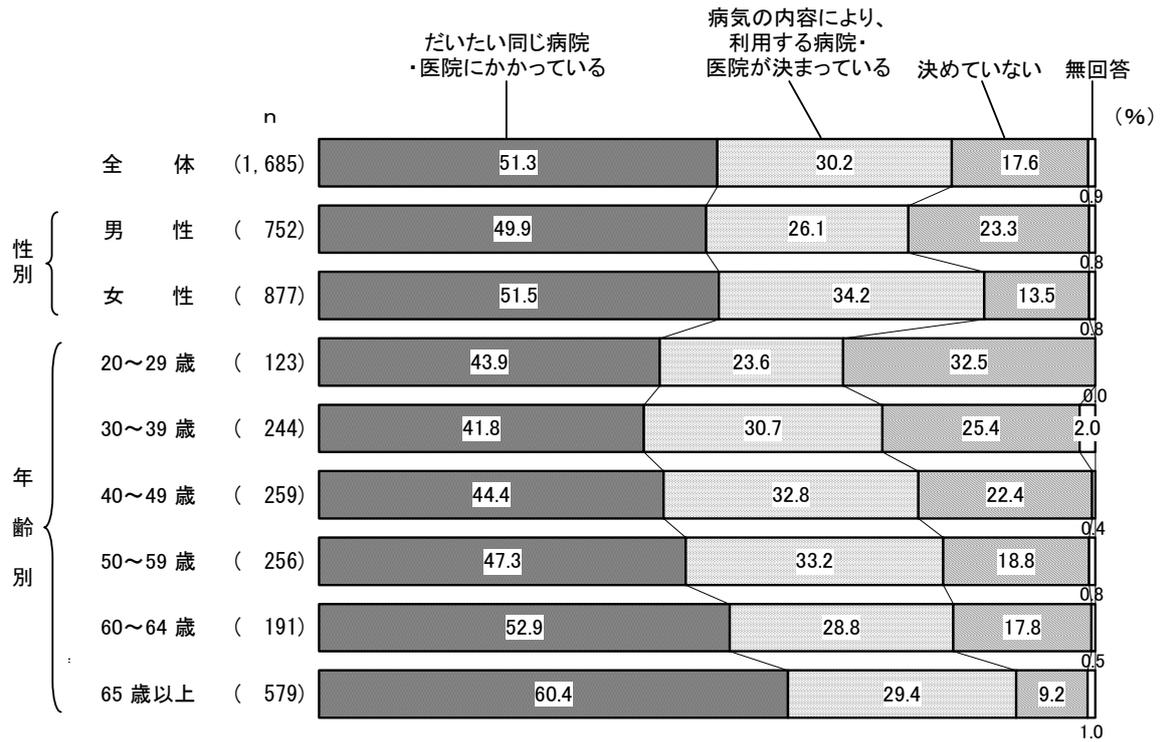
日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

図8-6-1



かかりつけの医療機関を決めているかを聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(51.3%)、「病气の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(30.2%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》は8割強(81.5%)となっている。一方、「決めていない」は2割近く(17.6%)となっている。(図8-6-1)

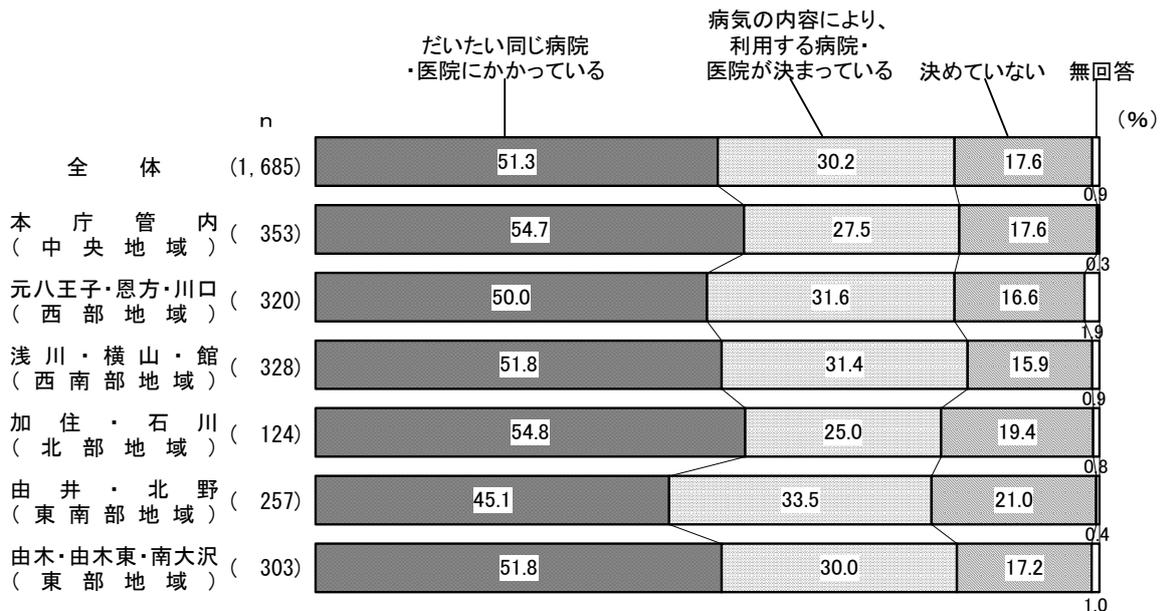
図 8-6-2 かかりつけの医療機関の有無—性別・年齢別



性別にみると、「決めていない」は男性が9.8ポイント高くなっている。一方、「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」は女性が8.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「決めていない」は年代が下がるにつれて割合が高く、特に20~29歳で3割強（32.5%）と高くなっている。（図8-6-2）

図 8-6-3 かかりつけの医療機関の有無—居住地域別



居住地域別にみると、「決めていない」は由井・北野（東南部地域）で2割強（21.0%）と高くなっている。（図8-6-3）

8-7 食料・飲料水の備蓄の有無

- ◇【食料】を「備蓄している」が6割近く
- 【飲料水】を「備蓄している」が6割台半ば

問30 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料、飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図8-7-1 【食料】

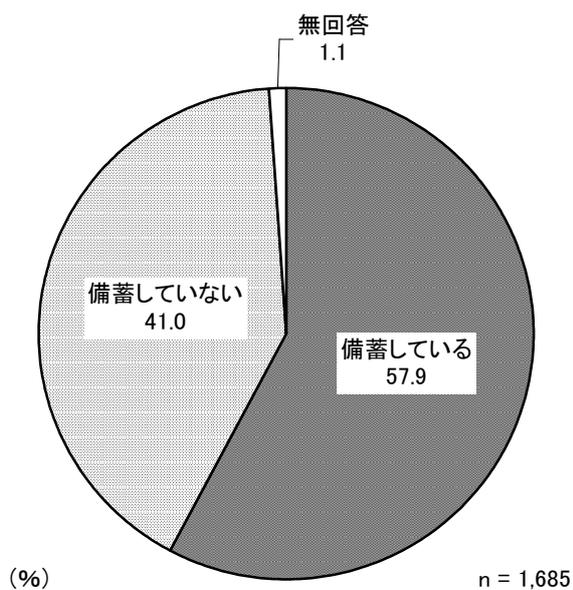
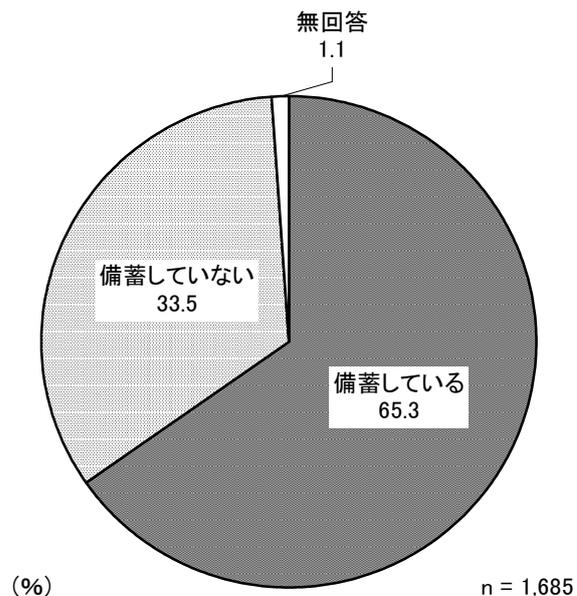


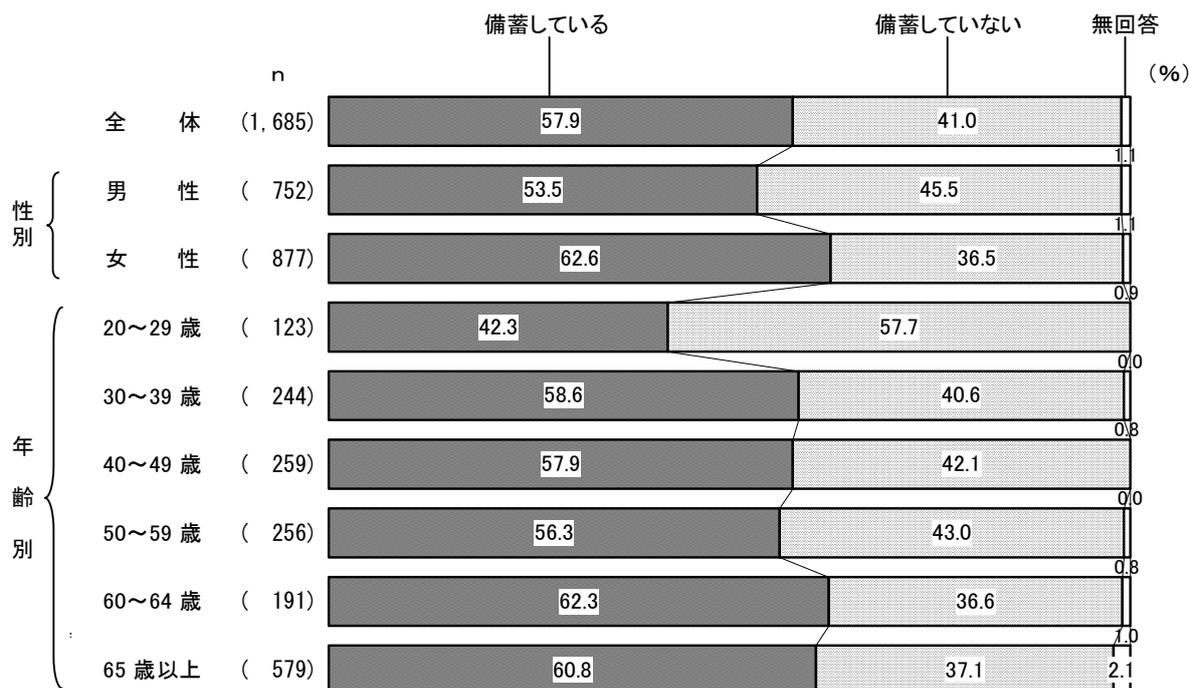
図8-7-2 【飲料水】



食料を備蓄しているかを聞いたところ、「備蓄している」は6割近く (57.9%)、「備蓄していない」は4割強 (41.0%) となっている。(図8-7-1)

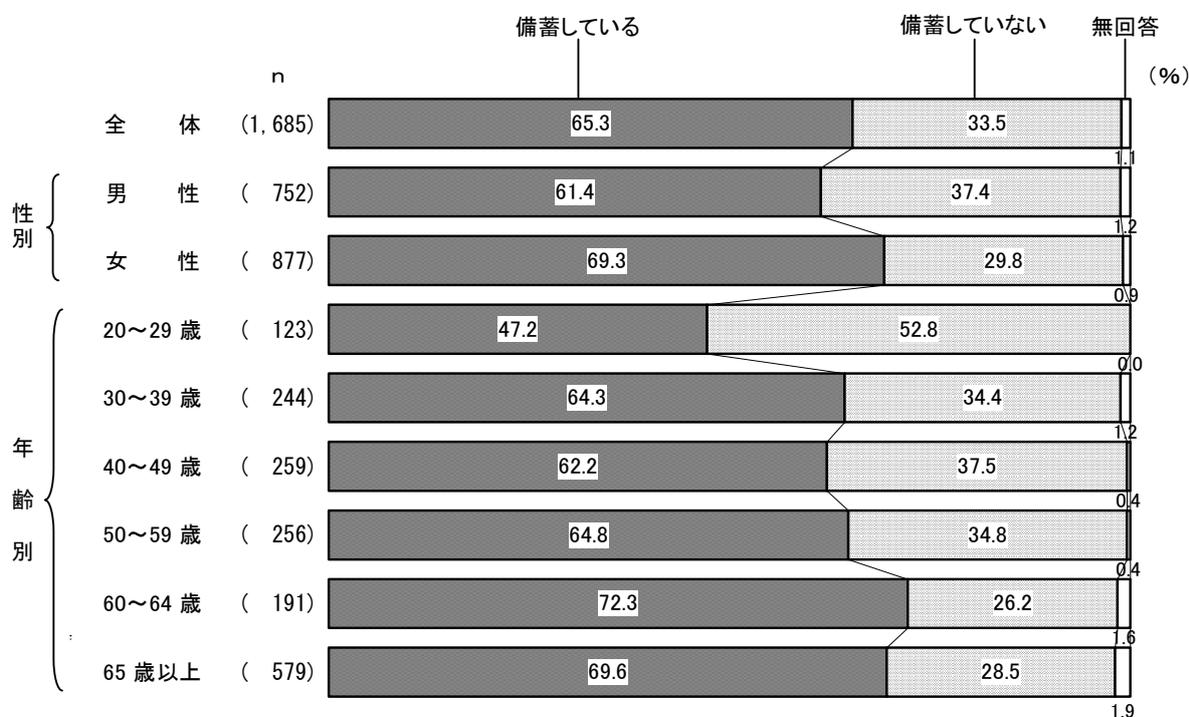
飲料水を備蓄しているかを聞いたところ、「備蓄している」は6割台半ば (65.3%)、「備蓄していない」は3割強 (33.5%) となっている。(図8-7-2)

図 8-7-3 食料・飲料水の備蓄の有無—性別・年齢別 【食料】



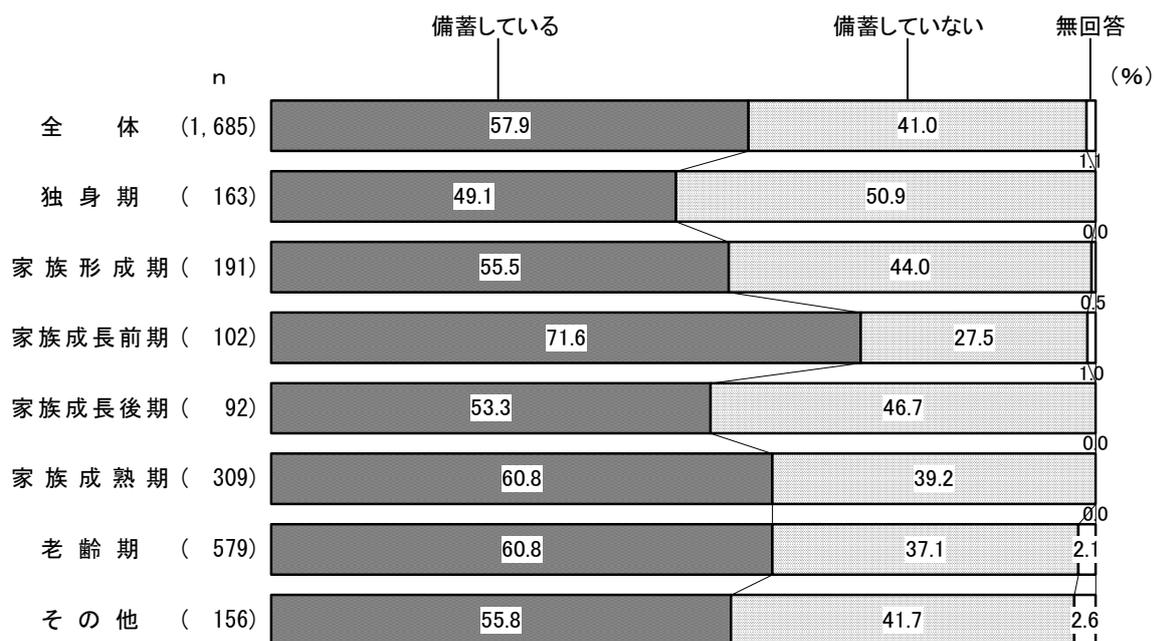
性別にみると、食料を「備蓄している」は女性が9.1ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「備蓄している」は60~64歳で6割強（62.3%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は20~29歳で6割近く（57.7%）と高くなっている。（図8-7-3）

図 8-7-4 食料・飲料水の備蓄の有無—性別・年齢別 【飲料水】



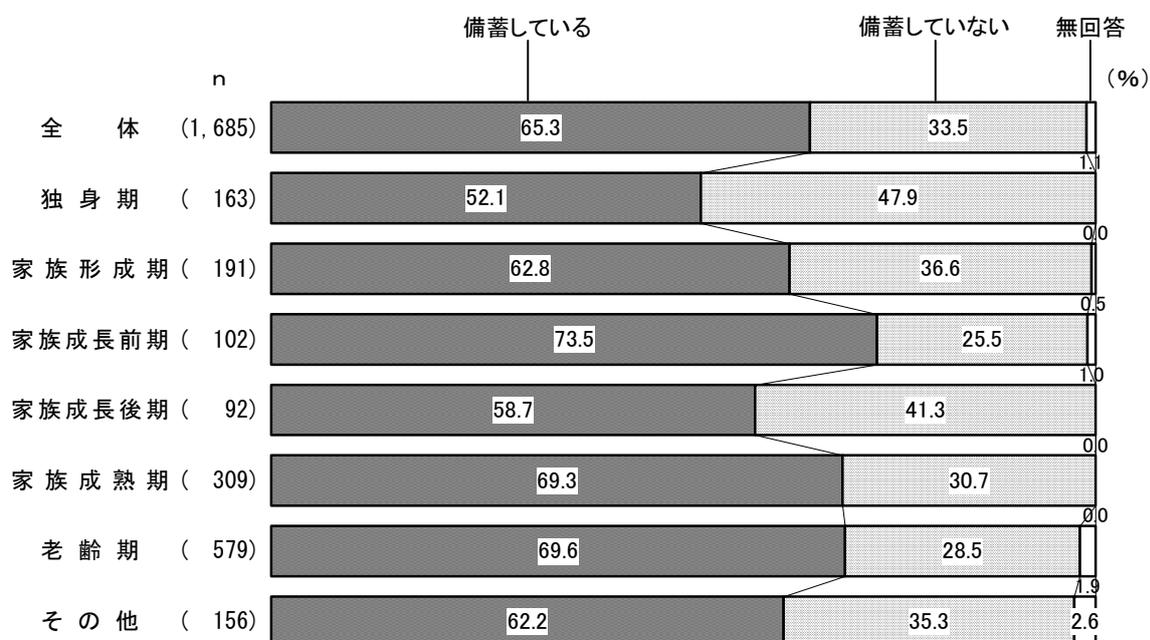
性別にみると、飲料水を「備蓄している」は女性が7.9ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「備蓄している」は60~64歳で7割強（72.3%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は20~29歳で5割強（52.8%）と高くなっている。（図8-7-4）

図8-7-5 食料・飲料水の備蓄の有無－ライフステージ（集約型）別 【食料】



ライフステージ（集約型）別にみると、食料を「備蓄している」は家族成長前期で7割強（71.6%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期で約5割（50.9%）と高くなっている。（図8-7-5）

図8-7-6 食料・飲料水の備蓄の有無－ライフステージ（集約型）別 【飲料水】



ライフステージ（集約型）別にみると、飲料水を「備蓄している」は家族成長前期で7割強（73.5%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期で5割近く（47.9%）と高くなっている。（図8-7-6）

8-8 食料・飲料水の備蓄量

- ◇【食料】「3日」が4割台半ば
【飲料水】「3日」が4割近く

(食料を「備蓄している」とお答えの方に)

問30-1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

(飲料水を「備蓄している」とお答えの方に)

問30-3 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

図8-8-1 【食料】

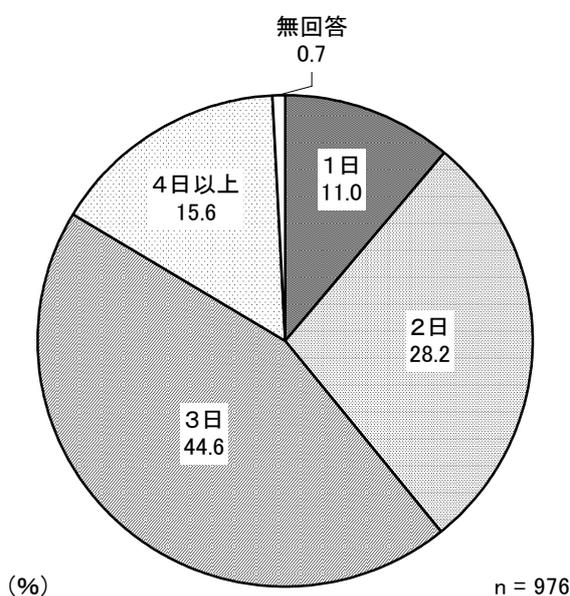
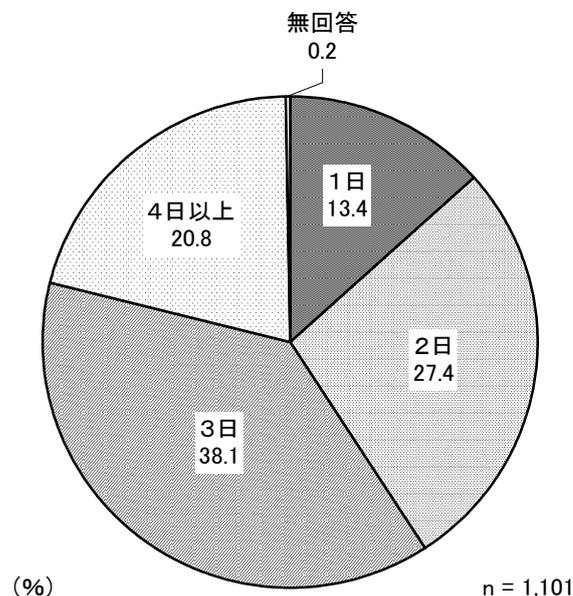


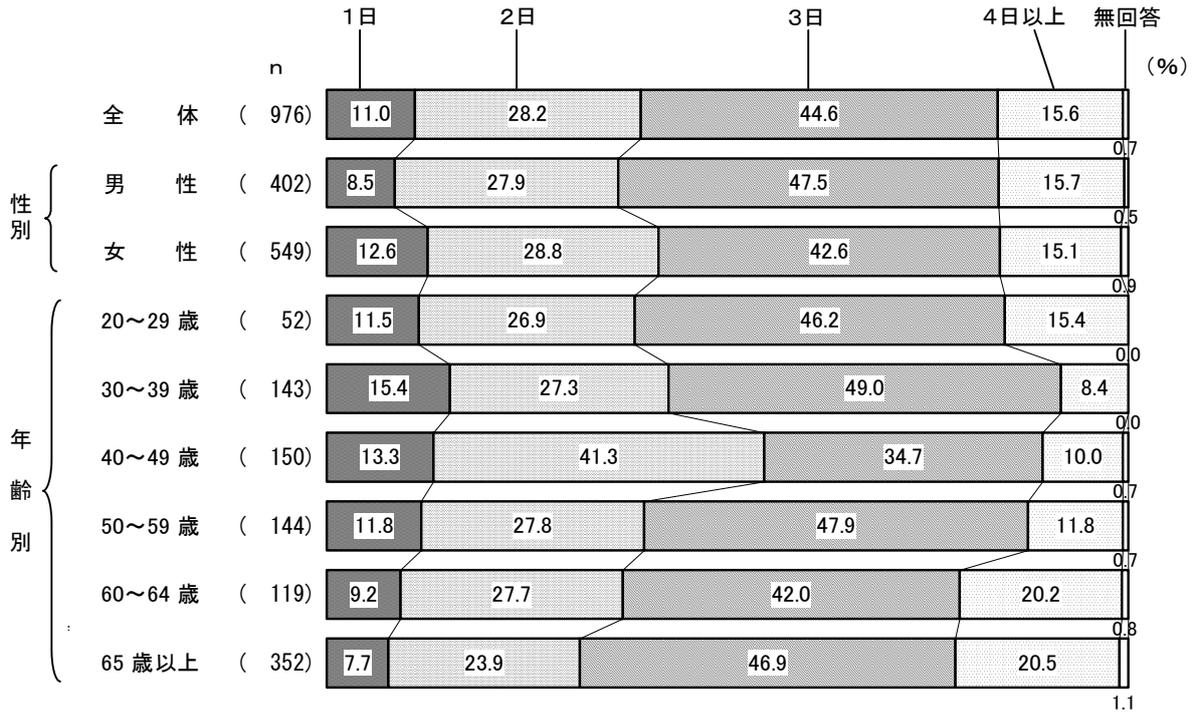
図8-8-2 【飲料水】



食料の備蓄の有無で、「備蓄している」と答えた人(976人)に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」が4割台半ば(44.6%)と最も高く、次いで「2日」(28.2%)、「4日以上」(15.6%)、「1日」(11.0%)と続いている。(図8-8-1)

飲料水の備蓄の有無で、「備蓄している」と答えた人(1,101人)に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」が4割近く(38.1%)と最も高く、次いで「2日」(27.4%)、「4日以上」(20.8%)、「1日」(13.4%)と続いている。(図8-8-2)

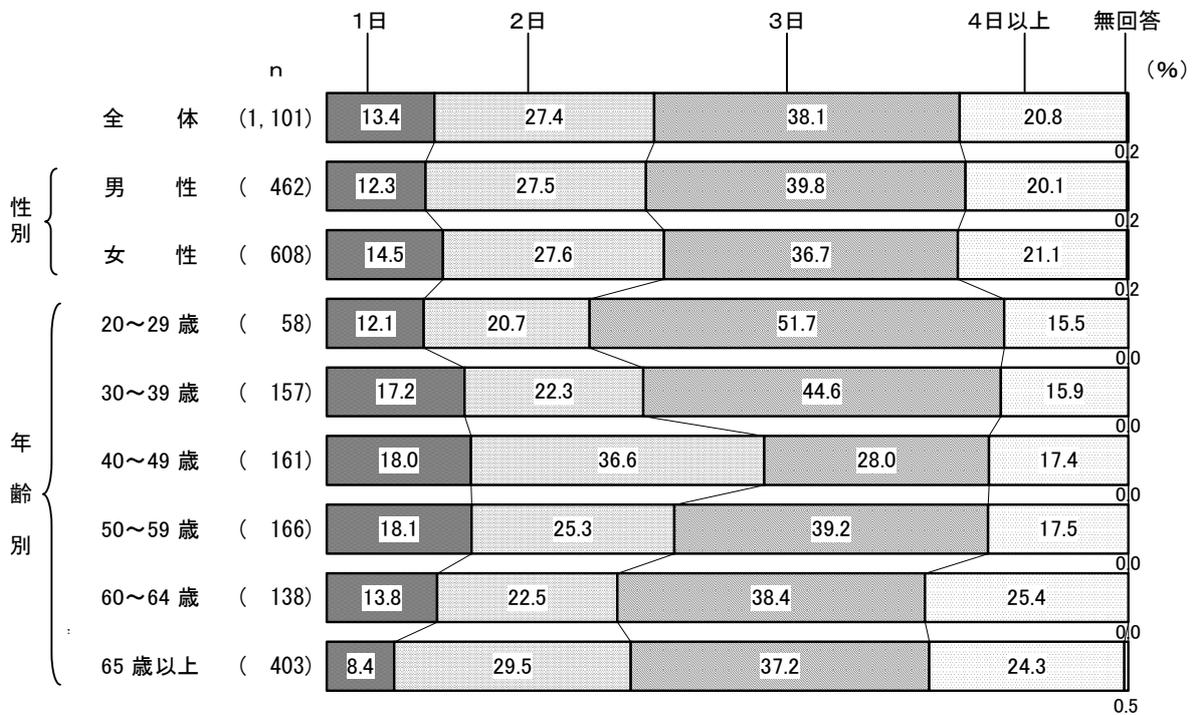
図 8-8-3 食料・飲料水の備蓄量—性別・年齢別 【食料】



性別にみると、「3日」は男性が4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「2日」は40~49歳で4割強（41.3%）と高くなっている。（図8-8-3）

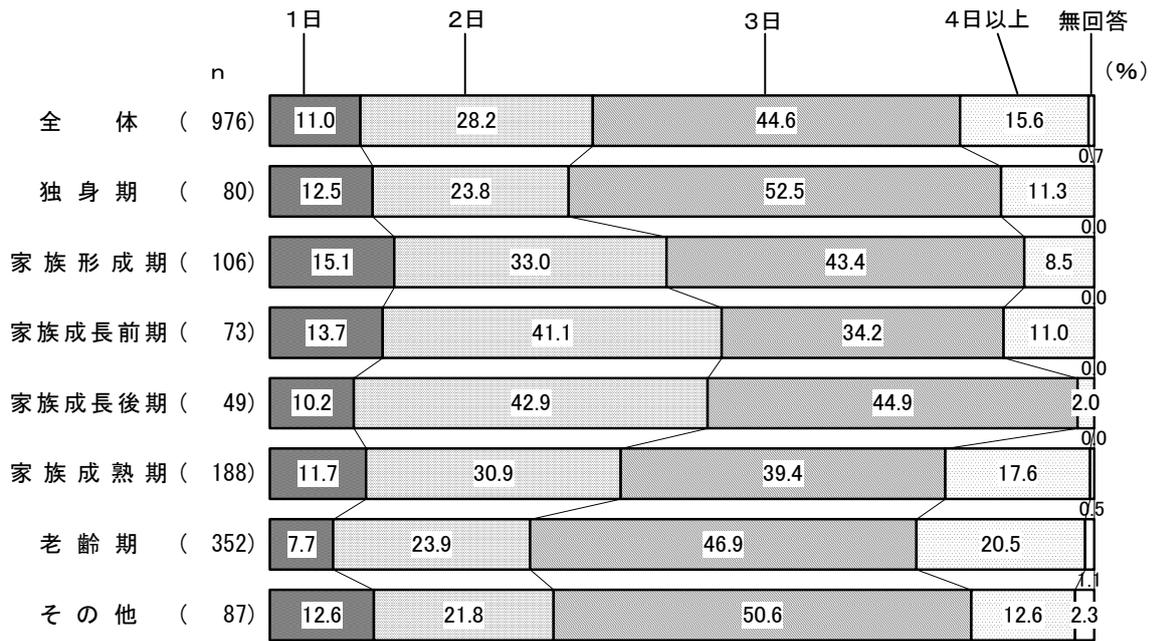
図 8-8-4 食料・飲料水の備蓄量—性別・年齢別 【飲料水】



性別にみると、「3日」は男性が3.1ポイント高くなっている。

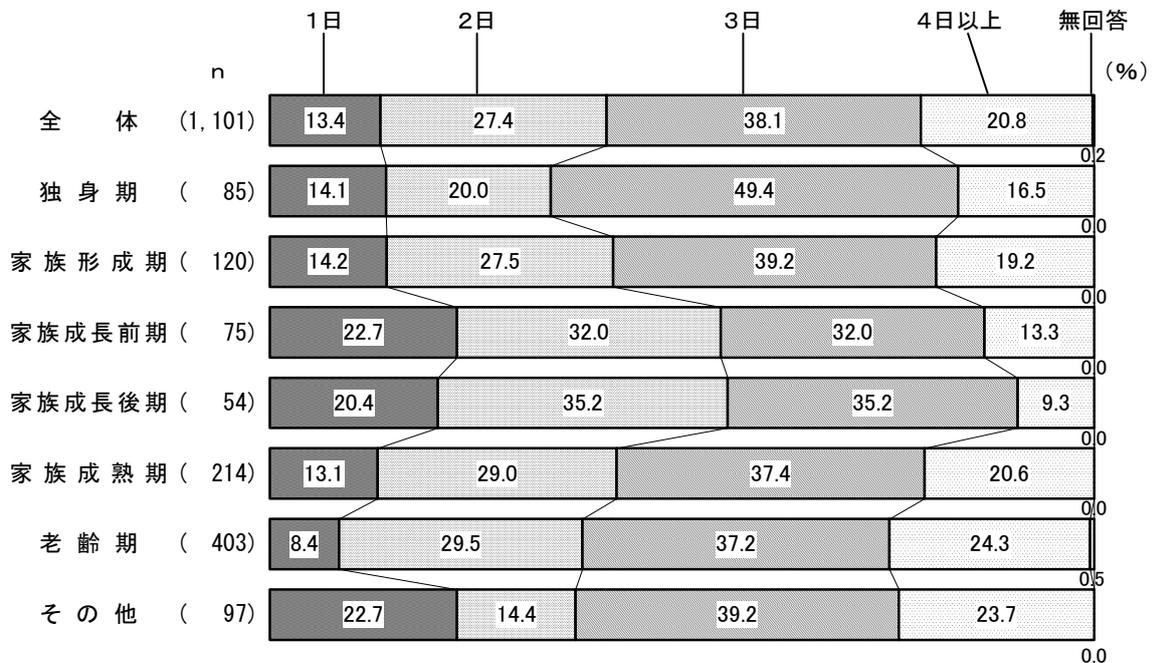
年齢別にみると、「3日」は20~29歳で5割強（51.7%）と高くなっている。（図8-8-4）

図8-8-5 食料・飲料水の備蓄量－ライフステージ（集約型）別 【食料】



ライフステージ（集約型）別にみると、「3日」は独身期で5割強（52.5%）と高くなっている。また、「2日」は家族成長後期（42.9%）と家族成長前期（41.1%）で4割強と高くなっている。（図8-8-5）

図8-8-6 食料・飲料水の備蓄量－ライフステージ（集約型）別 【飲料水】



ライフステージ（集約型）別にみると、「3日」は独身期で5割弱（49.4%）と高くなっている。また、「2日」は家族成長後期で3割台半ば（35.2%）と高くなっている。（図8-8-6）

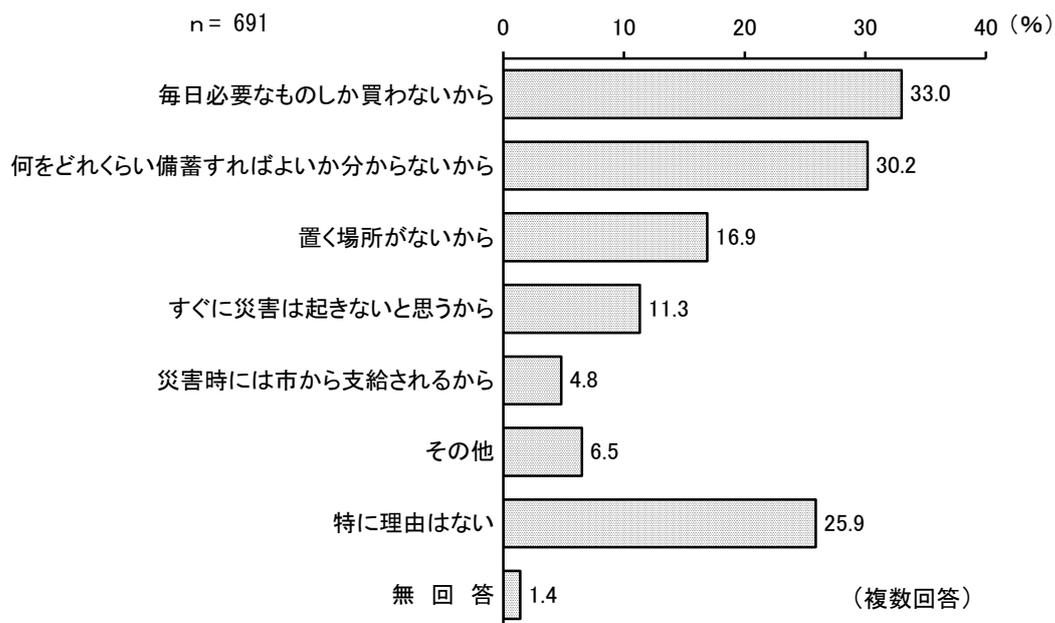
8-9 食料・飲料水を備蓄していない理由

◇【食料】「毎日必要なものしか買わないから」が3割強

(食料を「備蓄していない」とお答えの方に)

問30-2 備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図8-9-1 【食料】



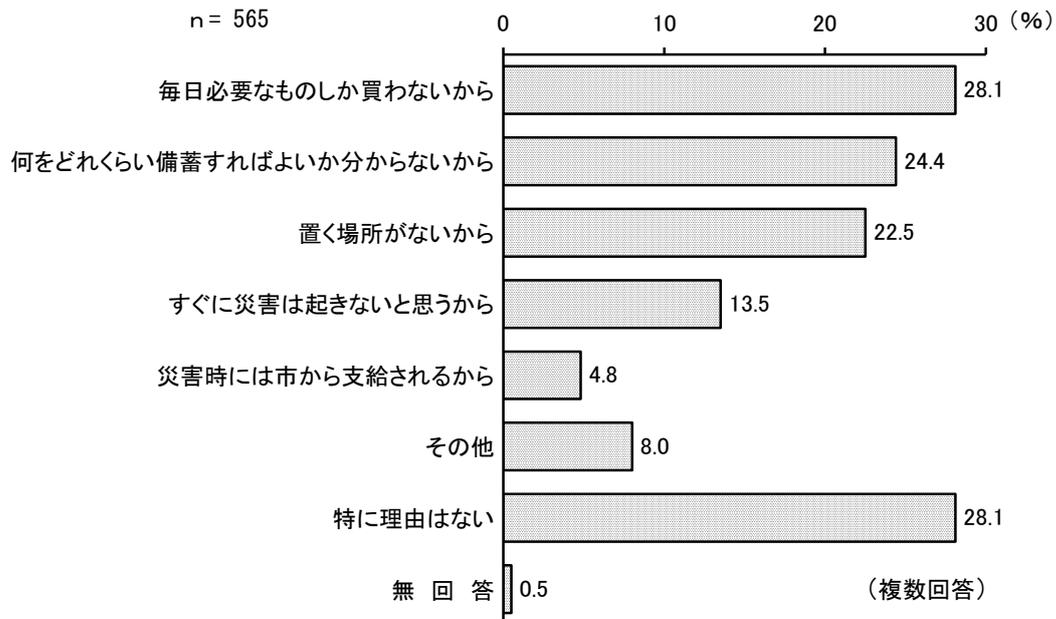
食料の備蓄の有無で、「備蓄していない」と答えた人(691人)に、備蓄していない理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」が3割強(33.0%)と高く、次いで「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」(30.2%)、「置く場所がないから」(16.9%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(11.3%)と続いている。(図8-9-1)

◇【飲料水】「毎日必要なものしか買わないから」が3割近く

(飲料水を「備蓄していない」とお答えの方に)

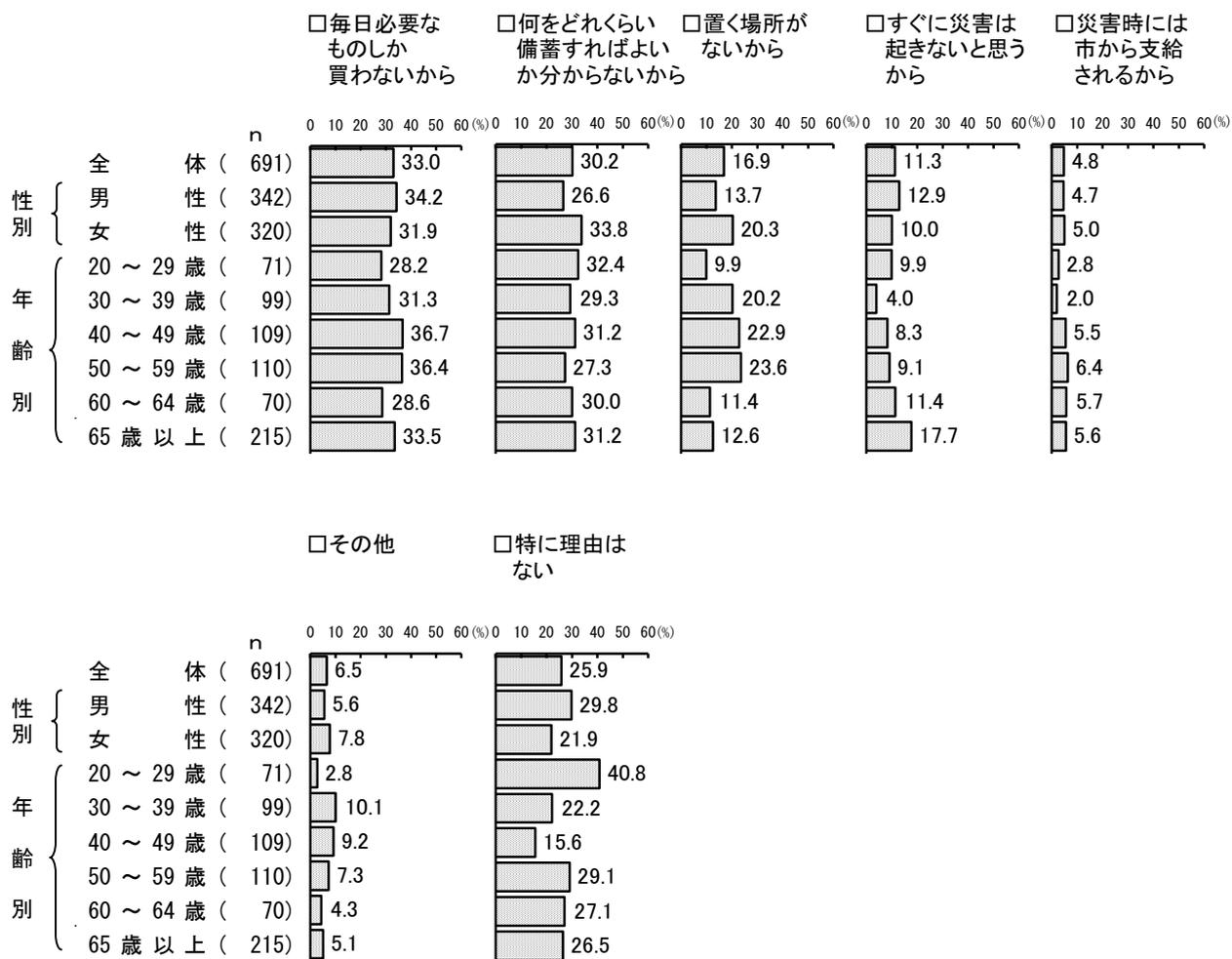
問30-4 備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図8-9-2 【飲料水】



飲料水の備蓄の有無で、「備蓄していない」と答えた人(565人)に、備蓄していない理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」が3割近く(28.1%)と高く、次いで「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」(24.4%)、「置く場所がないから」(22.5%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(13.5%)と続いている。(図8-9-2)

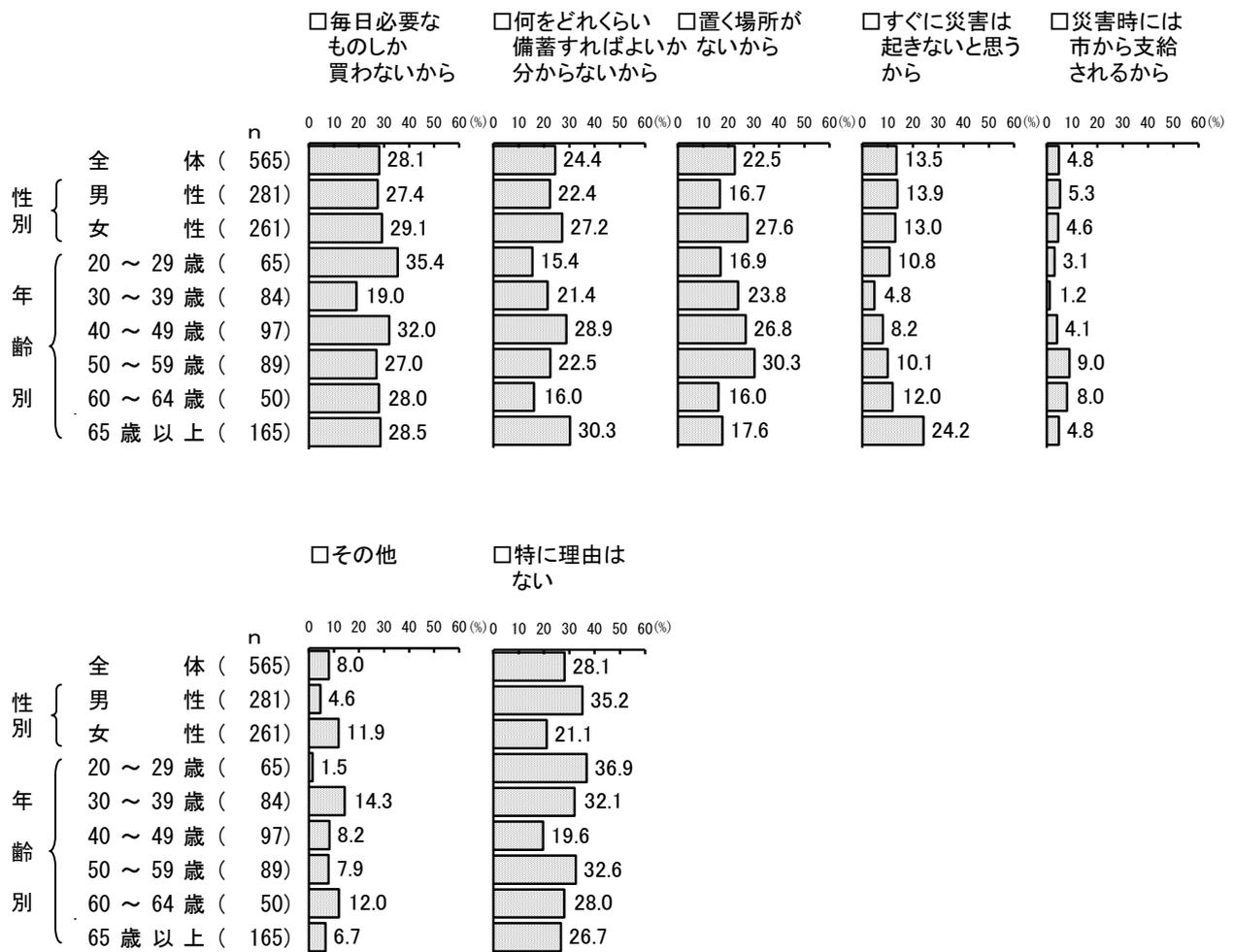
図8-9-3 食料・飲料水を備蓄していない理由—性別・年齢別 【食料】



性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は7.2ポイント、「置く場所がないから」は6.6ポイント、それぞれ女性が高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性が7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「置く場所がないから」は30～39歳（20.2%）、40～49歳（22.9%）、50～59歳（23.6%）で2割台と高くなっている。また、「特に理由はない」は20～29歳で約4割（40.8%）と高くなっている。（図8-9-3）

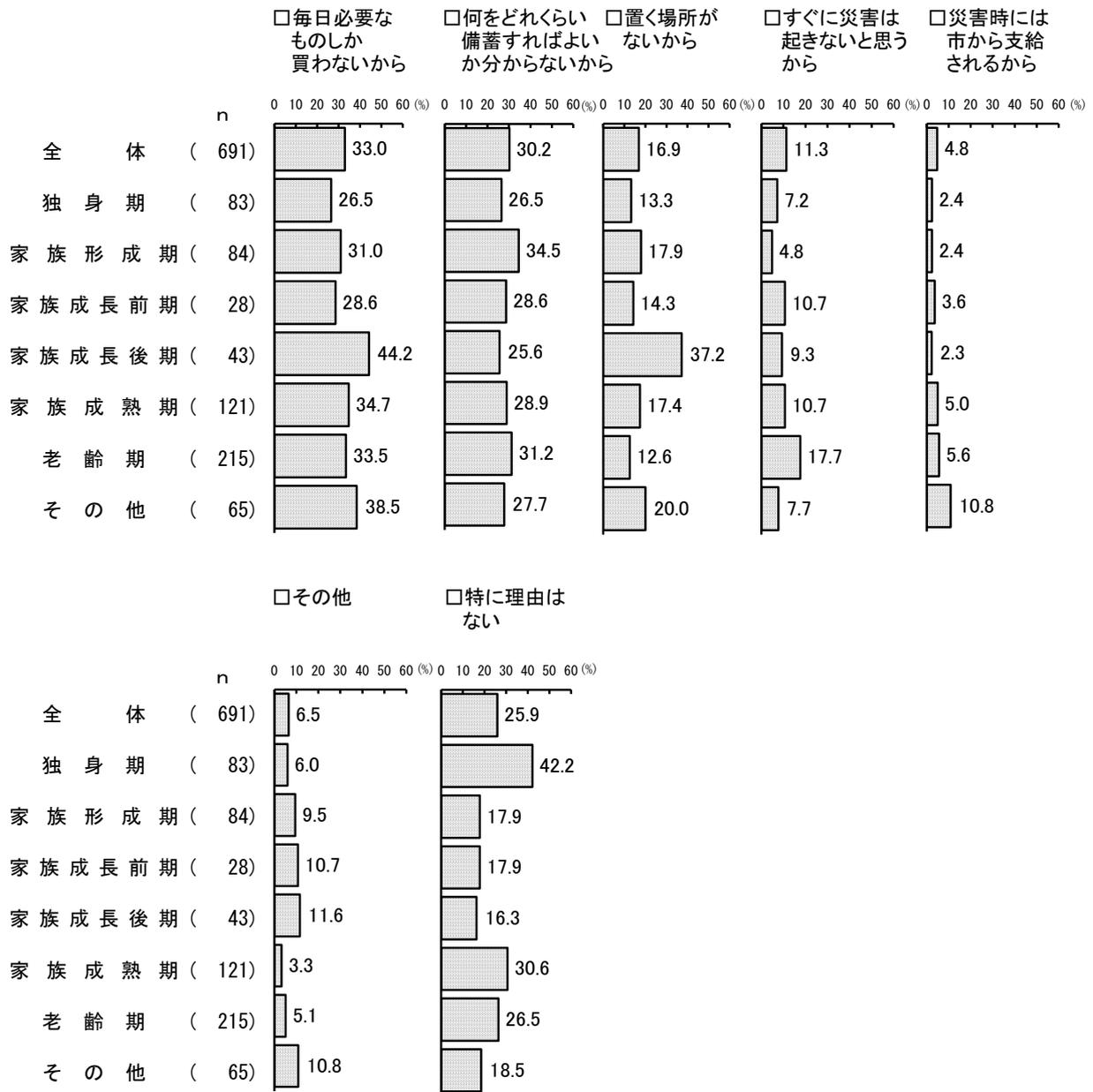
図8-9-4 食料・飲料水を備蓄していない理由—性別・年齢別 【飲料水】



性別にみると、「置く場所がないから」は女性が10.9ポイント高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性が14.1ポイント高くなっている。

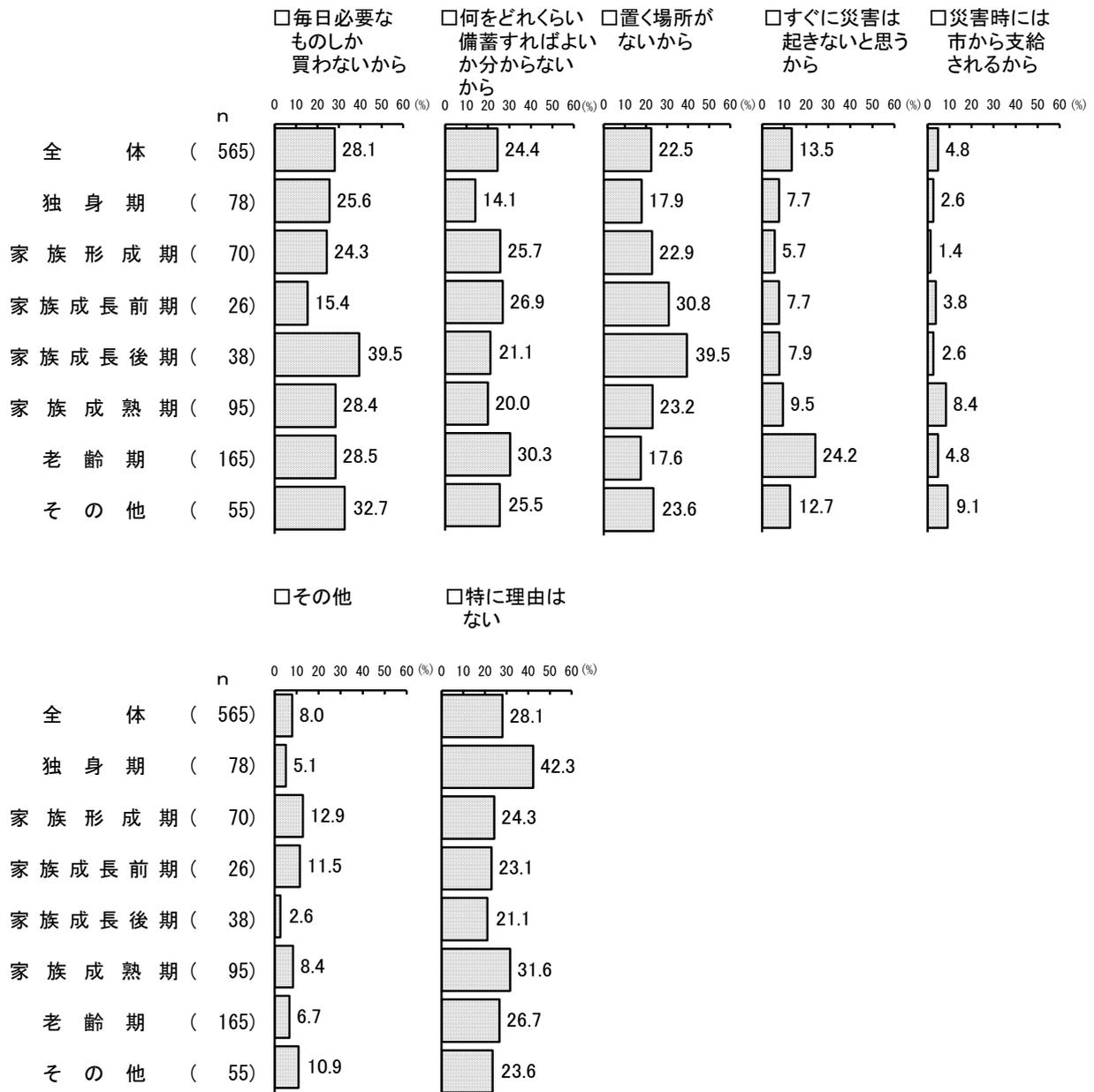
年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は20～29歳で3割台半ば（35.4%）と高くなっている。また、「すぐに災害は起きないと思うから」は65歳以上で2割台半ば（24.2%）と高くなっている。（図8-9-4）

図8-9-5 食料・飲料水を備蓄していない理由—ライフステージ（集約型）別 【食料】



ライフステージ（集約型）別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族成長後期で4割台半ば（44.2%）と高く、「置く場所がないから」でも4割近く（37.2%）と高くなっている。（図8-9-5）

図8-9-6 食料・飲料水を備蓄していない理由—ライフステージ（集約型）別 【飲料水】



ライフステージ（集約型）別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族成長後期で4割弱（39.5%）と高く、「置く場所がないから」でも4割弱（39.5%）と高くなっている。また、「すぐに災害は起きないと思うから」は老齢期で2割台半ば（24.2%）と高くなっている。

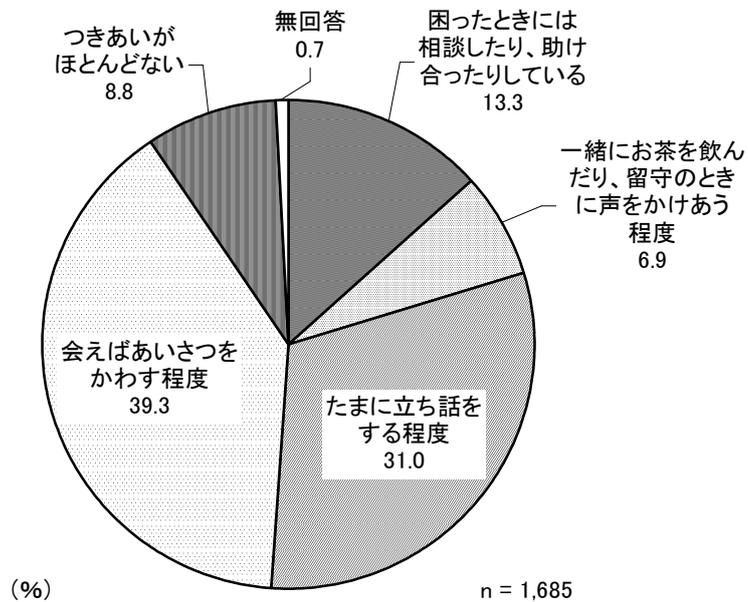
(図8-9-6)

8-10 隣近所とのつきあい方

◇「会えばあいさつをかわす程度」が4割弱

問31 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○は1つだけ)

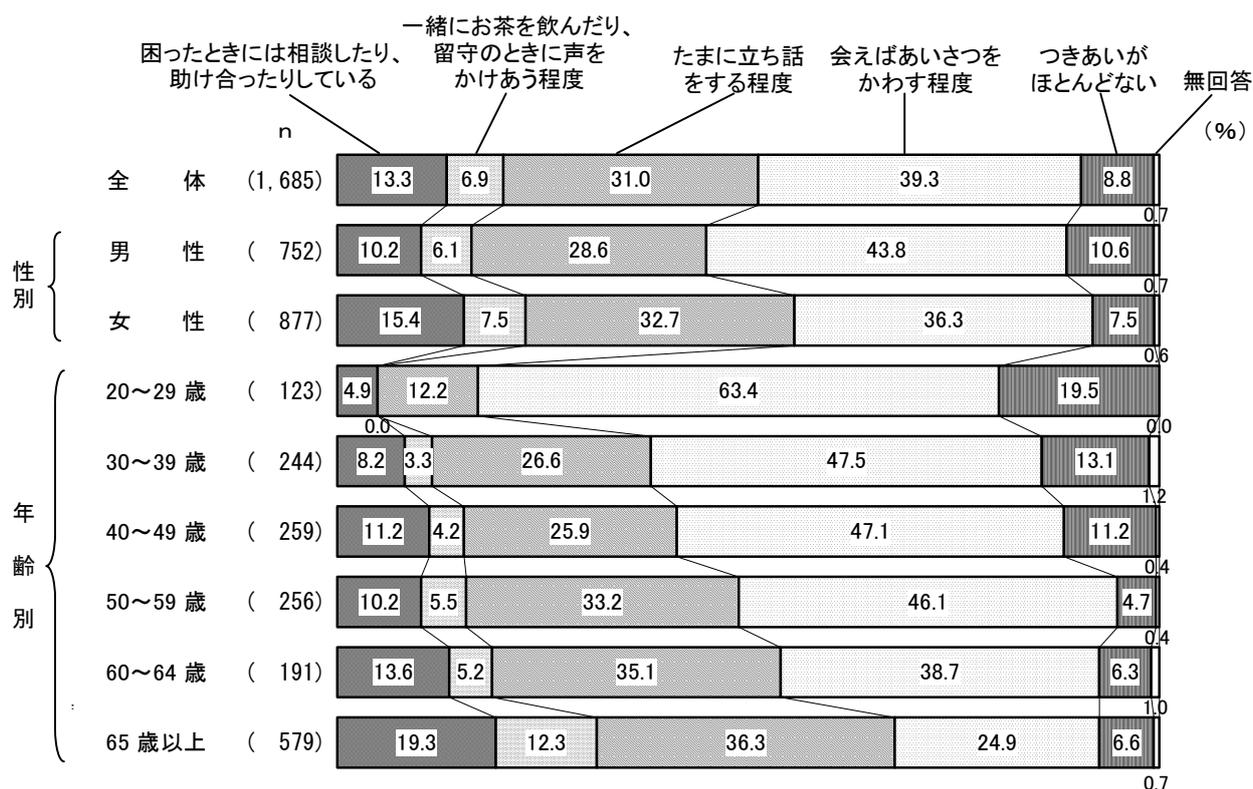
図8-10-1



日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているかを聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」が4割弱（39.3%）と最も高く、次いで「たまに立ち話をする程度」（31.0%）、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」（13.3%）、「つきあいがほとんどない」（8.8%）、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあう程度」（6.9%）と続いている。

(図8-10-1)

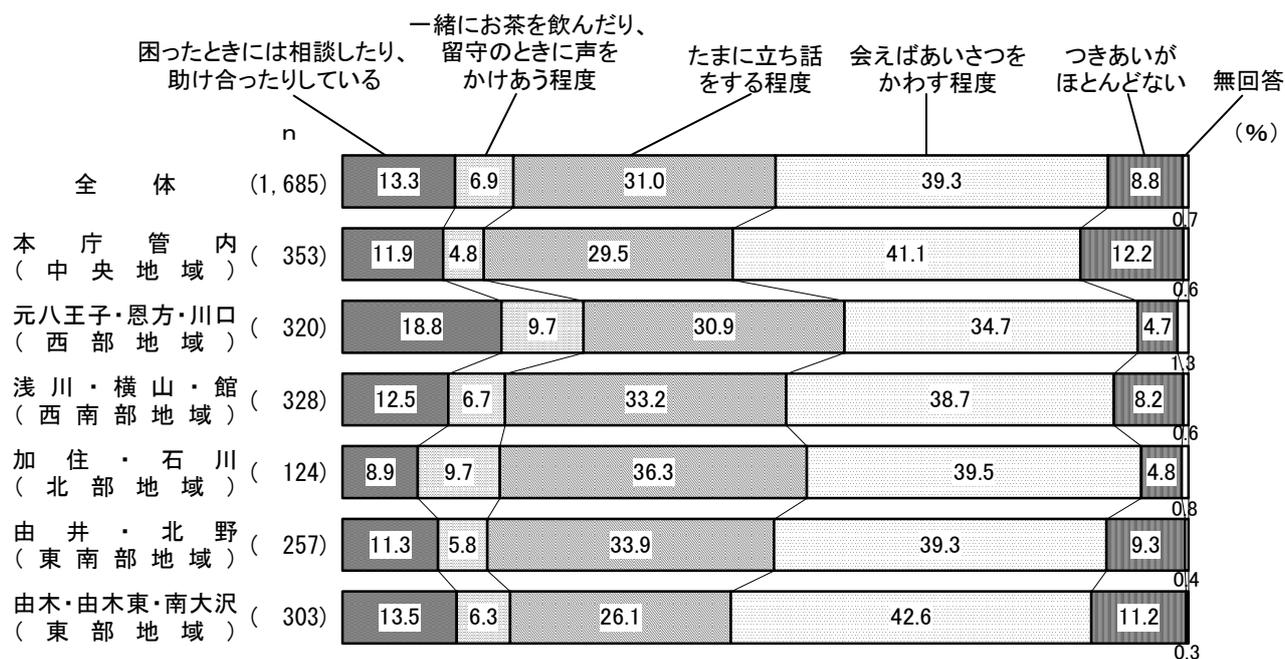
図8-10-2 隣近所とのつきあい方—性別・年齢別



性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性が7.5ポイント高くなっている。一方、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は女性が5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は年代が下がるにつれて割合が高く、特に20~29歳で6割強（63.4%）と高くなっている。また、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は65歳以上で2割弱（19.3%）と高くなっている。（図8-10-2）

図8-10-3 隣近所とのつきあい方—居住地域別



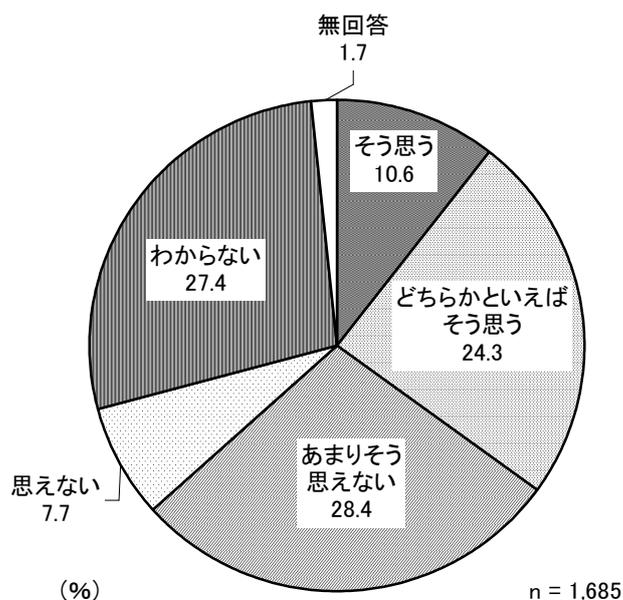
居住地域別にみると、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で2割近く（18.8%）と高くなっている。（図8-10-3）

8-11 地域と子どもたちのかかわりあい

◇ 《そう思う》が3割台半ば

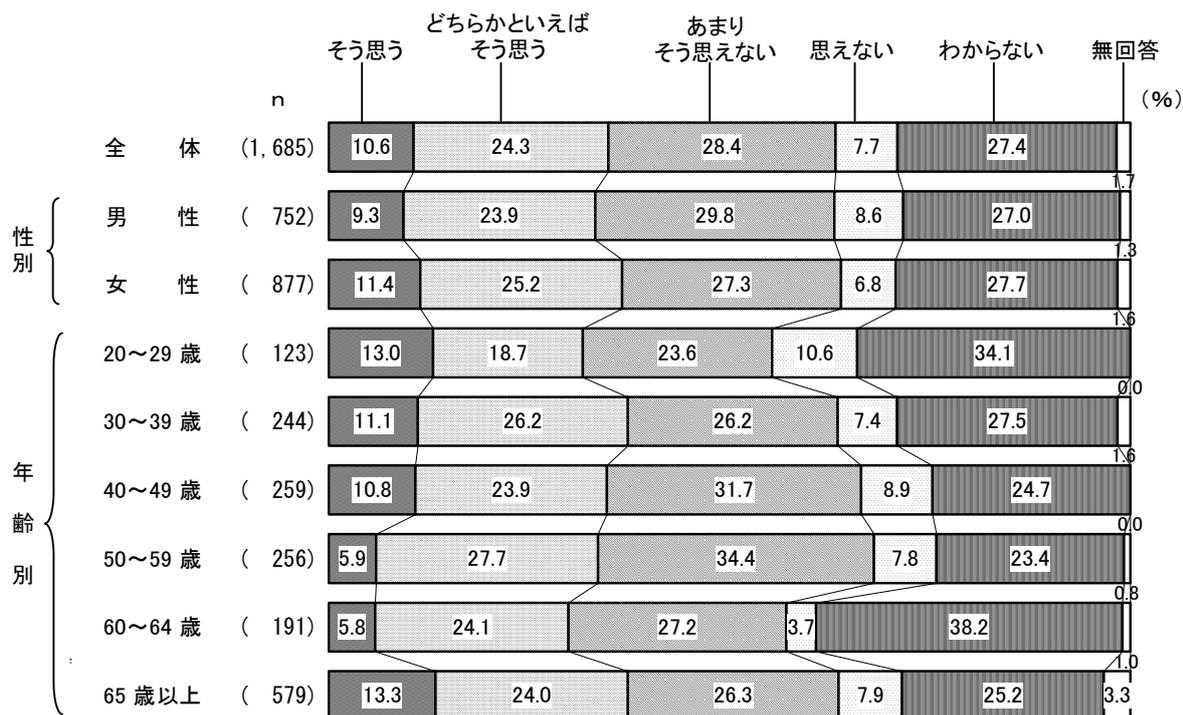
問32 あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(○は1つだけ)

図8-11-1



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うかを聞いたところ、「あまりそう思えない」が3割近く（28.4%）と最も高く、これに「思えない」（7.7%）を合わせた《思えない》は4割近く（36.1%）となっている。一方、「どちらかといえばそう思う」（24.3%）と「そう思う」（10.6%）を合わせた《そう思う》は3割台半ば（34.9%）となっている。（図8-11-1）

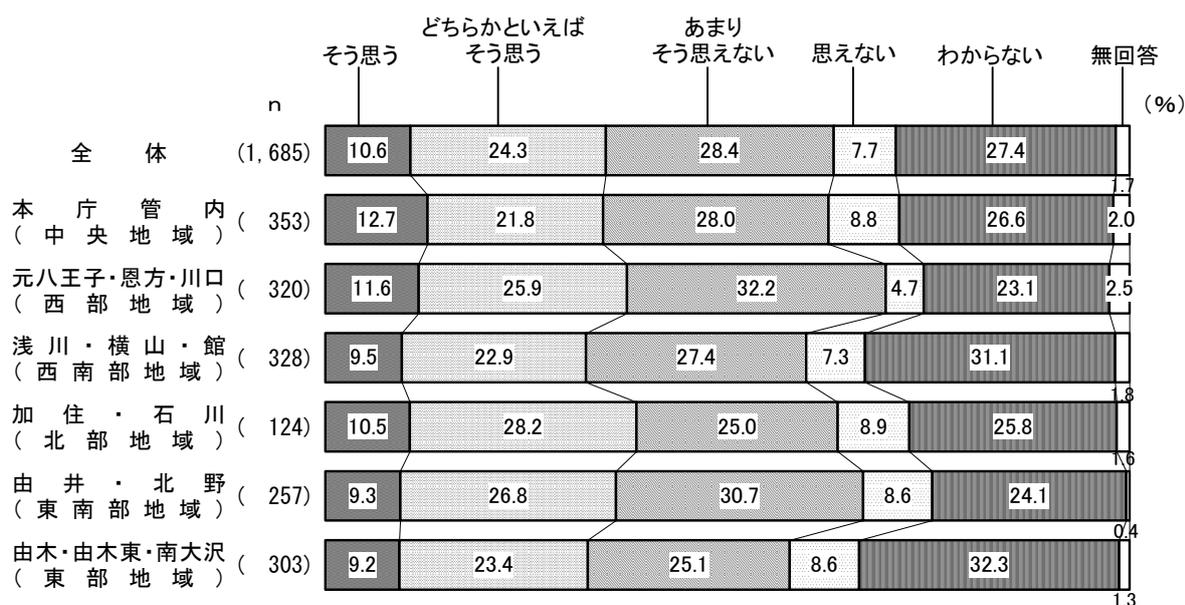
図 8-11-2 地域と子どもたちのかかわりあい—性別・年齢別



性別にみると、《思えない》は男性が4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は30~39歳と65歳以上でともに4割近く（37.3%）と高くなっている。一方、《思えない》は50~59歳で4割強（42.2%）と高くなっている。（図8-11-2）

図 8-11-3 地域と子どもたちのかかわりあい—居住地域別



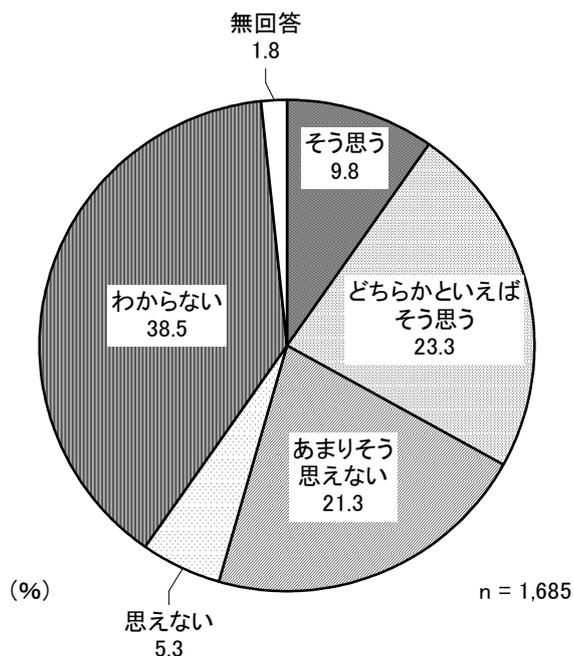
居住地域別にみると、《そう思う》は加住・石川（北部地域）で4割近く（38.7%）と高くなっている。一方、《思えない》は由井・北野（東南部地域）で4割弱（39.3%）と高くなっている。（図8-11-3）

8-12 地域と学校が協力して子どもたちを育てているか

◇《そう思う》が3割強

問33 あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思いますか。(〇は1つだけ)

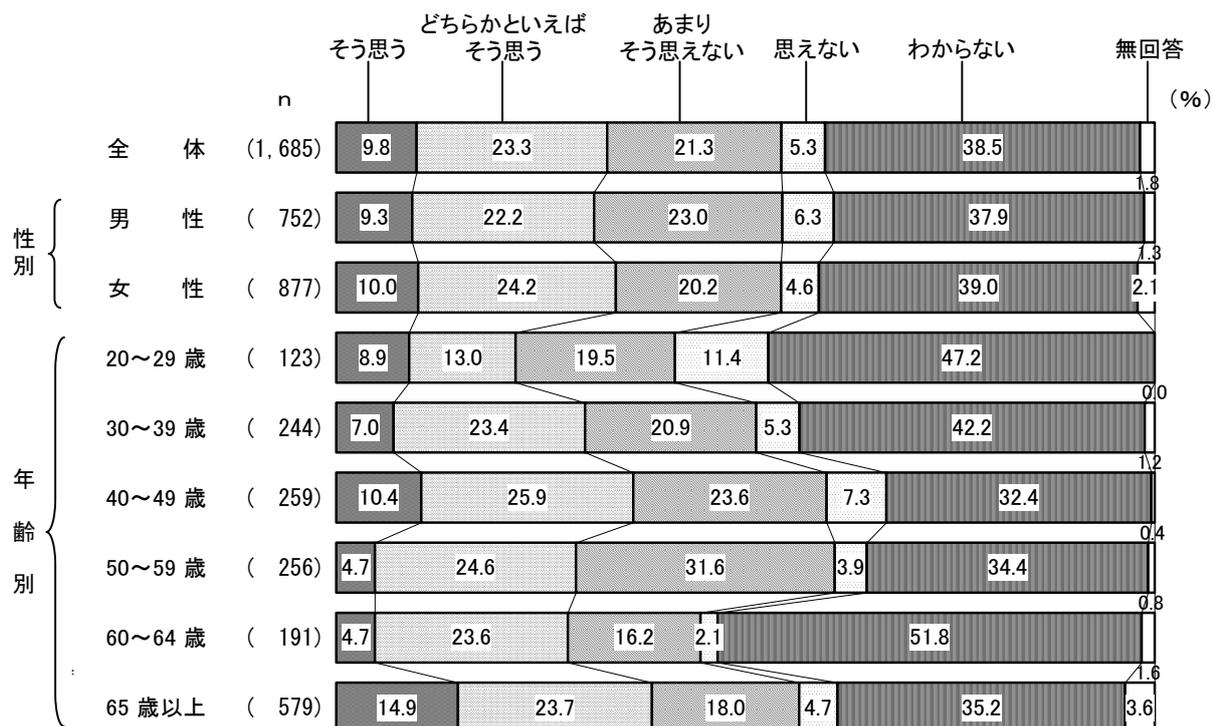
図8-12-1



地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が2割強（23.3%）と高く、これに「そう思う」（9.8%）を合わせた《そう思う》は3割強（33.1%）となっている。一方、「あまりそう思えない」（21.3%）と「思えない」（5.3%）を合わせた《思えない》は3割近く（26.6%）となっている。

(図8-12-1)

図8-12-2 地域と学校が協力して子どもたちを育てているかー性別・年齢別

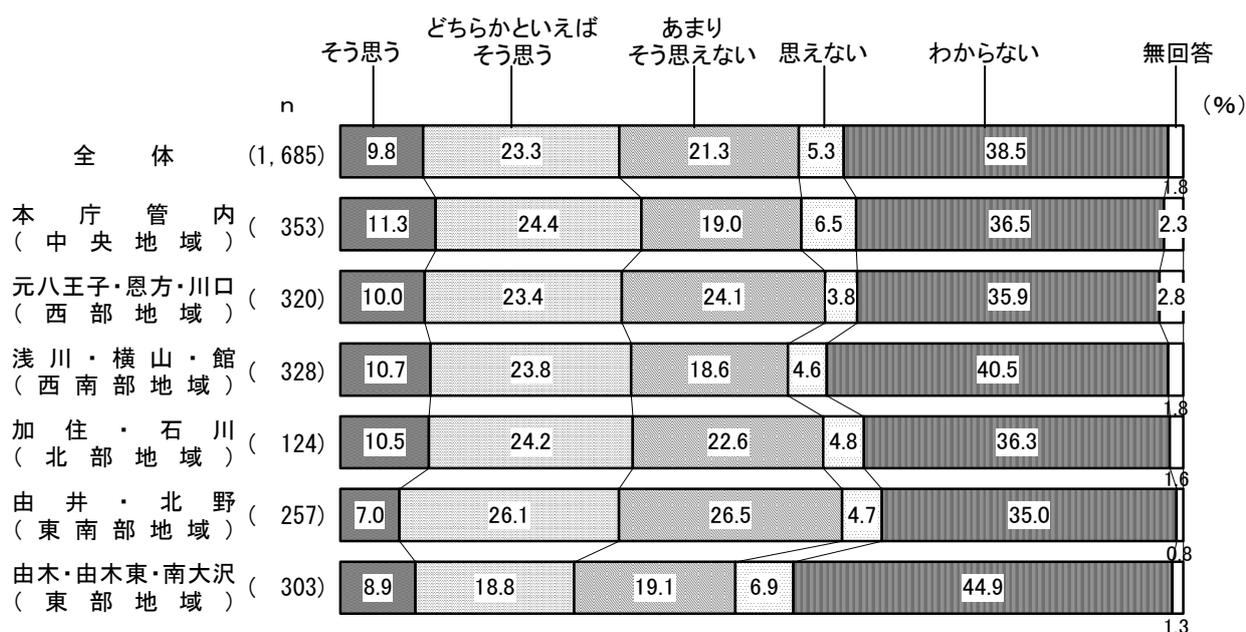


性別にみると、《思えない》は男性が4.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上で4割近く（38.6%）と高くなっている。

(図8-12-2)

図8-12-3 地域と学校が協力して子どもたちを育てているかー居住地域別



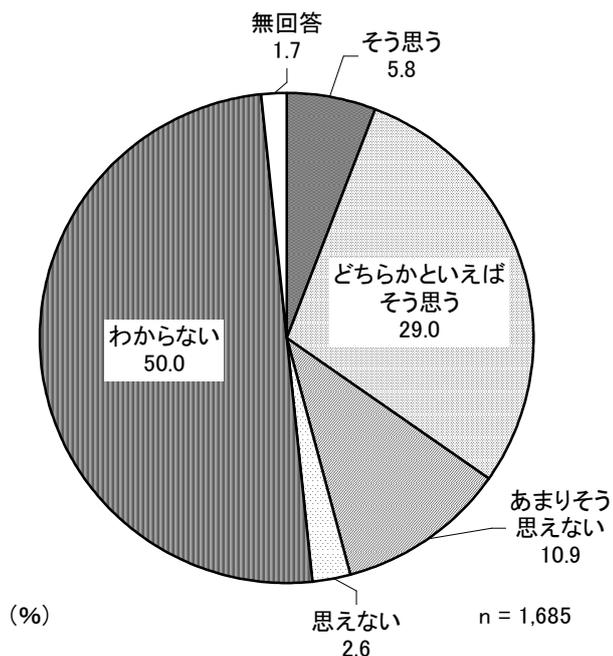
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）を除くすべての地域で3割台となっている。(図8-12-3)

8-13 市などの支援による子育ての状況

◇ 《そう思う》が3割台半ば

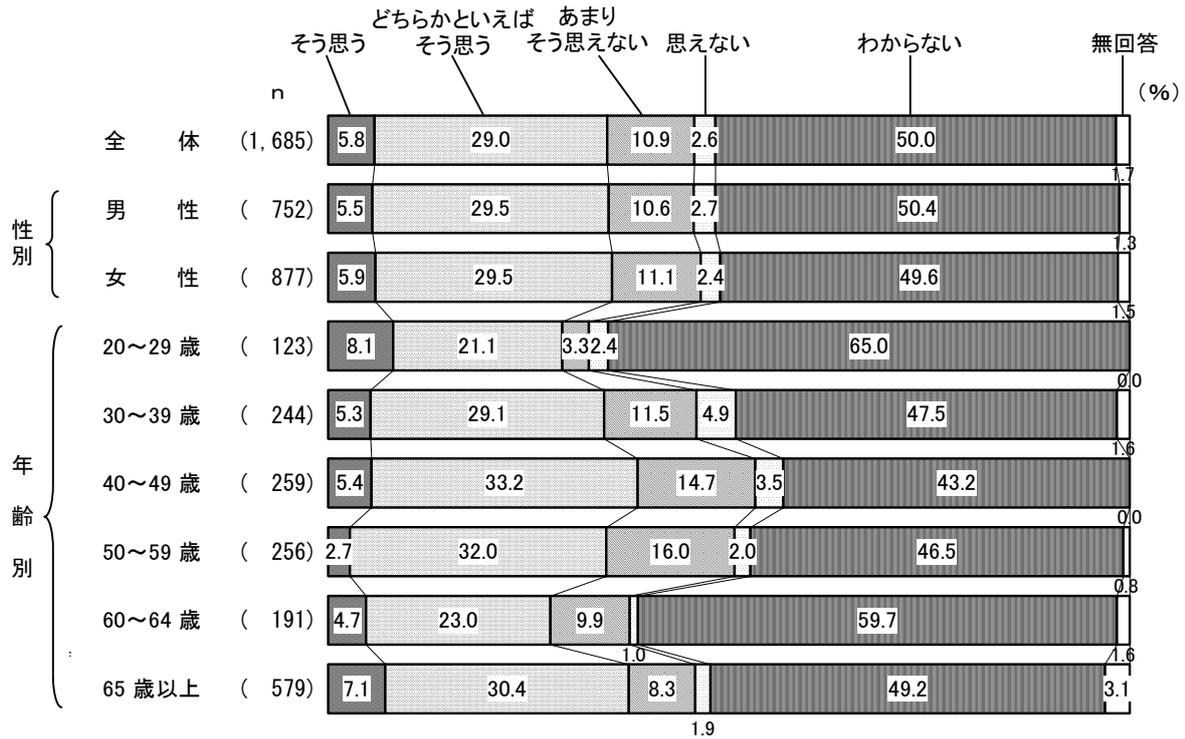
問34 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図8-13-1



市などの様々な支援により、安心して子育てができていますかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が3割弱(29.0%)と高く、これに「そう思う」(5.8%)を合わせた《そう思う》は3割台半ば(34.8%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(10.9%)と「思えない」(2.6%)を合わせた《思えない》は1割強(13.5%)となっている。(図8-13-1)

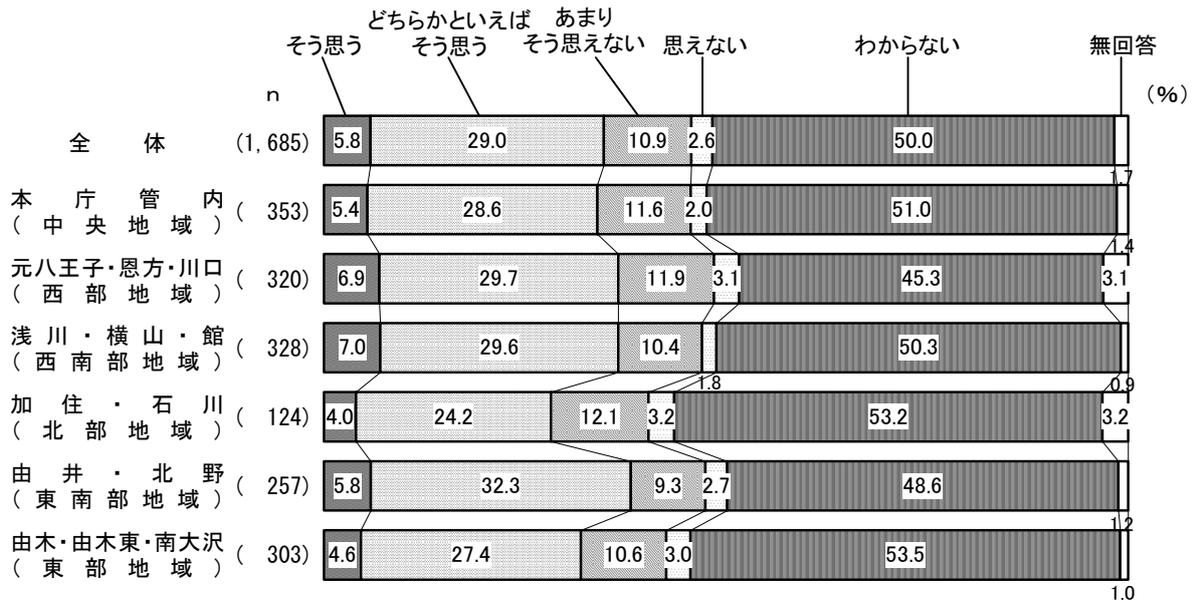
図 8-13-2 市などの支援による子育ての状況—性別・年齢別



性別にみると、大きな違いはみられない。

年齢別にみると、《そう思う》は40~49歳（38.6%）と65歳以上（37.5%）で4割近くと高くなっている。（図8-13-2）

図 8-13-3 市などの支援による子育ての状況—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）で4割近く（38.1%）と高くなっている。（図8-13-3）

8-14 市民協働の推進状況

◇《そう思う》が5割

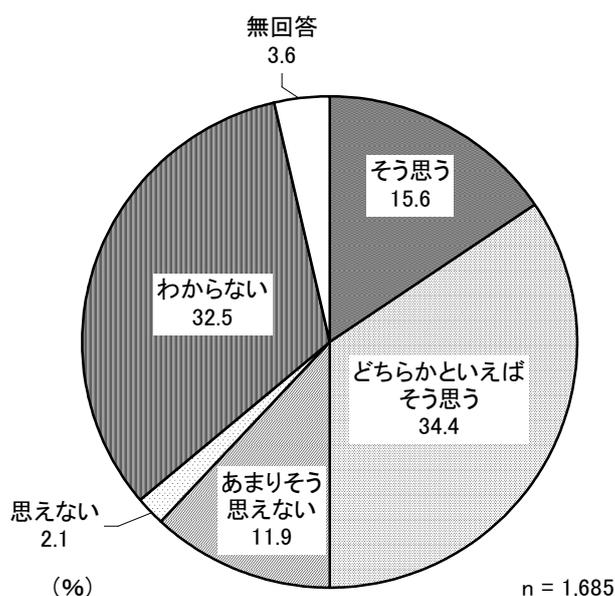
問35 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。

(○は1つだけ)

※市民協働の活動とは・・・

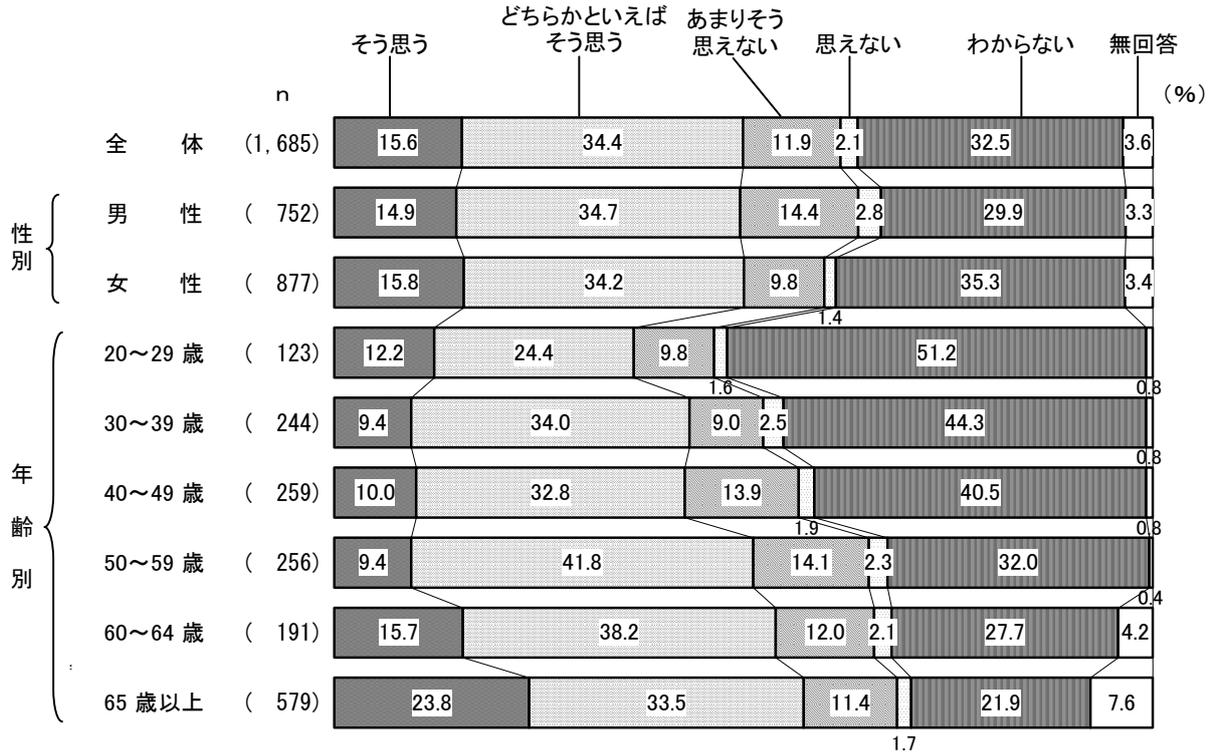
- 八王子まつり、いちょう祭りなどへの支援や協力、また環境フェスティバルなどのイベントを市民と協力して開催
- 町会等が行う防犯・防災活動や環境美化活動などに対する支援や協力
- 公園や道路の維持活動(清掃や除草などのボランティア活動)を地域の住民の方に担っていただくアドプト制度の運営
- 各種審議会や市の計画策定に際して参加いただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント(意見公募)の実施 など

図8-14-1



市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が3割台半ば(34.4%)と高く、これに「そう思う」(15.6%)を合わせた《そう思う》は5割(50.0%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(11.9%)と「思えない」(2.1%)を合わせた《思えない》は1割台半ば(14.0%)となっている。(図8-14-1)

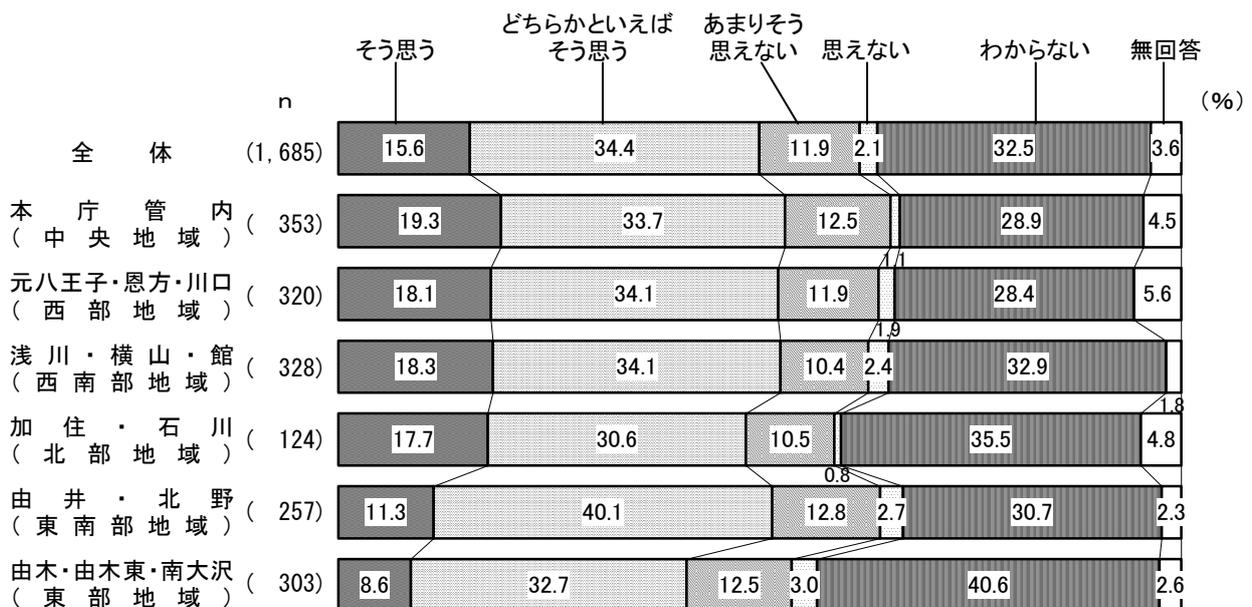
図8-14-2 市民協働の推進状況－性別・年齢別



性別にみると、「思えない」は男性が6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で6割近く（57.3%）と高くなっている。（図8-14-2）

図8-14-3 市民協働の推進状況－居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）を除くすべての地域で5割前後となっている。（図8-14-3）

8-15 この1年間の文化活動への参加・鑑賞頻度

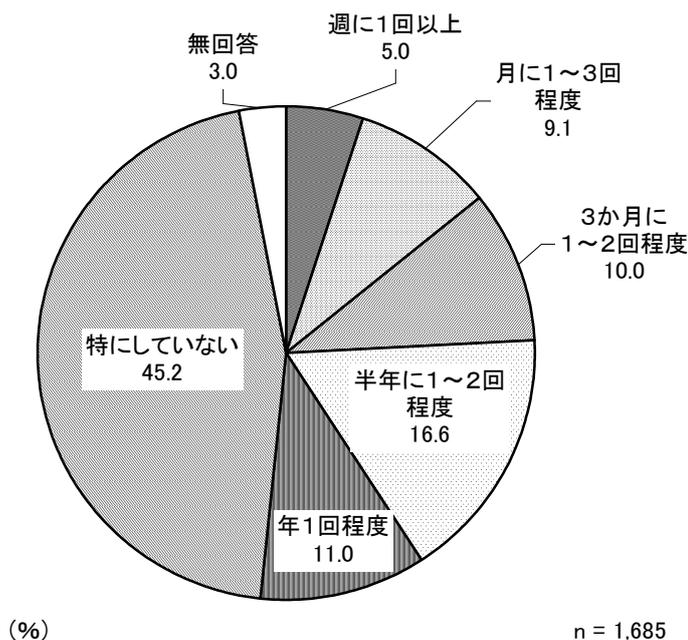
◇「半年に1～2回程度」が2割近く

問36 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で文化活動に参加または鑑（観）賞しましたか。（○は1つだけ）

※文化活動とは・・・

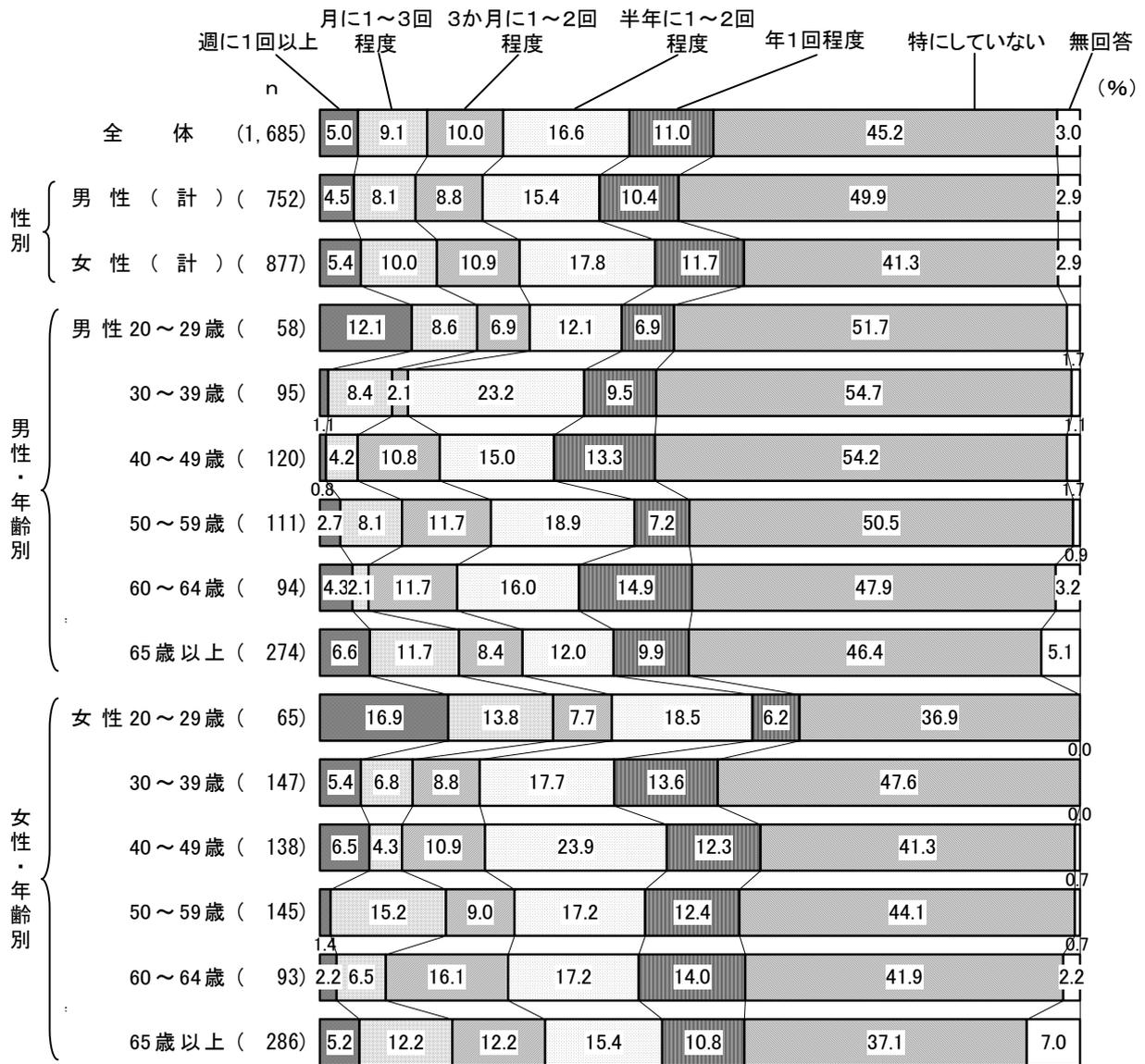
- 音楽（クラシック、ポピュラー、演歌など）
- 美術（絵画、彫刻、工芸など）
- 写真
- 芸能（講談、落語、漫才など）
- 演劇（ミュージカル含む）
- 舞踊（バレエ、ダンスなど）
- 文学（小説、詩、俳句、短歌など）
- メディア芸術
（映画、漫画、アニメーションなど）
- 伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽など）
- 生活文化（茶道、華道、書道など）
- 国民娯楽（囲碁、将棋など）
- 文化財巡り（寺社、史跡など）などです

図 8-15-1



この1年間にどのくらいの頻度で文化活動に参加または鑑（観）賞したかを聞いたところ、文化活動に参加または鑑（観）賞した中では、「半年に1～2回程度」が2割近く（16.6%）と高く、次いで「年1回程度」（11.0%）、「3か月に1～2回程度」（10.0%）、「月に1～3回程度」（9.1%）、「週に1回以上」（5.0%）と続いている。一方、「特にしていない」は4割台半ば（45.2%）となっている。（図8-15-1）

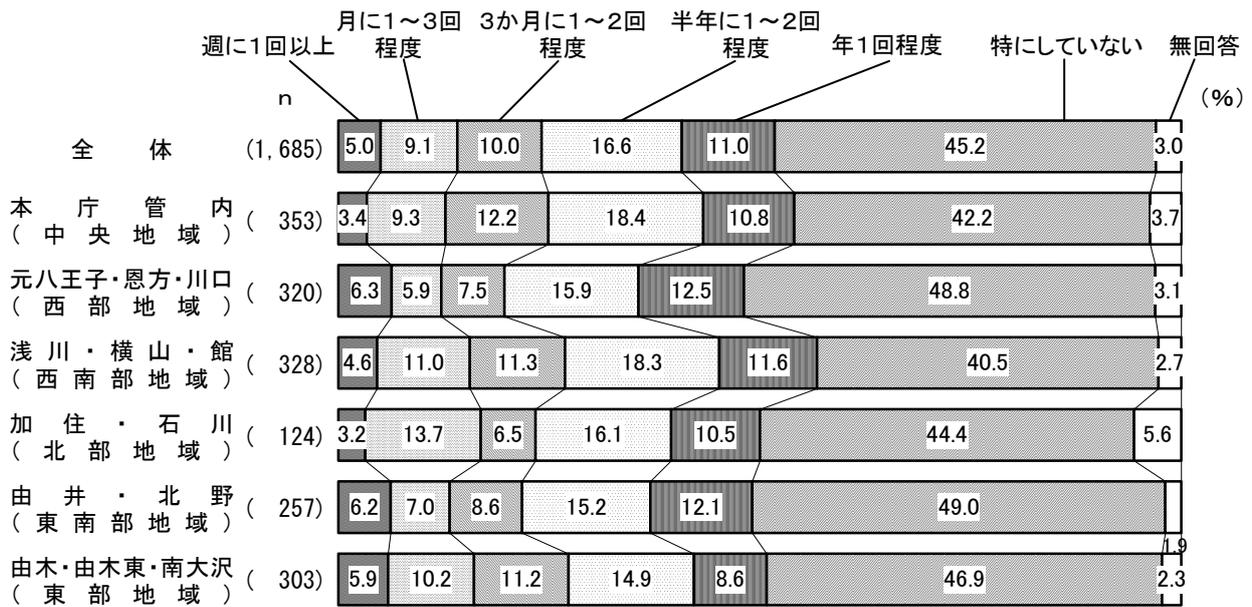
図 8-15-2 この1年間の文化活動への参加・鑑賞頻度—性・年齢別



性別にみると、「半年に1~2回程度」は女性が2.4ポイント高くなっている。一方、「特にしていない」は男性が8.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「週に1回以上」は男女ともに20~29歳が1割台（男性12.1%、女性16.9%）と高くなっている。（図8-15-2）

図 8-15-3 この1年間の文化活動への参加・鑑賞頻度—居住地域別



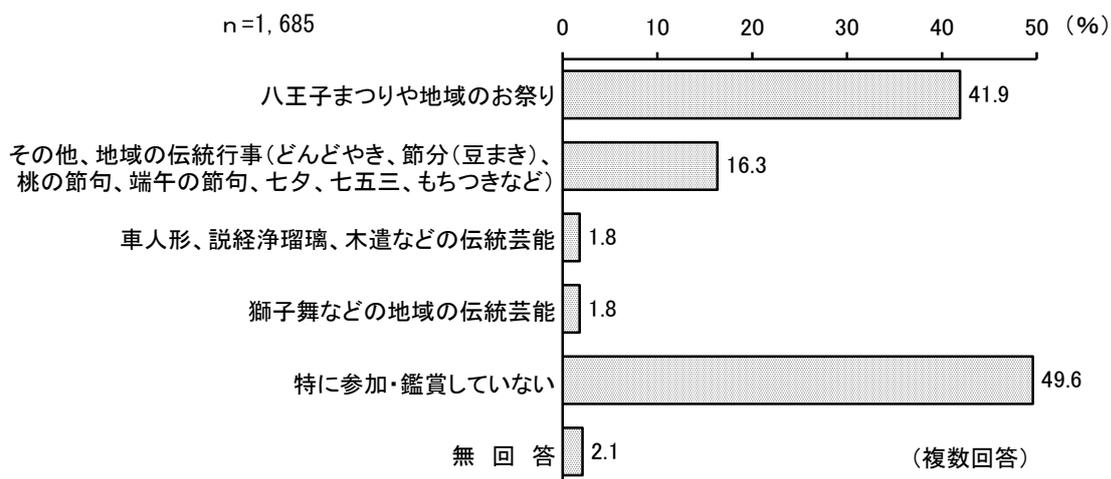
居住地域別にみると、「特にしていない」は由井・北野（東南部地域）で5割弱（49.0%）と高くなっている。（図8-15-3）

8-16 この1年間の伝統行事・伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が4割強

問37 あなたは、この1年間に次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加もしくは鑑賞しましたか。(〇はいくつでも)

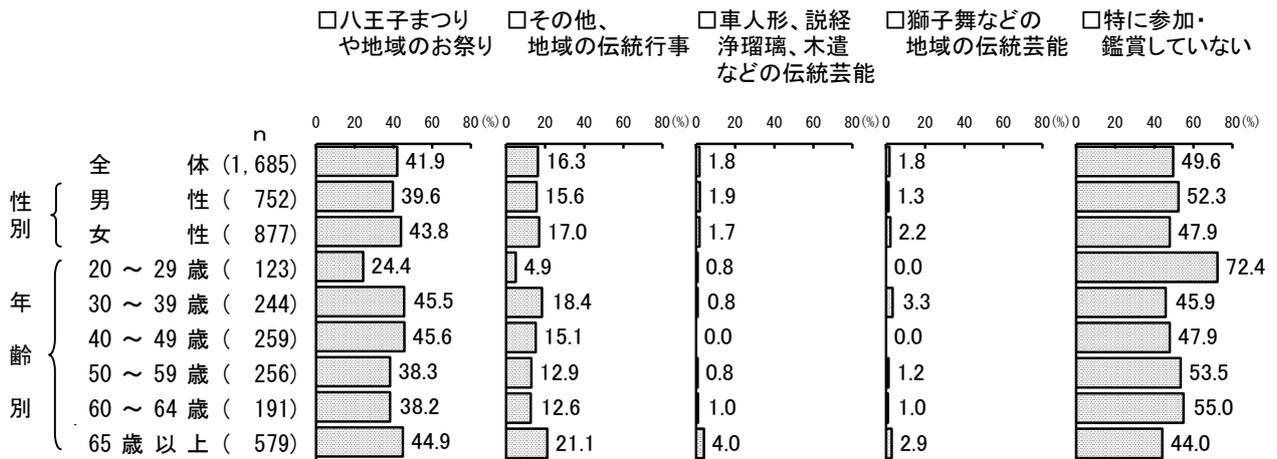
図8-16-1



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加もしくは鑑賞したかを聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」が4割強(41.9%)と高く、次いで「その他、地域の伝統行事(どんどやき、節分(豆まき)、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど)」(16.3%)、「車人形、説経浄瑠璃、木遣などの伝統芸能」(1.8%)、「獅子舞などの地域の伝統芸能」(1.8%)と続いている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は5割弱(49.6%)となっている。

(図8-16-1)

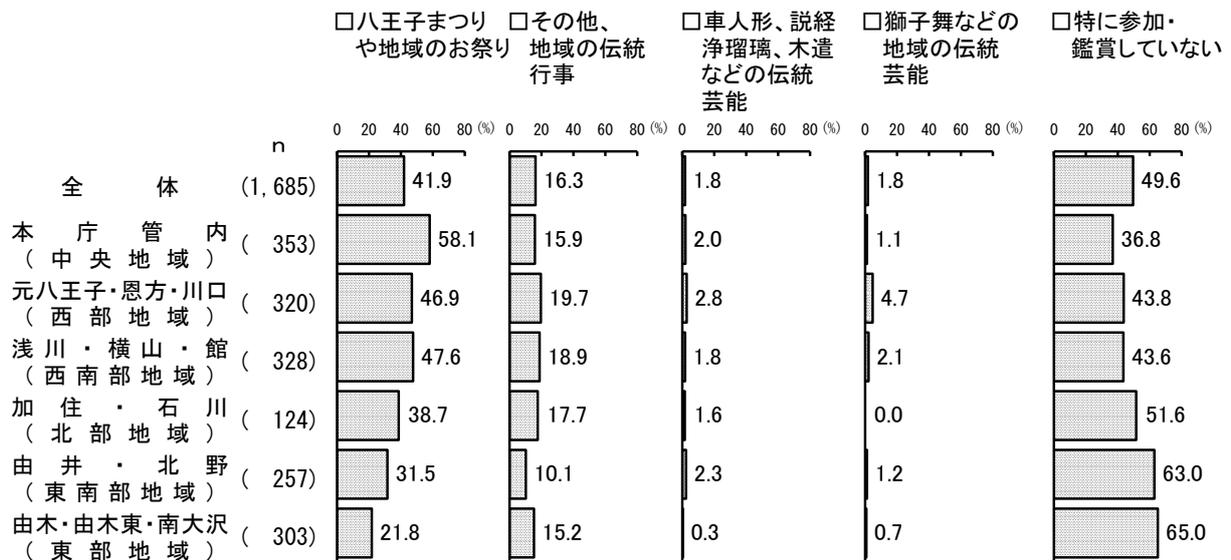
図 8-16-2 この1年間の伝統行事・伝統芸能への参加状況－性別・年齢別



性別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は女性が4.2ポイント高くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は男性が4.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は30～39歳（45.5%）、40～49歳（45.6%）、65歳以上（44.9%）で4割台半ばと高くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は20～29歳で7割強（72.4%）と高くなっている。（図8-16-2）

図 8-16-3 この1年間の伝統行事・伝統芸能への参加状況－居住地域別



年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内（中央地域）で6割近く（58.1%）と高くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（65.0%）で6割台半ばと高くなっている。（図8-16-3）

8-17 障害のある方への配慮

◇《心がけている》が8割強

問38 あなたは日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮を心がけていますか。

(○は1つだけ)

※「理解や適切な配慮」とは・・・

○少しでも障害のある方の立場に立って考えられるように、障害の内容、特徴、接し方などについて理解を深める。

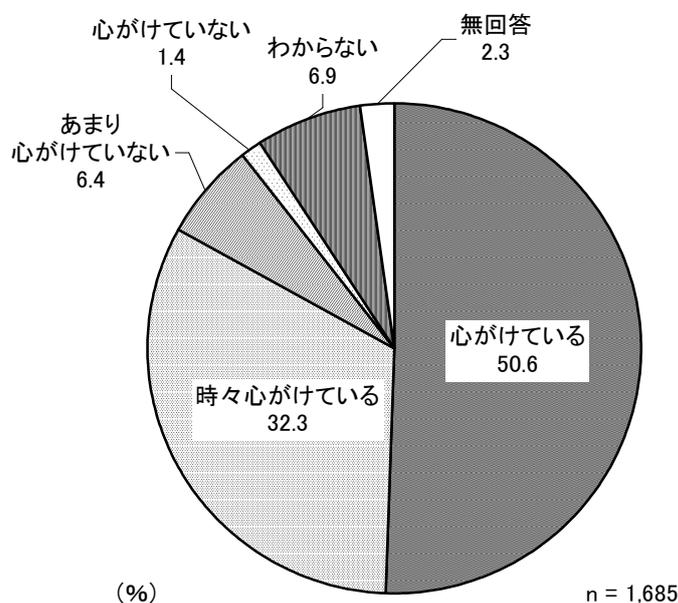
○困っている様子の方を見かけたら、声をかける。

○障害のある方と交流する機会を持つ。

○ゆっくりわかりやすく話したり、筆談など障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。

○優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどは、必要としている方への妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、難病、内部障害など、外見からは障害がわかりにくい方々もいます。) など

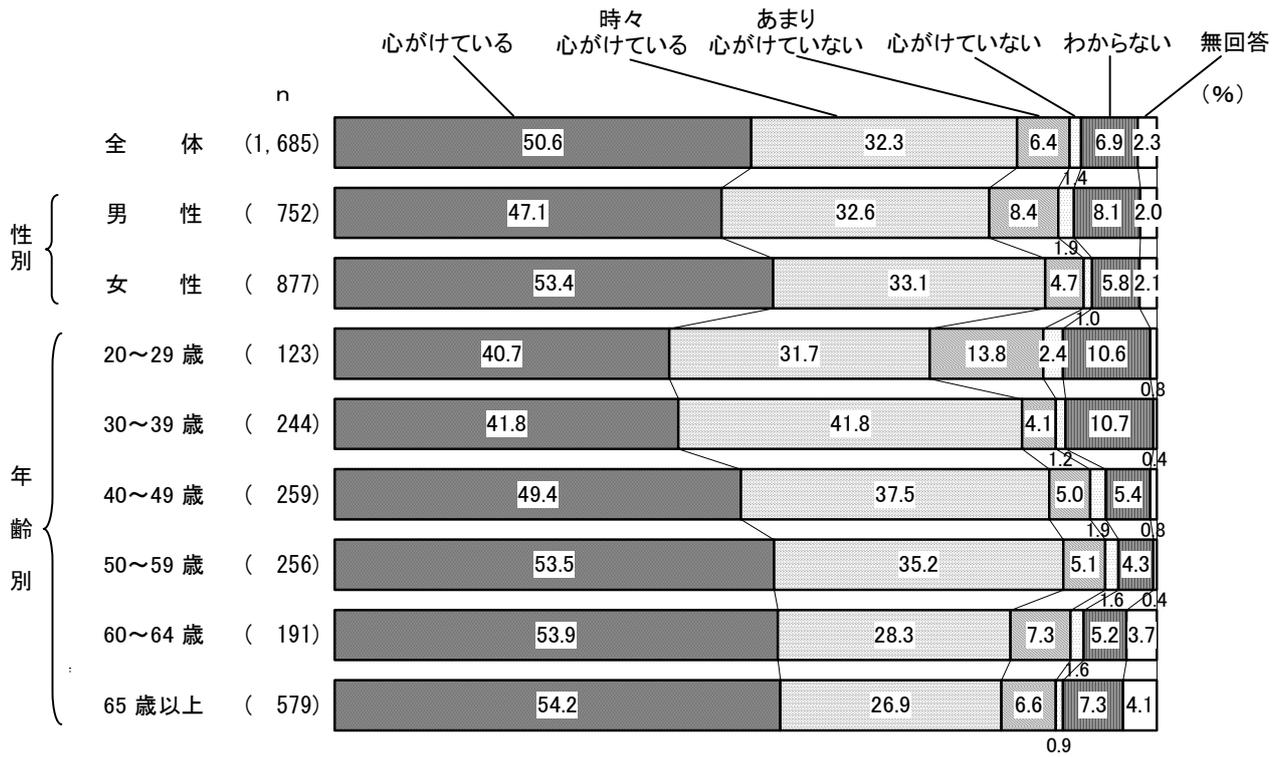
図8-17-1



障害のある方に対して、理解や適切な配慮を心がけているかを聞いたところ、「心がけている」が約5割(50.6%)と最も高く、これに「時々心がけている」(32.3%)を合わせた《心がけている》は8割強(82.9%)となっている。一方、「あまり心がけていない」(6.4%)と「心がけていない」(1.4%)を合わせた《心がけていない》は1割近く(7.8%)となっている。

(図8-17-1)

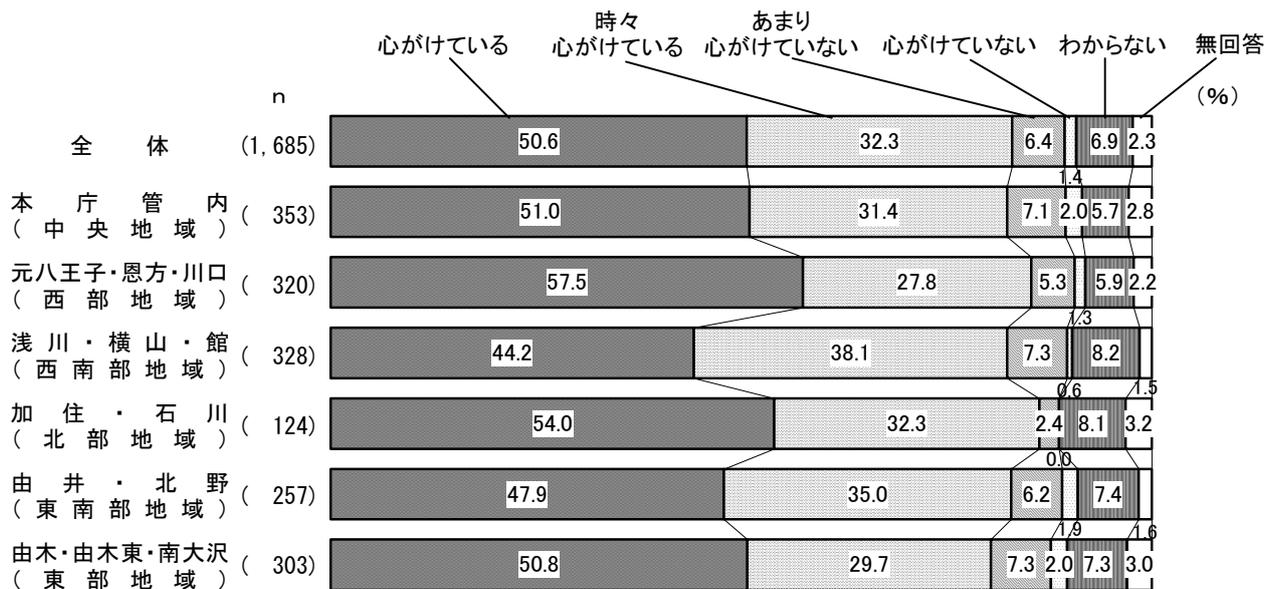
図8-17-2 障害のある方への配慮—性別・年齢別



性別にみると、《心がけている》は女性が6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《心がけている》は50~59歳（88.7%）と40~49歳（86.9%）で9割近くと高くなっている。（図8-17-2）

図8-17-3 障害のある方への配慮—居住地域別



居住地域別にみると、《心がけている》は加住・石川（北部地域）で9割近く（86.3%）と高くなっている。（図8-17-3）

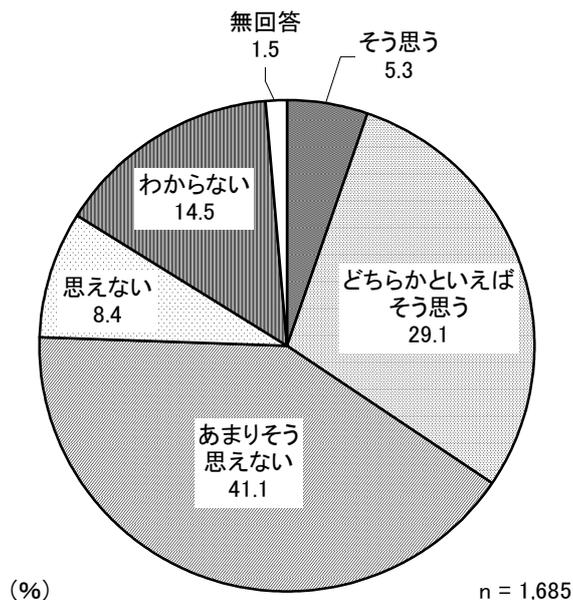
8-18 誰もが安全で快適に暮らせるまちになっていると思うか

◇《思えない》が5割弱

問39 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。

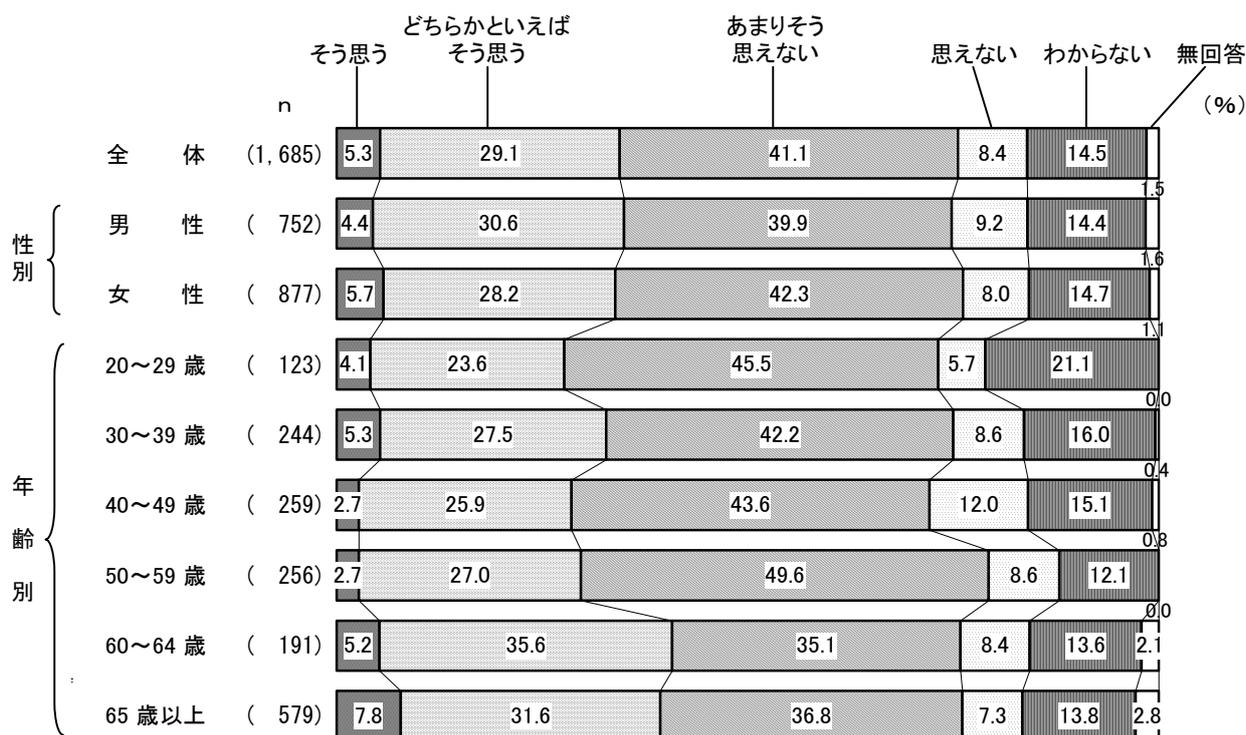
(○は1つだけ)

図8-18-1



市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うかを聞いたところ、「あまりそう思えない」が4割強（41.1%）と最も高く、これに「思えない」（8.4%）を合わせた《思えない》は5割弱（49.5%）となっている。一方、「どちらかといえばそう思う」（29.1%）と「そう思う」（5.3%）を合わせた《そう思う》は3割台半ば（34.4%）となっている。（図8-18-1）

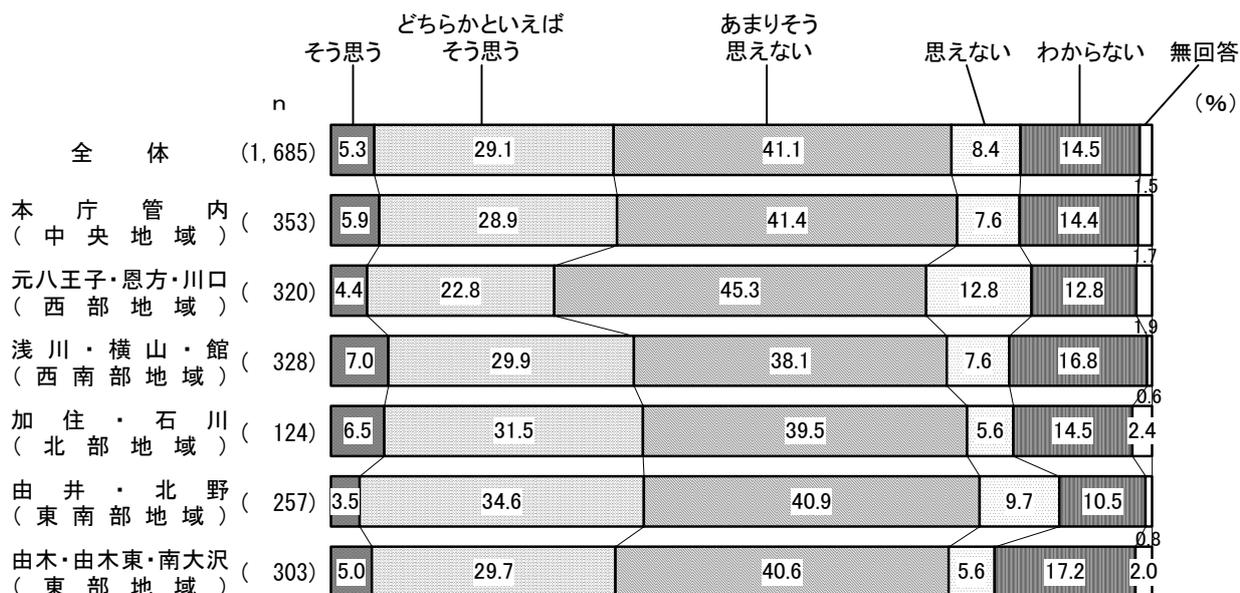
図8-18-2 誰もが安全で快適に暮らせるまちになっていると思うかー性別・年齢別



性別にみると、大きな差はない。

年齢別にみると、《そう思う》は60~64歳で約4割（40.8%）と高くなっている。一方、《思えない》は50~59歳で6割近く（58.2%）と高くなっている。（図8-18-2）

図8-18-3 誰もが安全で快適に暮らせるまちになっていると思うかー居住地域別



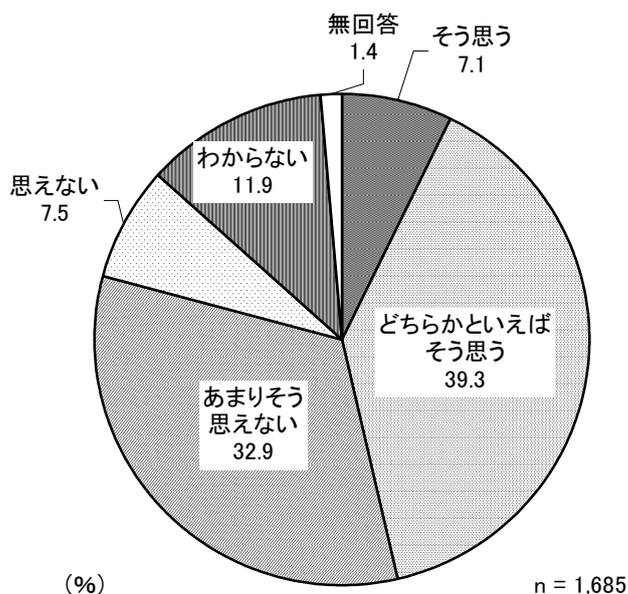
居住地域別にみると、《思えない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）で6割近く（58.1%）と高くなっている。（図8-18-3）

8-19 市は美観が保持されたまちだと思うか

◇ 《そう思う》が5割近く

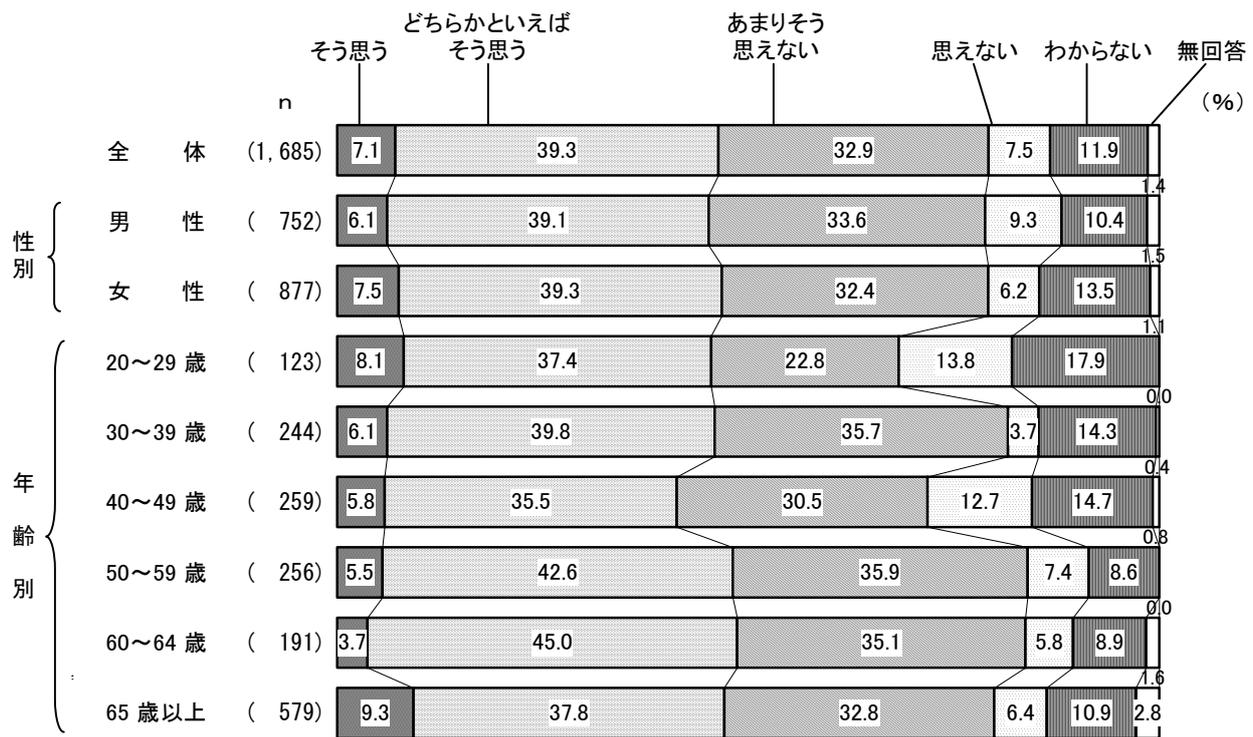
問40 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図8-19-1



八王子市は都市の美観が保持されているまちであると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が4割弱（39.3%）で最も高く、これに「そう思う」（7.1%）を合わせた《そう思う》は5割近く（46.4%）となっている。一方、「あまりそう思えない」（32.9%）と「思えない」（7.5%）を合わせた《思えない》は約4割（40.4%）となっている。（図8-19-1）

図 8-19-2 市は美観が保持されたまちだと思うかー性別・年齢別

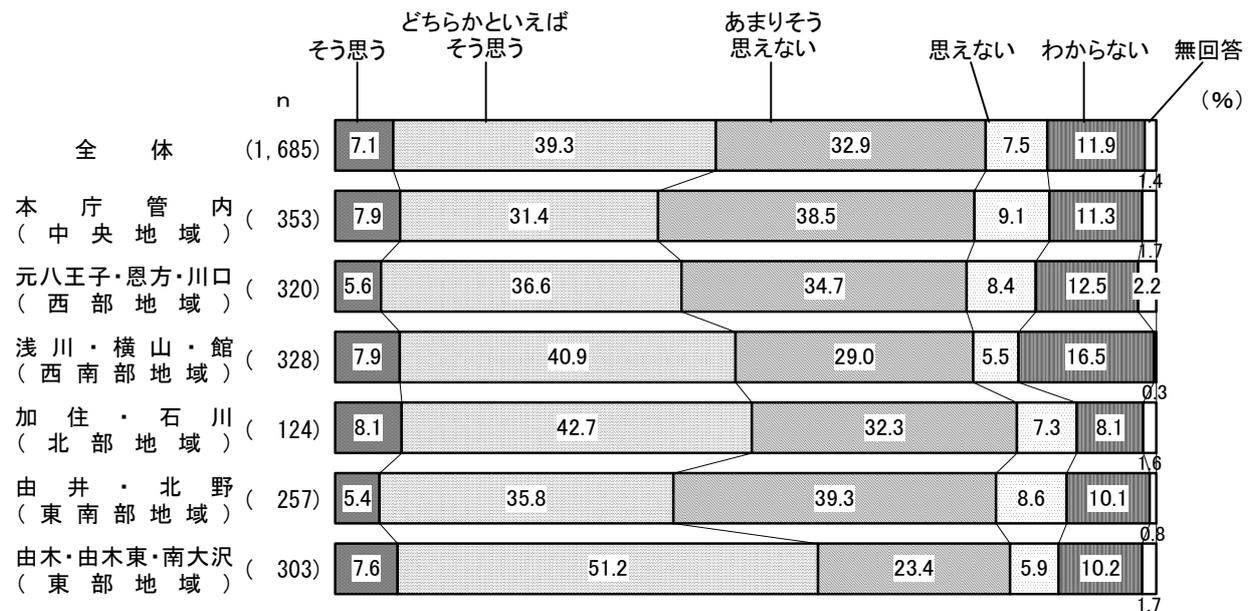


性別にみると、《思えない》は男性が4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《思えない》は50~59歳で4割強（43.3%）と高くなっている。

(図 8-19-2)

図 8-19-3 市は美観が保持されたまちだと思うかー居住地地域別



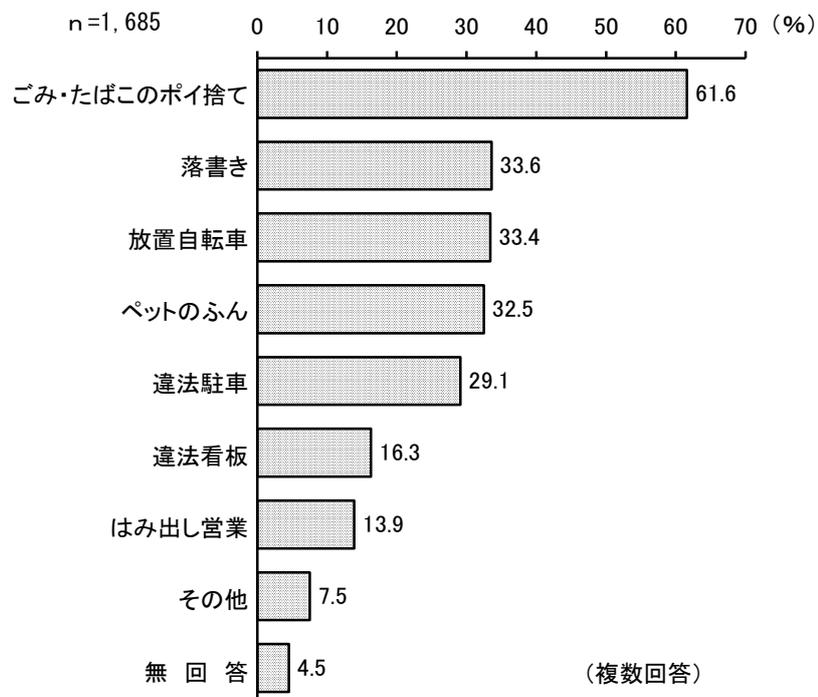
居住地地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）で6割近く（58.8%）と高くなっている。(図 8-19-3)

8-20 都市の美観が損なわれる原因

◇「ごみ・たばこのポイ捨て」が6割強

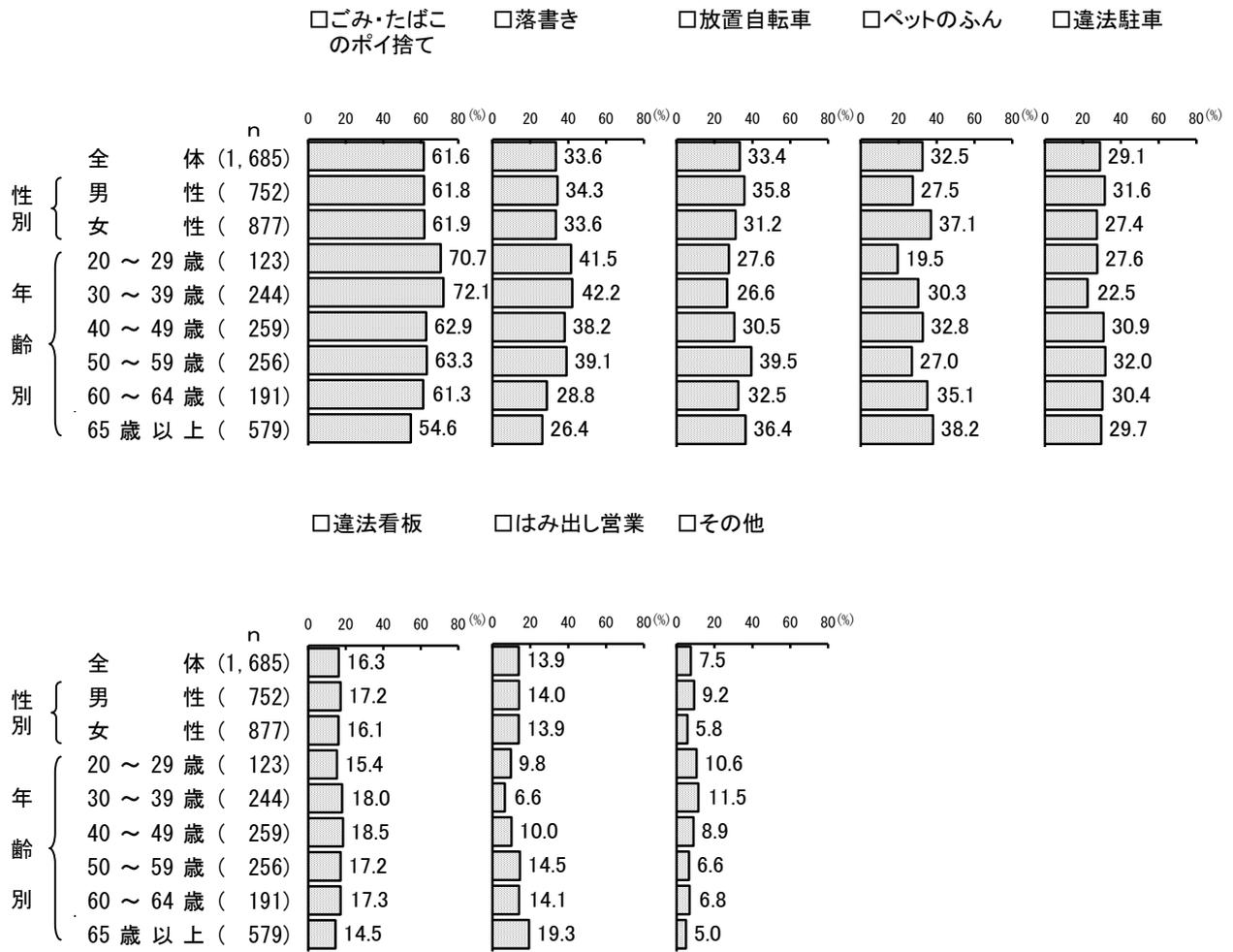
問41 都市の美観が損なわれる主な原因は、次のどれだと思いますか。(○は3つまで)

図8-20-1



都市の美観が損なわれる主な原因を聞いたところ、「ごみ・たばこのポイ捨て」が6割強(61.6%)と最も高くなっている。次いで「落書き」(33.6%)、「放置自転車」(33.4%)、「ペットのふん」(32.5%)、「違法駐車」(29.1%)と続いている。(図8-20-1)

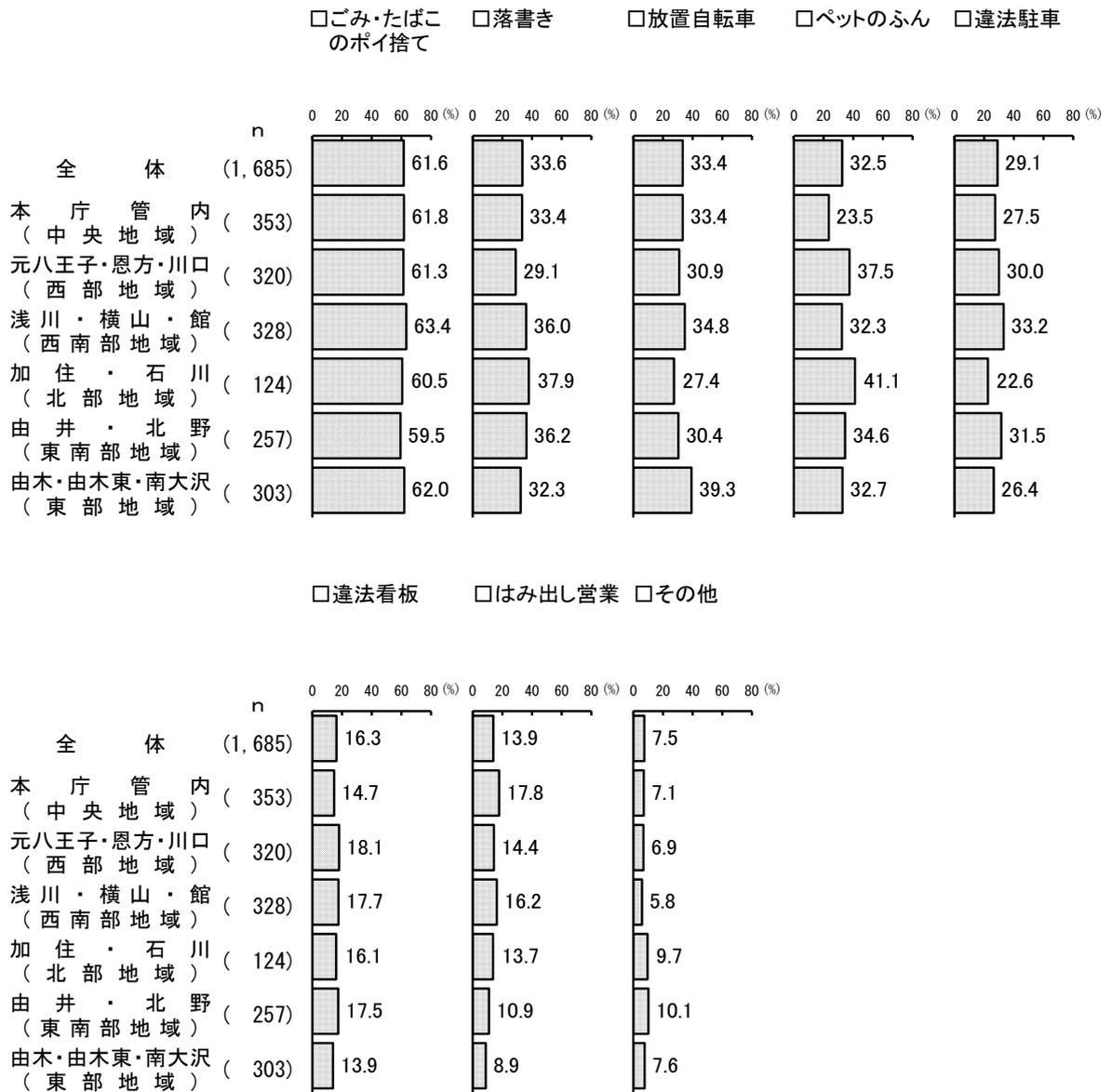
図8-20-2 都市の美観が損なわれる原因—性別・年齢別



性別にみると、「ペットのふん」は女性が9.6ポイント高くなっている。一方、「放置自転車」は男性が4.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」は30～39歳で7割強（72.1%）と高く、20～29歳でも約7割（70.7%）と高くなっている。また、「ペットのふん」は65歳以上で4割近く（38.2%）と高くなっている。（図8-20-2）

図8-20-3 都市の美観が損なわれる原因—居住地域別



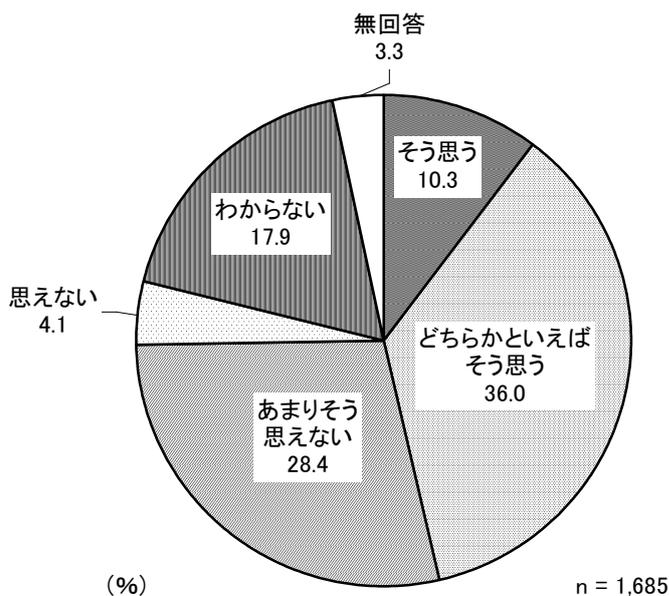
居住地域別にみると、「ペットのふん」は加住・石川（東南部地域）で4割強（41.1%）と高くなっている。また、「放置自転車」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱（39.3%）と高くなっている。（図8-20-3）

8-21 市の自然、歴史、文化が景観に活かされていると思うか

◇ 《そう思う》が5割近く

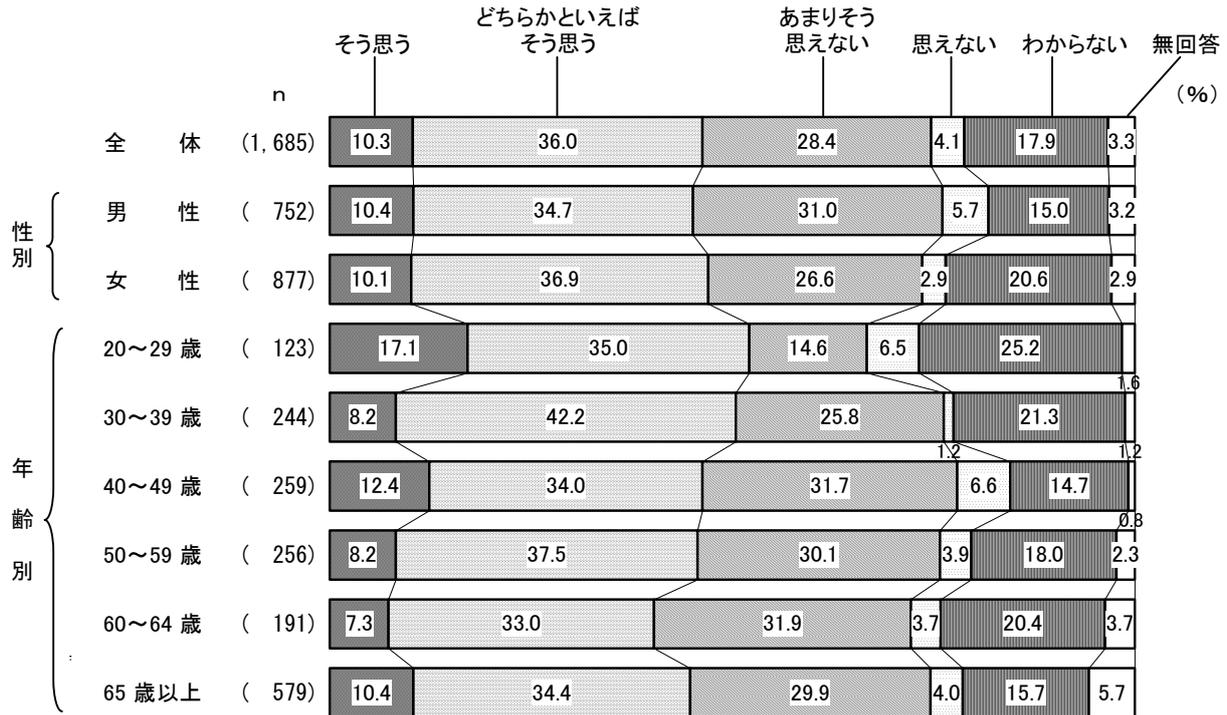
問42 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図8-21-1



市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が4割近く（36.0%）と最も高く、これに「そう思う」（10.3%）を合わせた《そう思う》は5割近く（46.3%）となっている。一方、「あまりそう思えない」（28.4%）と「思えない」（4.1%）を合わせた《思えない》は3割強（32.5%）となっている。（図8-21-1）

図8-21-2 市の自然、歴史、文化が景観に活かされていると思うか—性別・年齢別

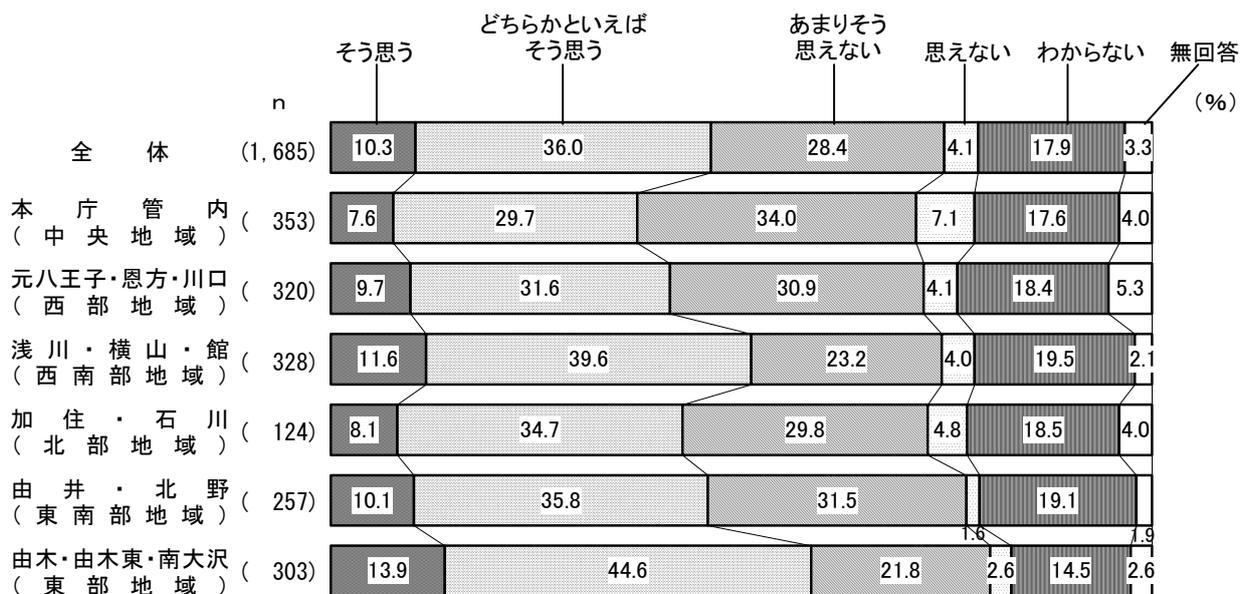


性別にみると、「思えない」は男性が7.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は20~29歳で5割強（52.1%）と高くなっている。

(図8-21-2)

図8-21-3 市の自然、歴史、文化が景観に活かされていると思うか—居住地域別



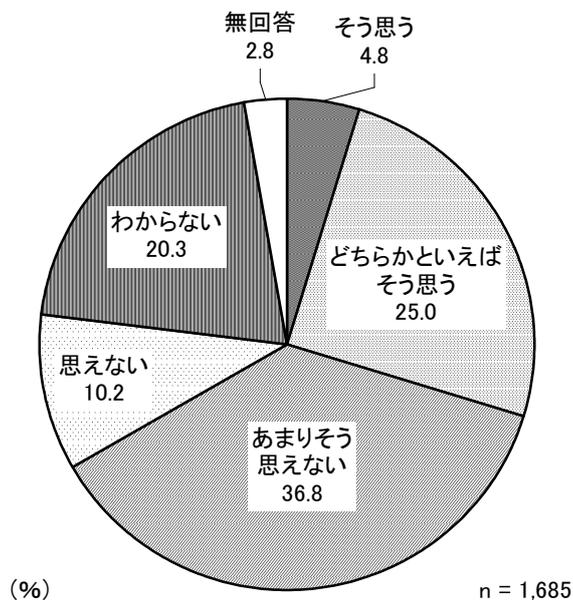
居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で6割近く（58.5%）と高くなっている。一方、「思えない」は本庁管内（中央地域）で4割強（41.1%）と高くなっている。(図8-21-3)

8-22 市内の交通渋滞が緩和されていると思うか

◇ 《思えない》が5割近く

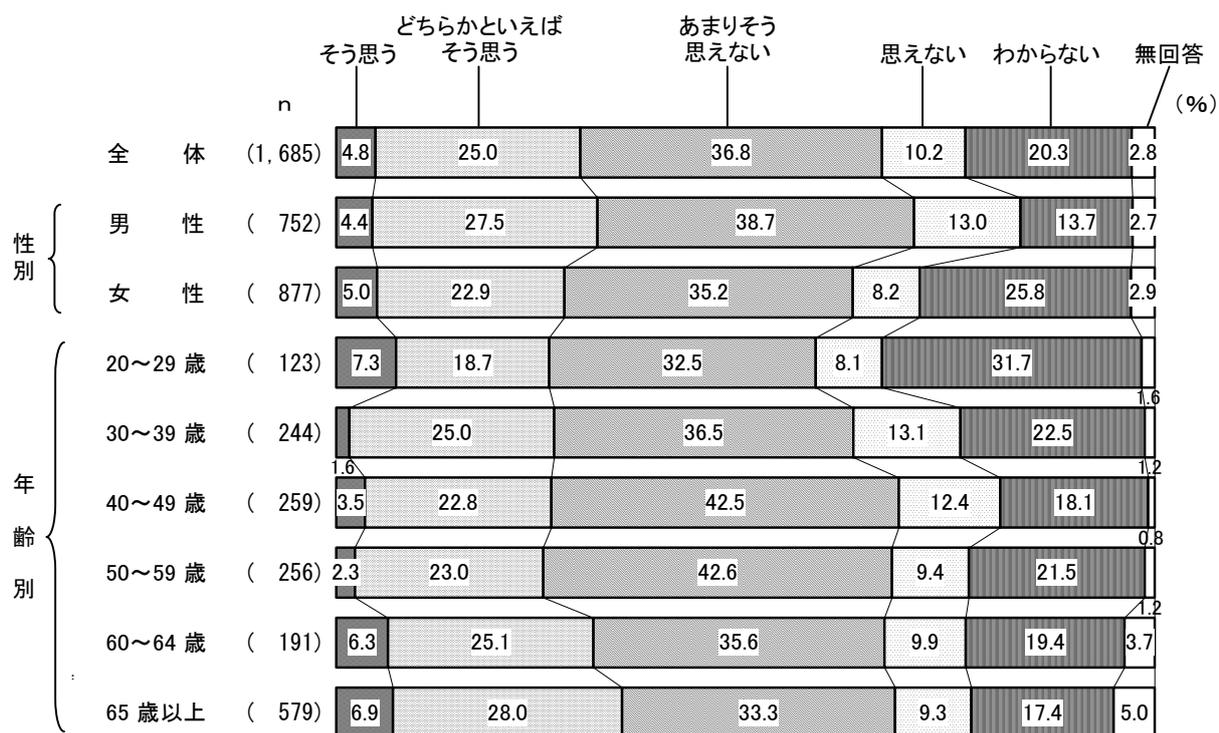
問43 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。(○は1つだけ)

図8-22-1



市内の交通渋滞が緩和されていると思うかを聞いたところ、「あまりそう思えない」が4割近く（36.8%）と最も高く、これに「思えない」（10.2%）を合わせた《思えない》は5割近く（47.0%）となっている。一方、「どちらかといえばそう思う」（25.0%）と「そう思う」（4.8%）を合わせた《そう思う》は3割弱（29.8%）となっている。（図8-22-1）

図 8-22-2 市内の交通渋滞が緩和されていると思うかー性別・年齢別

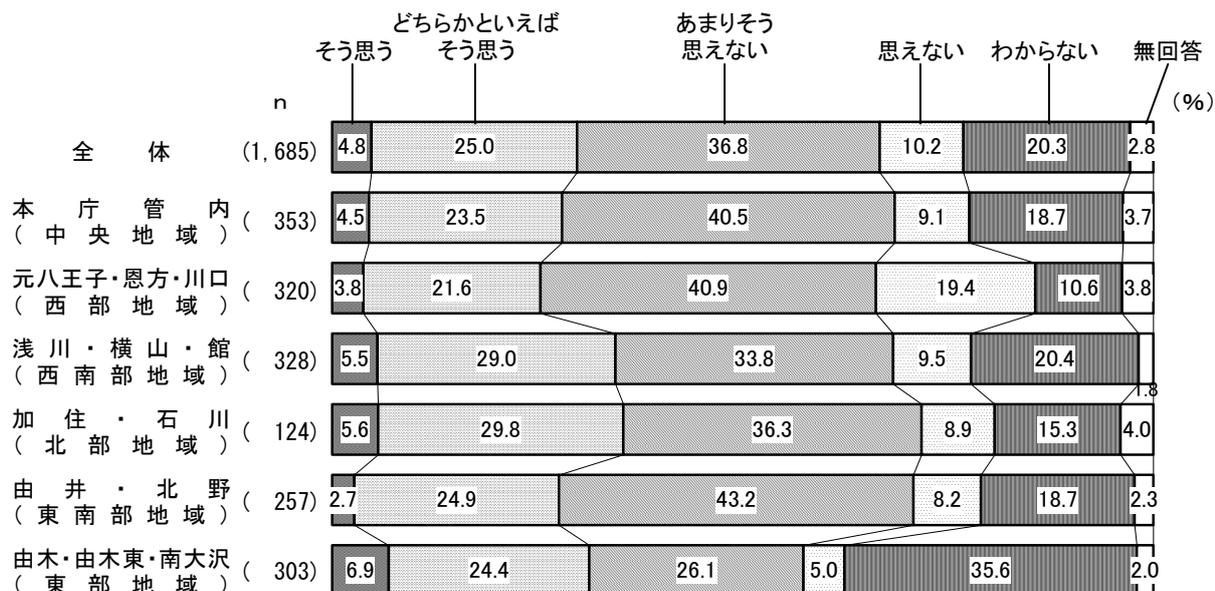


性別にみると、「思えない」は男性が8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は65歳以上で3割台半ば（34.9%）と高くなっている。

(図 8-22-2)

図 8-22-3 市内の交通渋滞が緩和されていると思うかー居住地域別



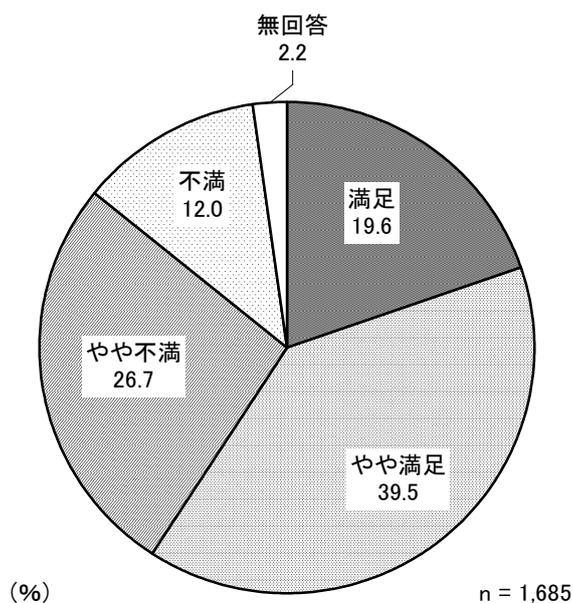
居住地域別にみると、「思えない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で約6割（60.3%）と高くなっている。(図 8-22-3)

8-23 公共交通機関の満足度

◇《満足》が6割弱

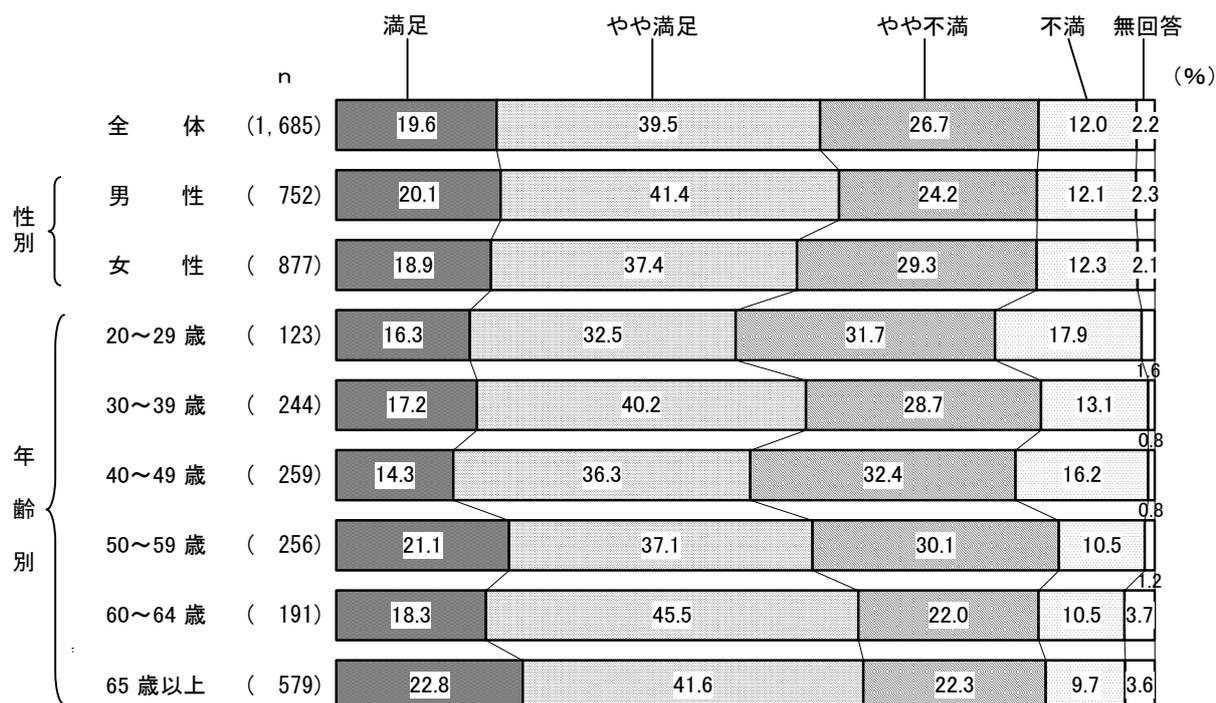
問44 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は1つだけ）

図8-23-1



公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足度しているかを聞いたところ、「やや満足」が4割弱（39.5%）と最も高く、これに「満足」（19.6%）を合わせた《満足》は6割弱（59.1%）となっている。一方、「やや不満」（26.7%）と「不満」（12.0%）を合わせた《不満》は4割近く（38.7%）となっている。（図8-23-1）

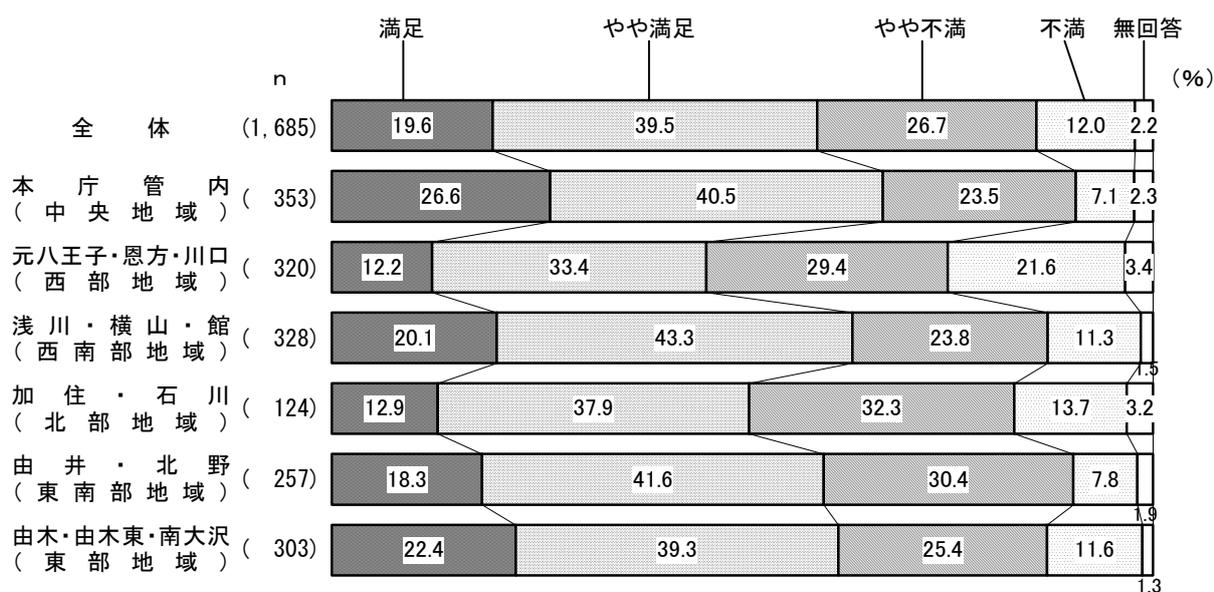
図8-23-2 公共交通機関の満足度－性別・年齢別



性別にみると、《不満》は女性が5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《満足》は65歳以上で6割台半ば（64.4%）と高く、60～64歳でも6割強（63.8%）と高くなっている。（図8-23-2）

図8-23-3 公共交通機関の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）で7割近く（67.1%）と高くなっている。一方、《不満》は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割強（51.0%）と高くなっている。

（図8-23-3）

8-24 市内の産業活動に対する意識

◇ 《そう思う》が3割台半ば

問45 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。

(○は1つだけ)

※市の産業活動活性化の取組とは・・・

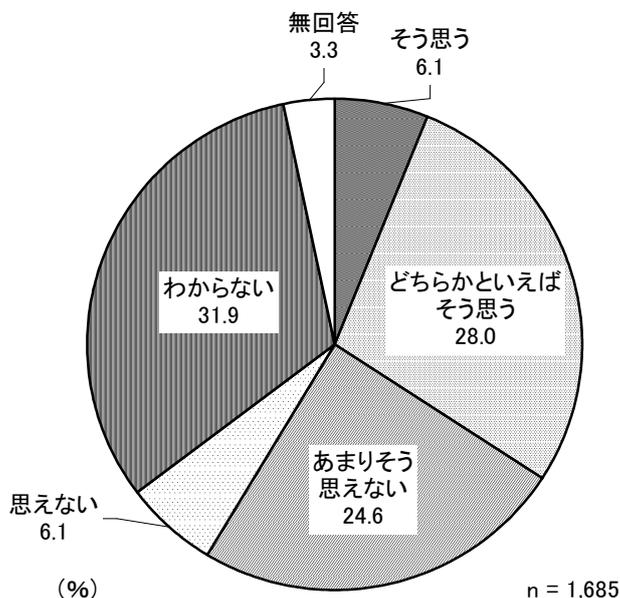
商業・・・中心市街地でのイベントの開催。スマートフォンを活用したまちなか案内や商店の魅力の発信。空き店舗への出店支援。

観光業・・・JR八王子駅北口及び南口や京王線高尾山口駅前へインフォメーションセンターを開設。八王子車人形・西川古柳氏などの観光大使による魅力の発信。

農業・・・道の駅「八王子滝山」等の直売所による地産地消の推進。八王子農業塾や援農ボランティア制度等による農業の担い手。

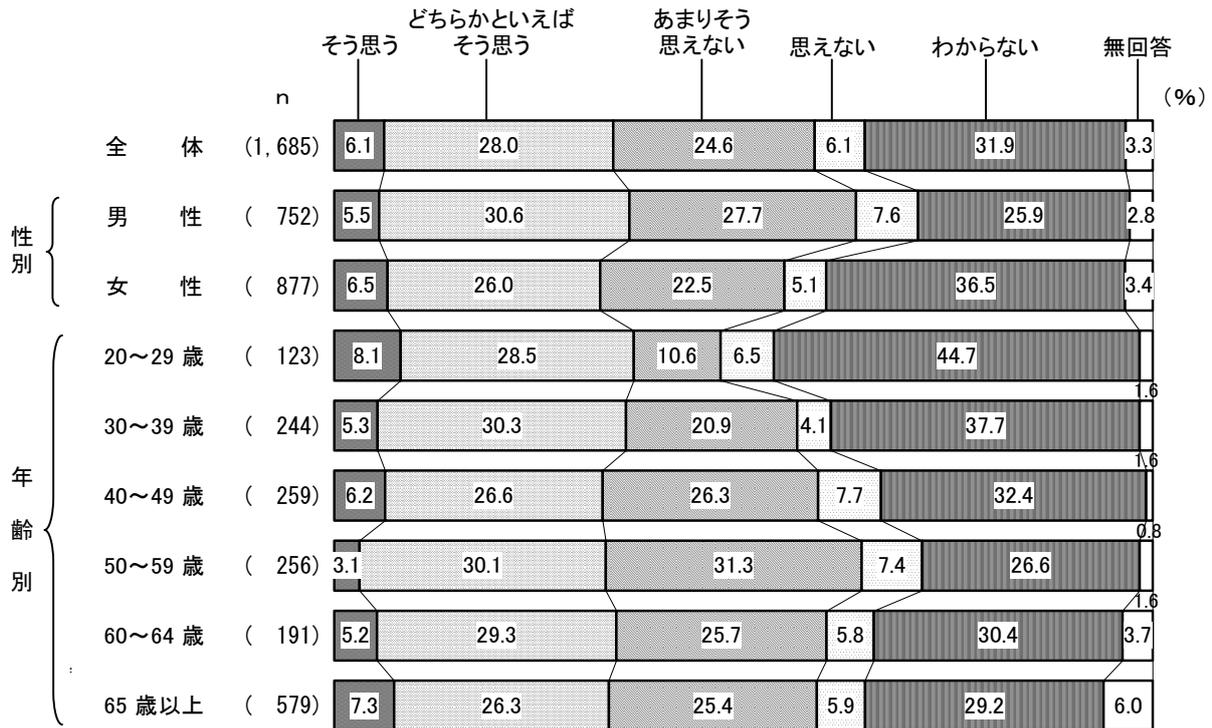
工業・・・いきいき企業支援条例に基づく工場等の企業誘致（これまで約3,200人の新たな雇用創出と約13億円（24年度分）の税収増）。

図8-24-1



市内の産業活動が活発に行われていると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が3割近く（28.0%）と高く、これに「そう思う」（6.1%）を合わせた《そう思う》は3割台半ば（34.1%）となっている。一方、「あまりそう思えない」（24.6%）と「思えない」（6.1%）を合わせた《思えない》は約3割（30.7%）となっている。（図8-24-1）

図8-24-2 市内の産業活動に対する意識－性別・年齢別

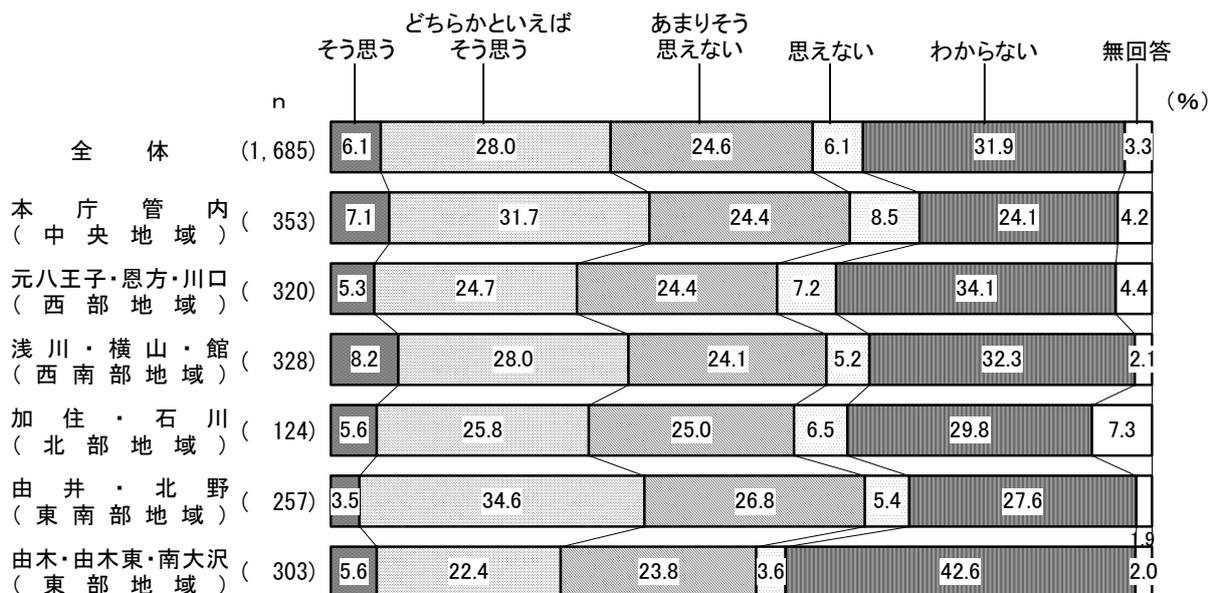


性別にみると、《思えない》は男性が7.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《思えない》は50～59歳で4割近く（38.7%）と高くなっている。

(図8-24-2)

図8-24-3 市内の産業活動に対する意識－居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は本庁管内（中央地域）（38.8%）と由井・北野（東南部地域）（38.1%）と浅川・横山・館（西南部地域）（36.2%）で4割近くと高くなっている。

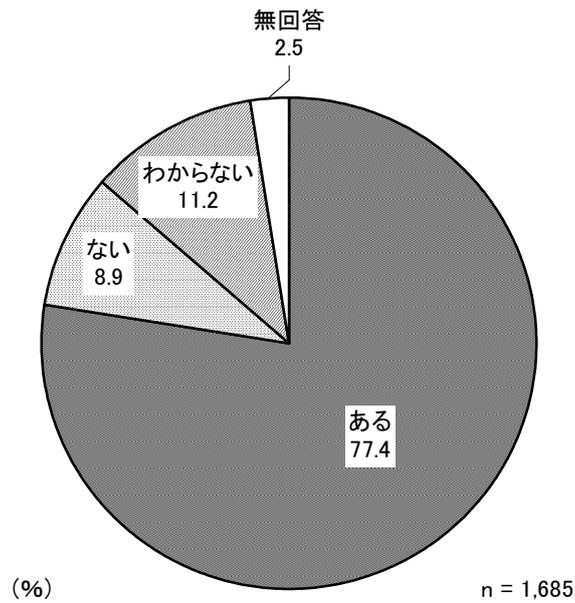
(図8-24-3)

8-25 市内産農産物の購入経験

◇「ある」が8割近く

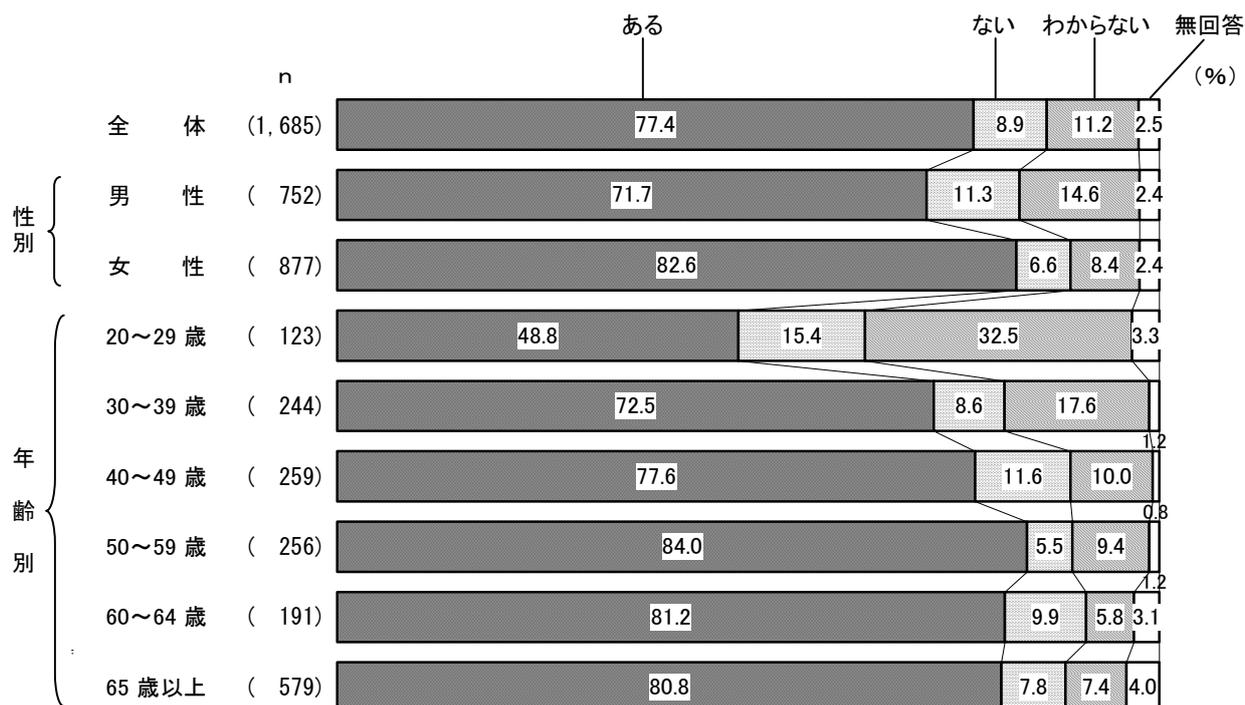
問46 あなたは、市内産の農産物（野菜・果物・花など）を購入（消費）したことがありますか。（○は1つだけ）

図8-25-1



市内産の農産物（野菜・果物・花など）を購入（消費）したことがあるかを聞いたところ、「ある」が8割近く（77.4%）、「ない」が1割近く（8.9%）となっている。（図8-25-1）

図 8-25-2 市内産農産物の購入経験—性別・年齢別

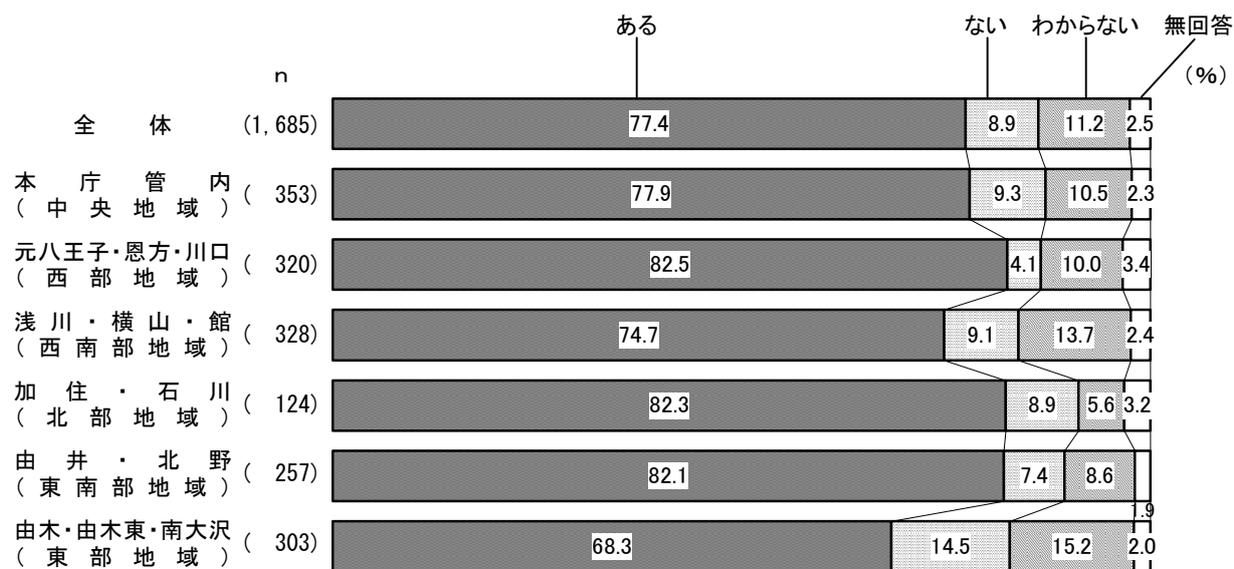


性別にみると、「ある」は女性が10.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は50~59歳で8割台半ば（84.0%）と高くなっている。

(図 8-25-2)

図 8-25-3 市内産農産物の購入経験—居住地域別



居住地域別にみると、「ある」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（82.5%）、加住・石川（北部地域）（82.3%）、由井・北野（東南部地域）（82.1%）で8割強と高くなっている。

(図 8-25-3)

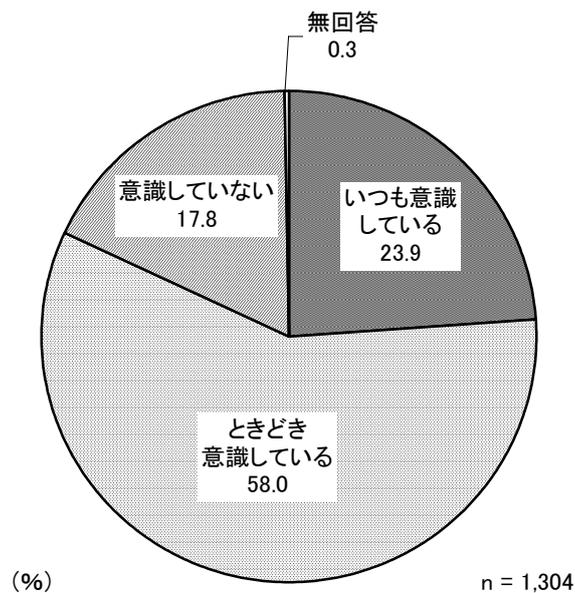
8-26 市内産農産物購入に対する意識

◇ 《意識している》が8割強

(問46で、「ある」とお答えの方に)

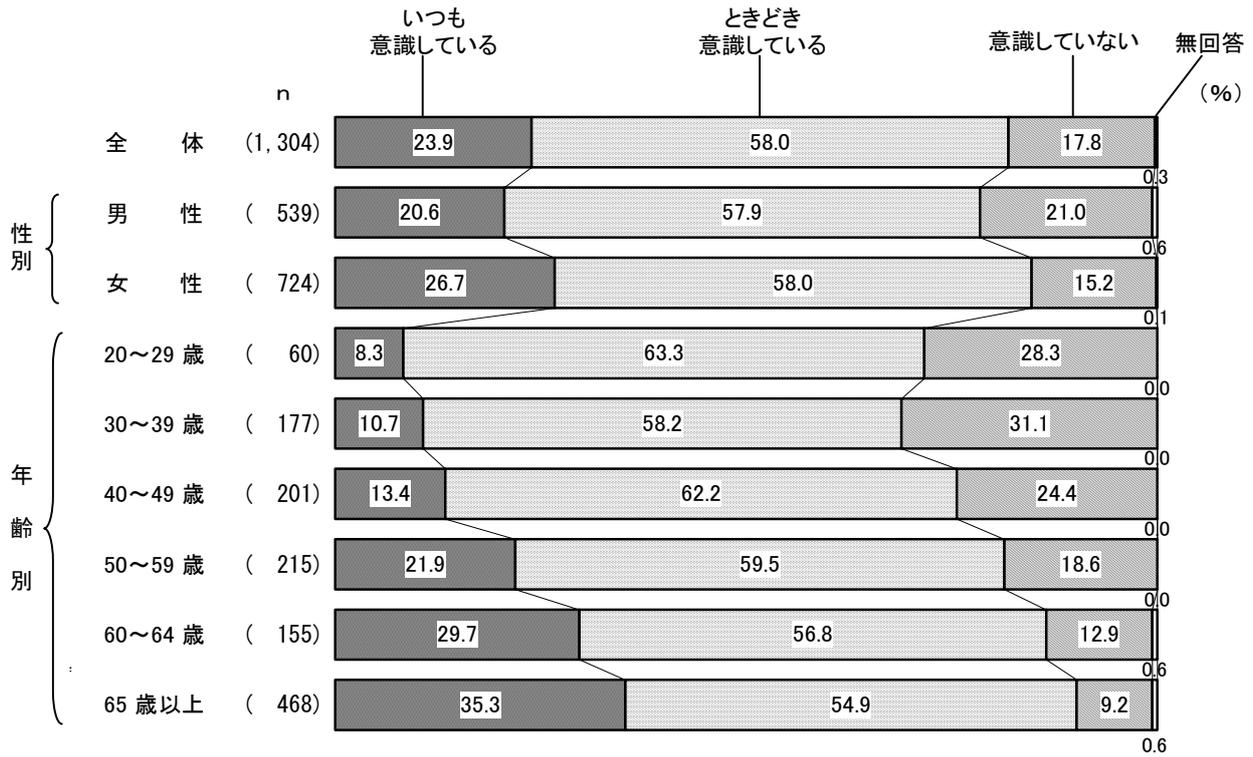
問46-1 あなたは、市内の農産物を意識して購入(消費)していますか。(○は1つだけ)

図8-26-1



市内の農産物を意識して購入(消費)しているかを聞いたところ、「ときどき意識している」が6割近く(58.0%)と最も高く、これに「いつも意識している」(23.9%)を合わせた《意識している》は8割強(81.9%)となっている。一方、「意識していない」は2割近く(17.8%)となっている。(図8-26-1)

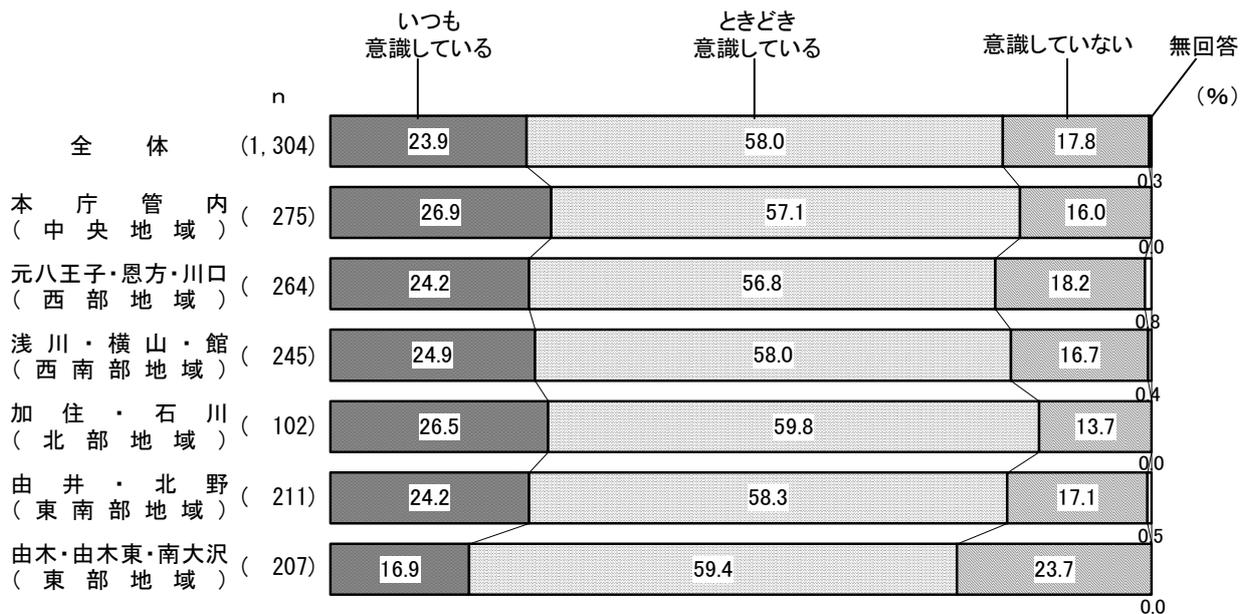
図 8-26-2 市内産農産物購入に対する意識－性別・年齢別



性別にみると、「意識している」は女性が6.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「意識している」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で約9割(90.2%)と高くなっている。(図8-26-2)

図 8-26-3 市内産農産物購入に対する意識－居住地域別



居住地域別にみると、「意識していない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)で2割強(23.7%)と高くなっている。(図8-26-3)

8-27 省エネ・省資源への配慮

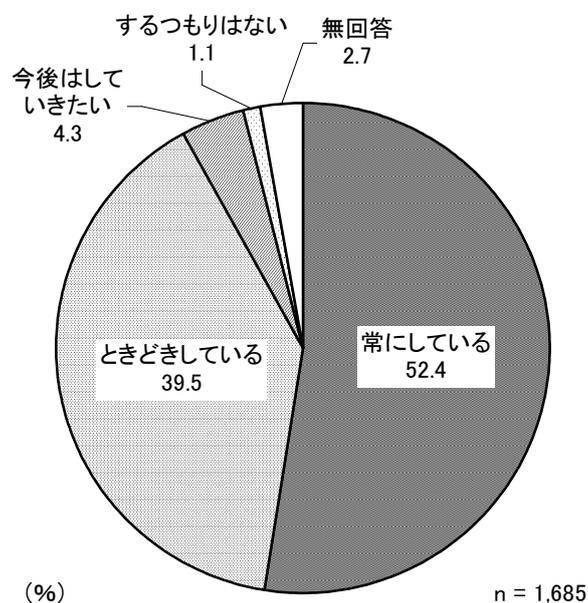
◇《配慮している》が9割強

問47 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。(○は1つだけ)

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取組とは・・・

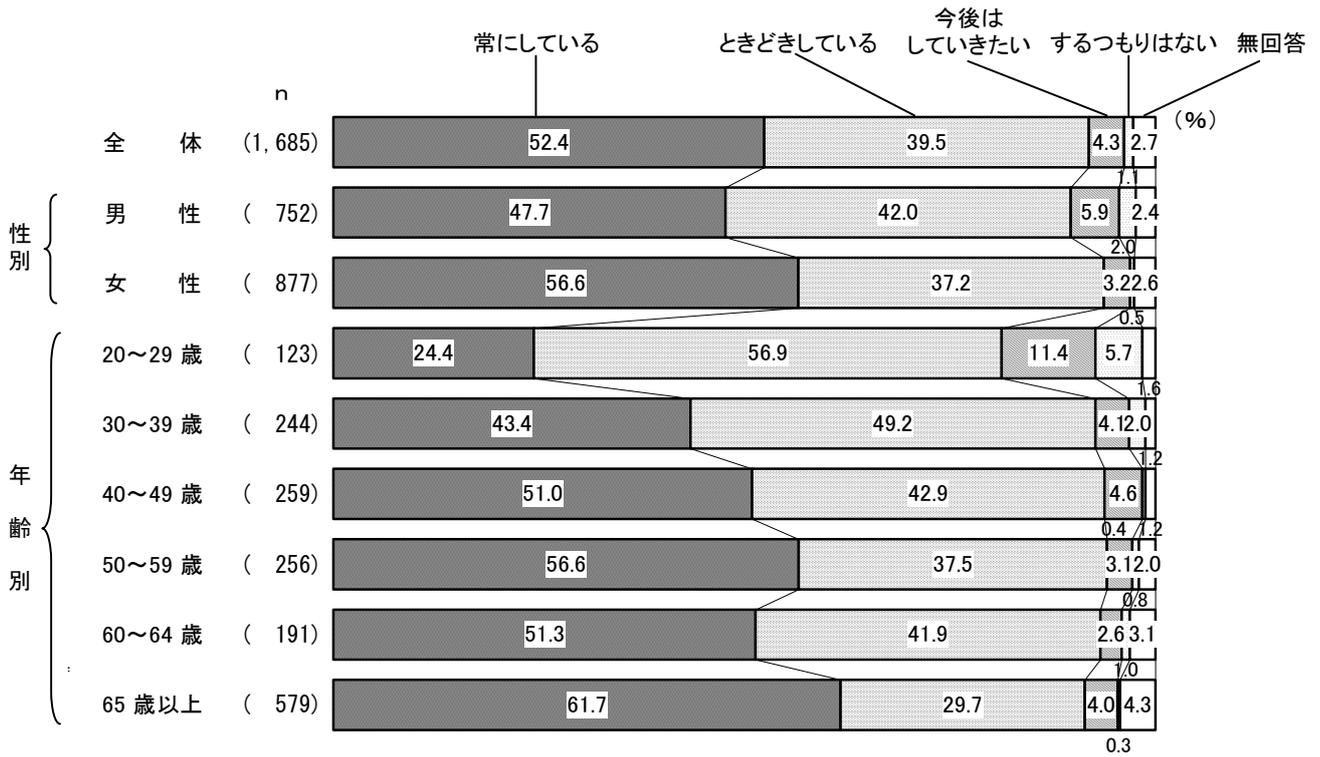
- 過度な冷暖房の使用を控える
- マイカーの使用を控える
- 電気をこまめに消す
- 省エネ製品を利用する
- 冷蔵庫の開閉に気を使う
- 買物用のバッグを持参して買い物に行く
- ごみと資源物を分別し、適正に排出する など

図 8-27-1



省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているかを聞いたところ、「常にしている」が5割強(52.4%)と最も高く、これに「ときどきしている」(39.5%)を合わせた《配慮している》は9割強(91.9%)となっている。また、「今後はしていきたい」(4.3%)と「するつもりはない」(1.1%)は1割未満となっている。(図8-27-1)

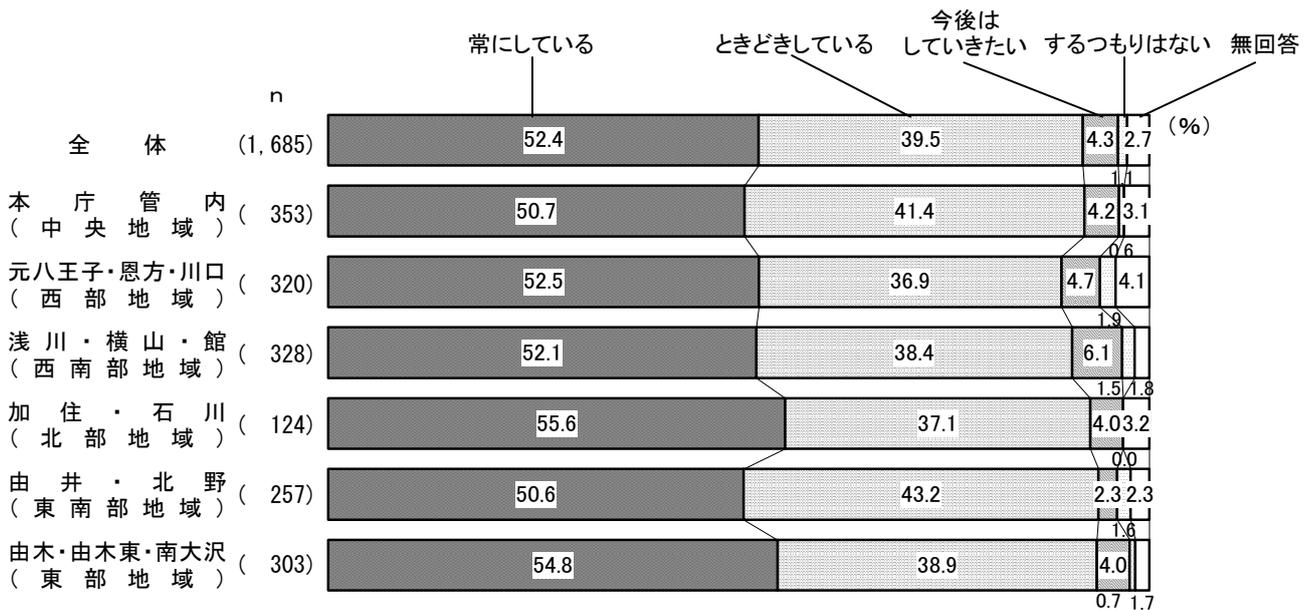
図8-27-2 省エネ・省資源への配慮—性別・年齢別



性別にみると、《配慮している》は女性が4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《配慮している》は20~29歳を除くすべての年代で9割台と高くなっている。
(図8-27-2)

図8-27-3 省エネ・省資源への配慮—居住地域別

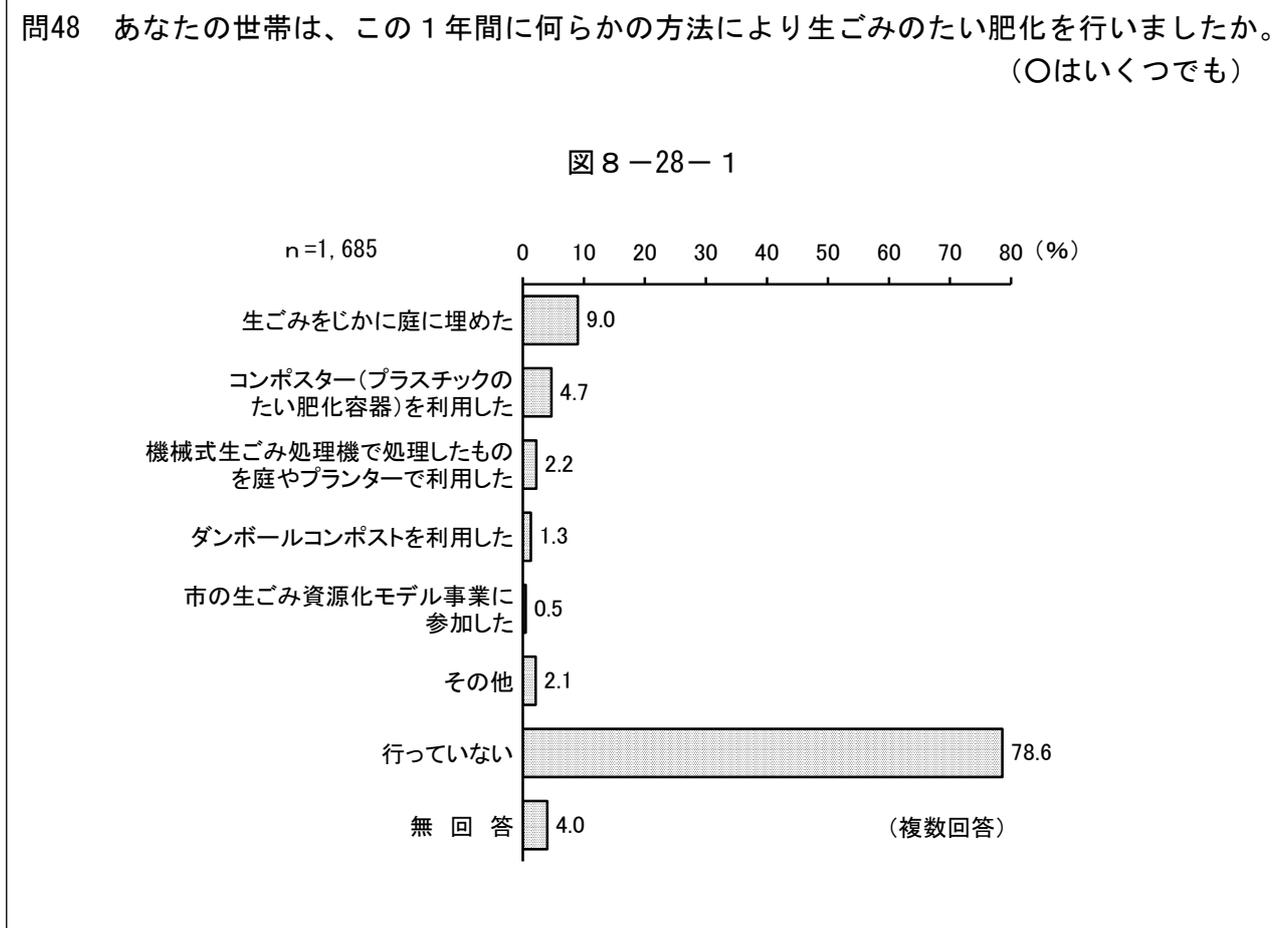


居住地域別にみると、《配慮している》はすべての地域で9割前後と高くなっている。

(図8-27-3)

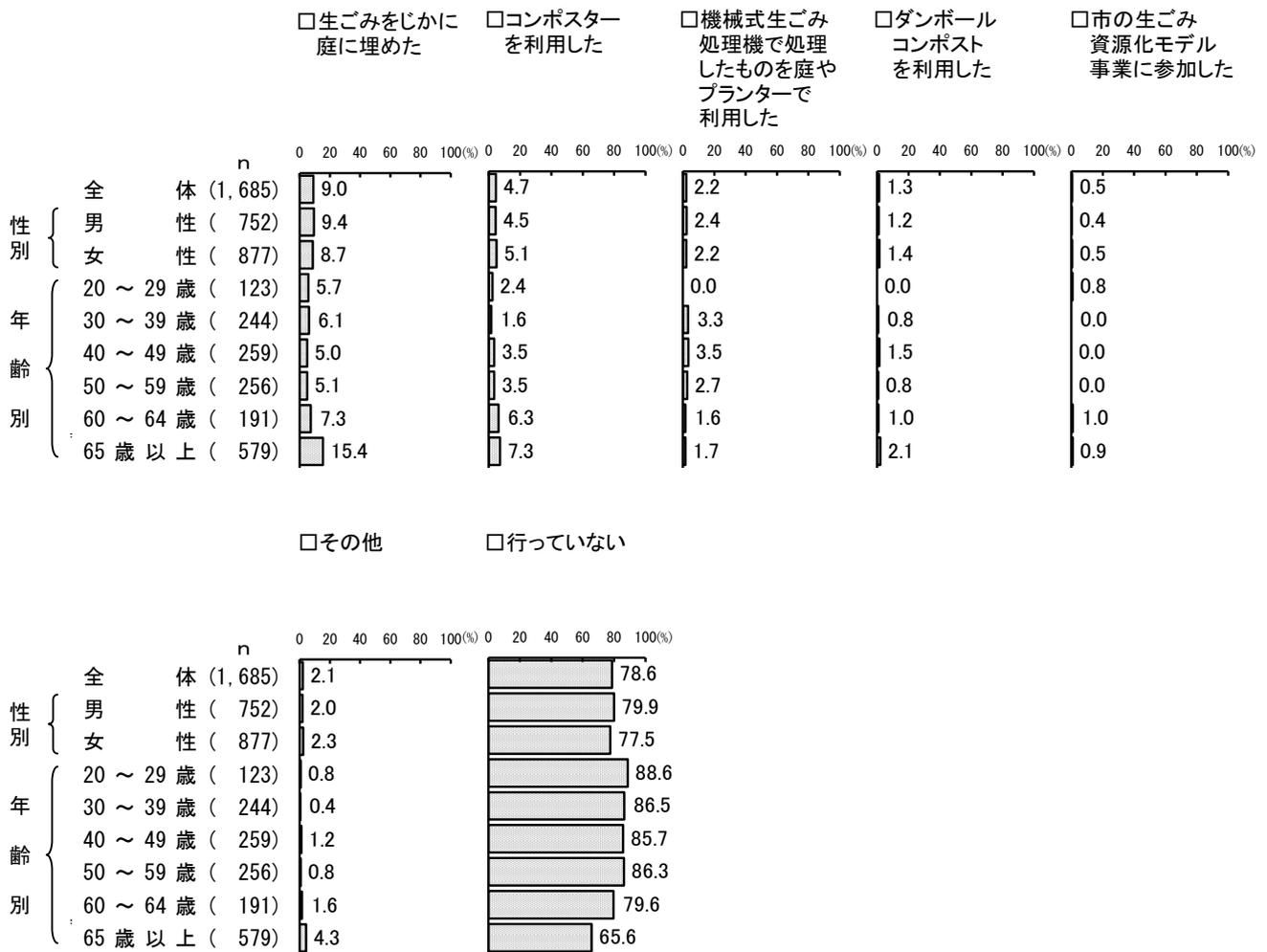
8-28 この1年間の生ごみのたい肥化の有無

◇「行っていない」が8割近く



この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったかを聞いたところ、生ごみのたい肥化を行った中では「生ごみをじかに庭に埋めた」が1割弱(9.0%)、次いで「コンポスター(プラスチックのたい肥化容器)を利用した」(4.7%)、「機械式生ごみ処理機で処理したものを庭やプランターで利用した」(2.2%)、「ダンボールコンポストを利用した」(1.3%)、「市の生ごみ資源化モデル事業に参加した」(0.5%)と続いている。一方、「行っていない」は8割近く(78.6%)となっている。(図8-28-1)

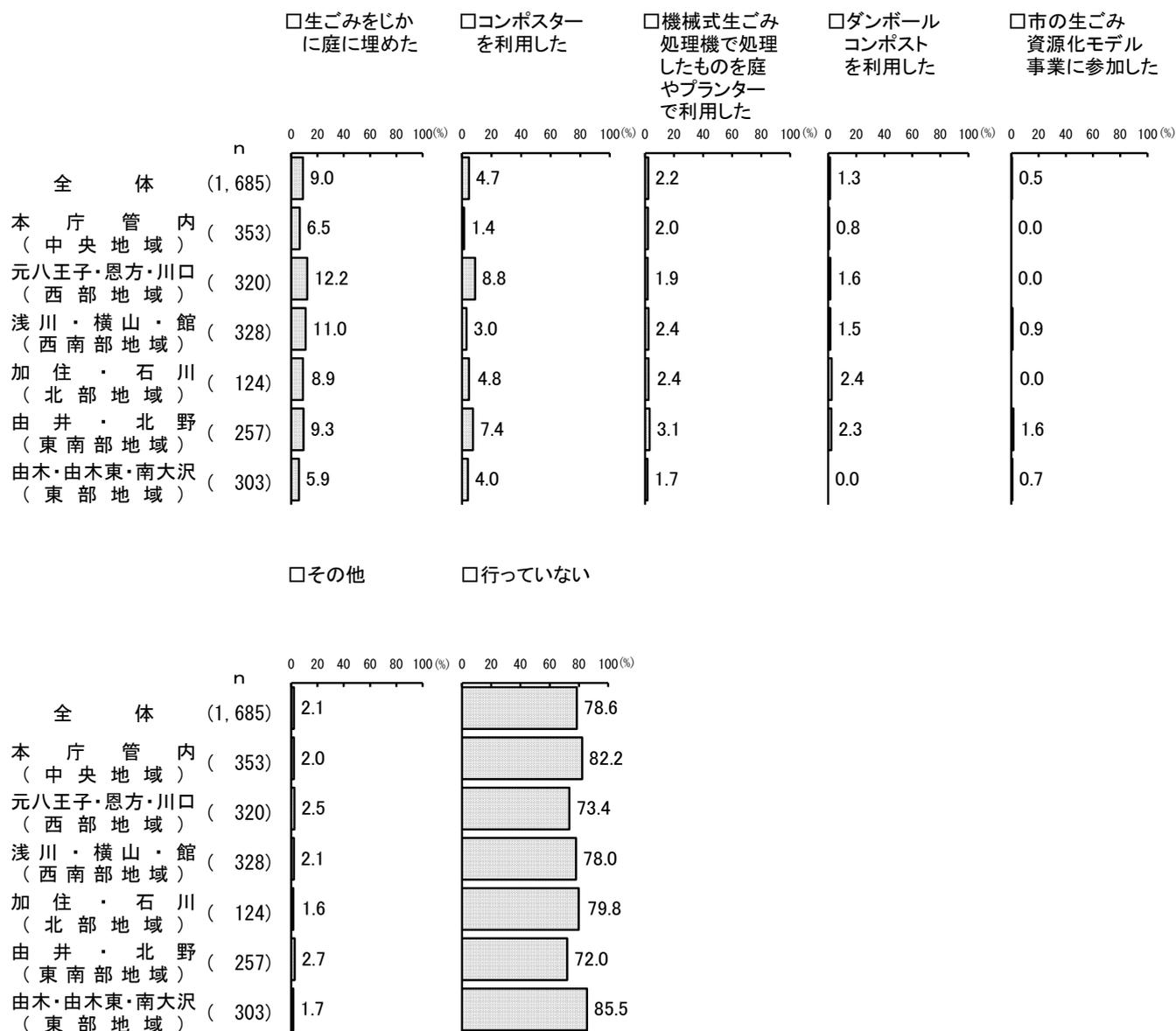
図 8-28-2 この1年間の生ごみのたい肥化の有無—性別・年齢別



性別にみると、「行っていない」は男性が2.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は65歳以上で1割台半ば（15.4%）と高くなっている。（図8-28-2）

図 8-28-3 この1年間の生ごみのたい肥化の有無—居住地域別



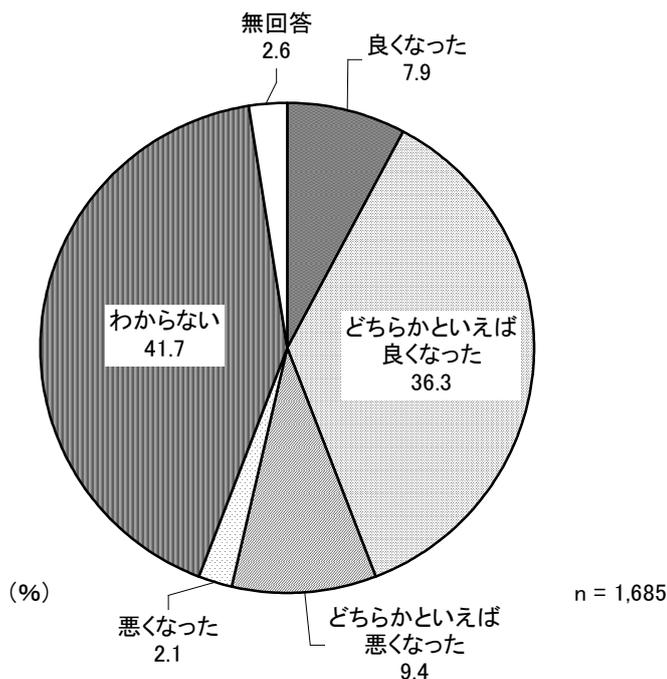
居住地域別にみると、「行っていない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で8割台半ば（85.5%）と高くなっている。（図8-28-3）

8-29 市の生活環境

◇ 《良くなった》が4割台半ば

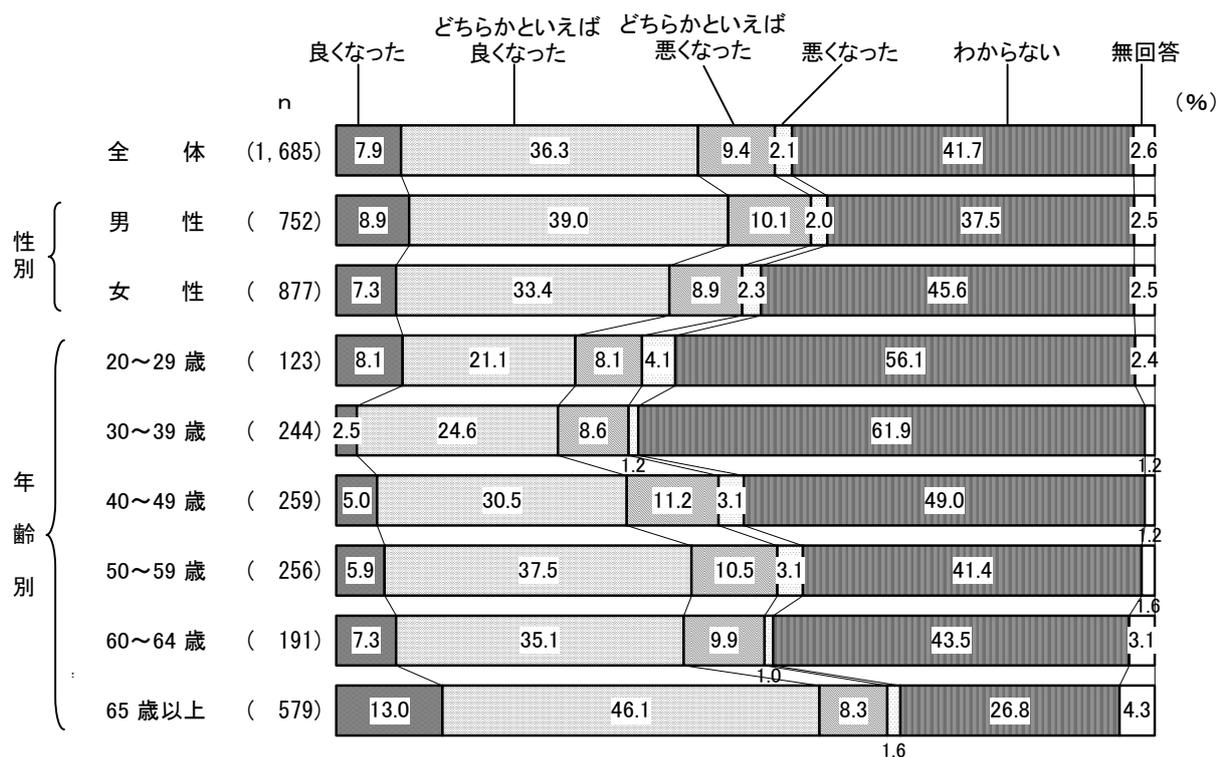
問49 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。（○は1つだけ）

図8-29-1



市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思うかを聞いたところ、「どちらかといえば良くなった」が4割近く（36.3%）と高く、これに「良くなった」（7.9%）を合わせた《良くなった》は4割台半ば（44.2%）となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」（9.4%）と「悪くなった」（2.1%）を合わせた《悪くなった》は1割強（11.5%）となっている。（図8-29-1）

図 8-29-2 市の生活環境—性別・年齢別

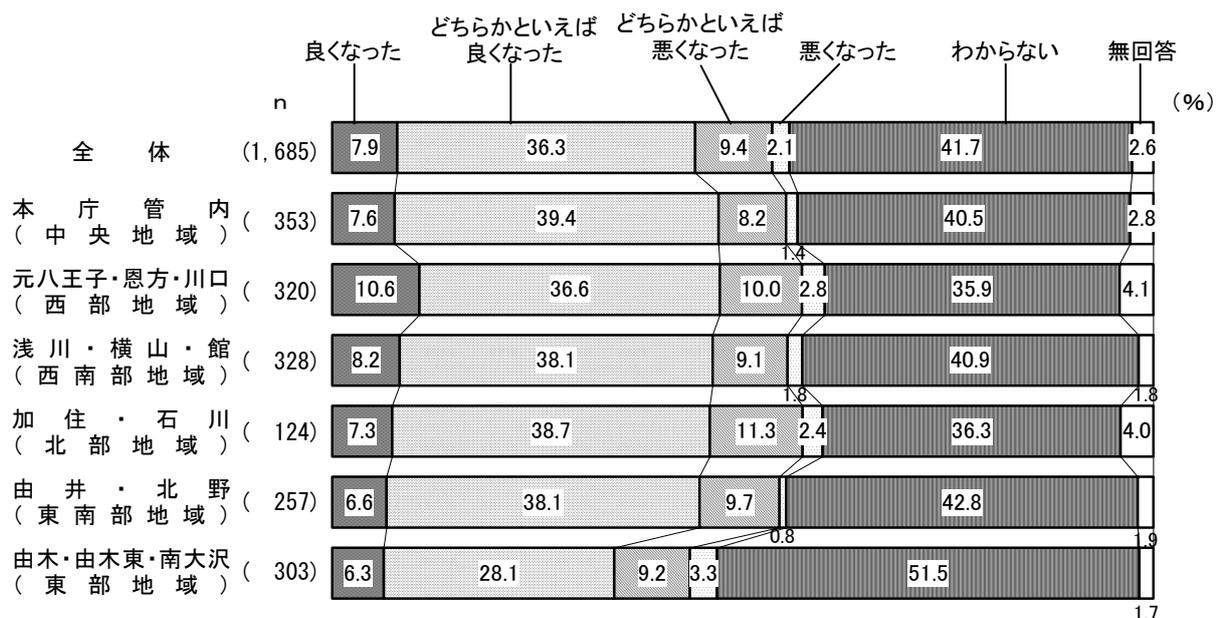


性別にみると、《良くなった》は男性が7.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《良くなった》は65歳以上で6割弱（59.1%）と高くなっている。

(図 8-29-2)

図 8-29-3 市の生活環境—居住地域別



居住地域別にみると、《良くなった》は由木・由木東・南大沢（東部地域）を除くすべての地域で4割台となっている。(図 8-29-3)

8-30 ワーク・ライフ・バランスの周知度

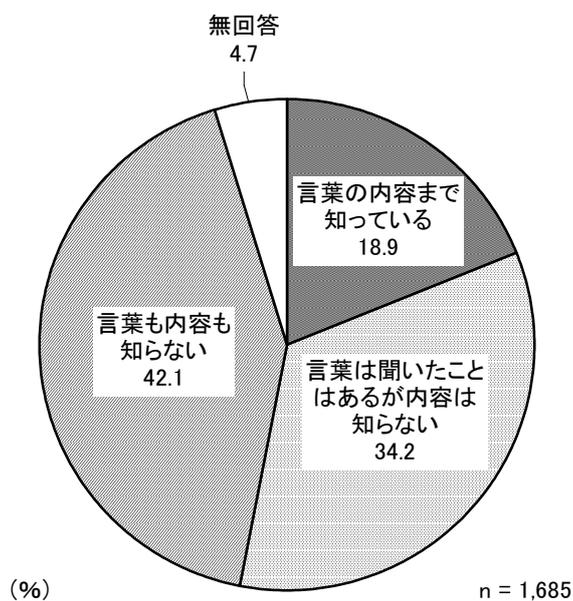
◇「言葉も内容も知らない」は4割強

問50 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を知っていますか。（○は1つだけ）

※仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは・・・

ワーク・ライフ・バランスとは、人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態で、望ましいバランスは、人によっても異なり、青年期・子育て期・中高年期といったライフステージによっても変化すると考えられています。ワーク・ライフ・バランスが実現すれば、個人は、より充実した生活をおくり、社会全体にも活力が生まれます。

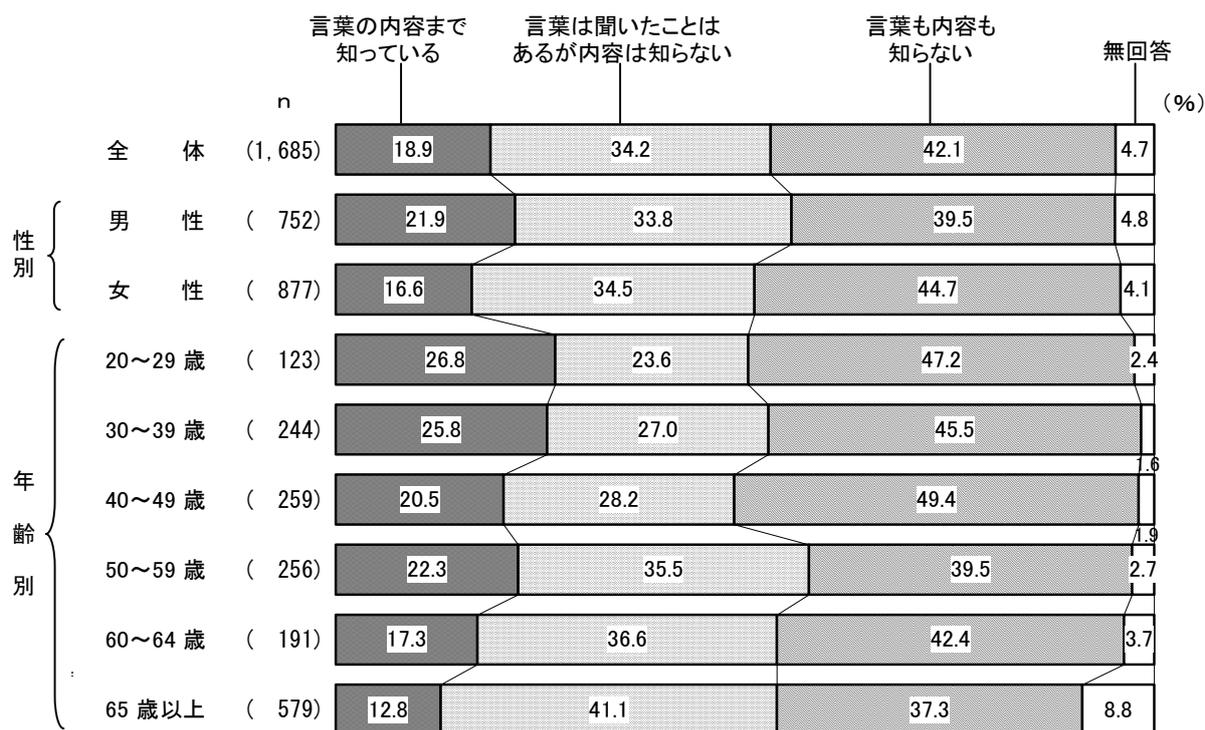
図 8-30-1



ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っているかを聞いたところ、「言葉の内容まで知っている」が2割近く（18.9%）、「言葉は聞いたことはあるが内容は知らない」は3割台半ば（34.2%）となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は4割強（42.1%）となっている。

(図 8-30-1)

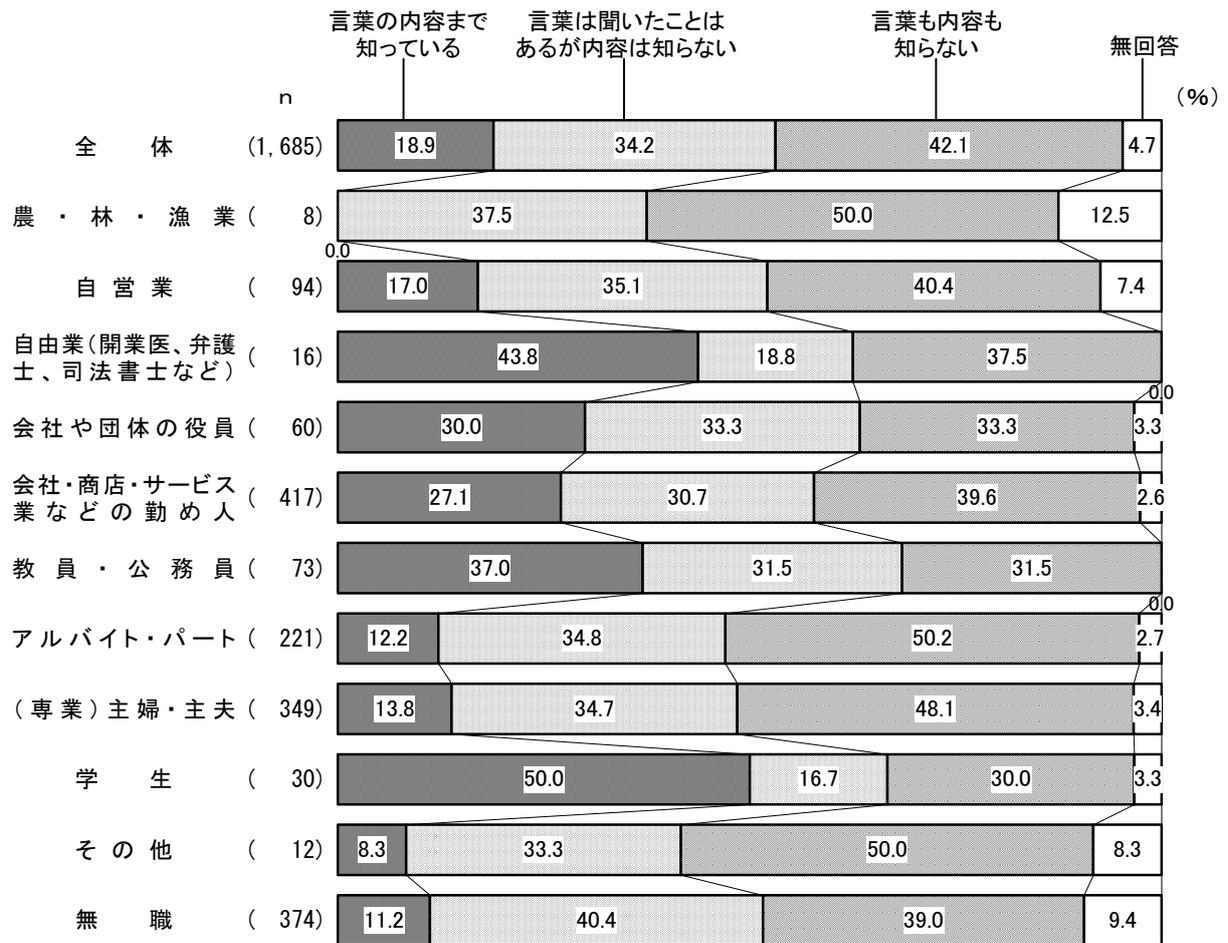
図 8-30-2 ワーク・ライフ・バランスの周知度—性別・年齢別



性別にみると、「言葉の内容まで知っている」は男性が5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の内容まで知っている」は20~29歳で3割近く（26.8%）と高く、おおむね年代が上がるにつれて割合が低くなっている。（図 8-30-2）

図8-30-3 ワーク・ライフ・バランスの周知度－職業別



職業別にみると、「言葉の内容まで知っている」は学生で5割（50.0%）、自由業（開業医、弁護士、司法書士など）で4割強（43.8%）と高くなっている。（図8-30-3）

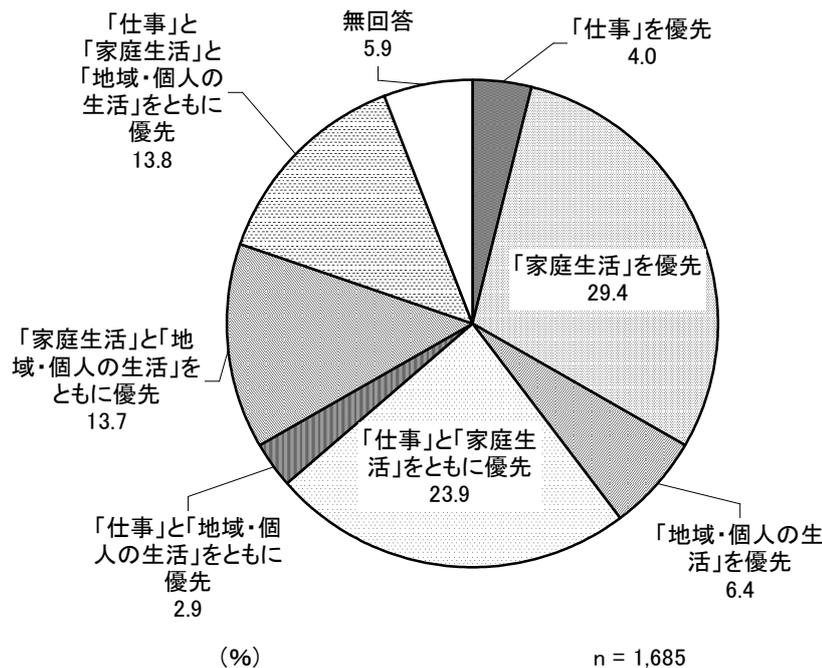
8-31 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

◇【希望する優先度】は「家庭生活を優先」が3割弱

問51 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についておうかがいします。（○はそれぞれ1つ）

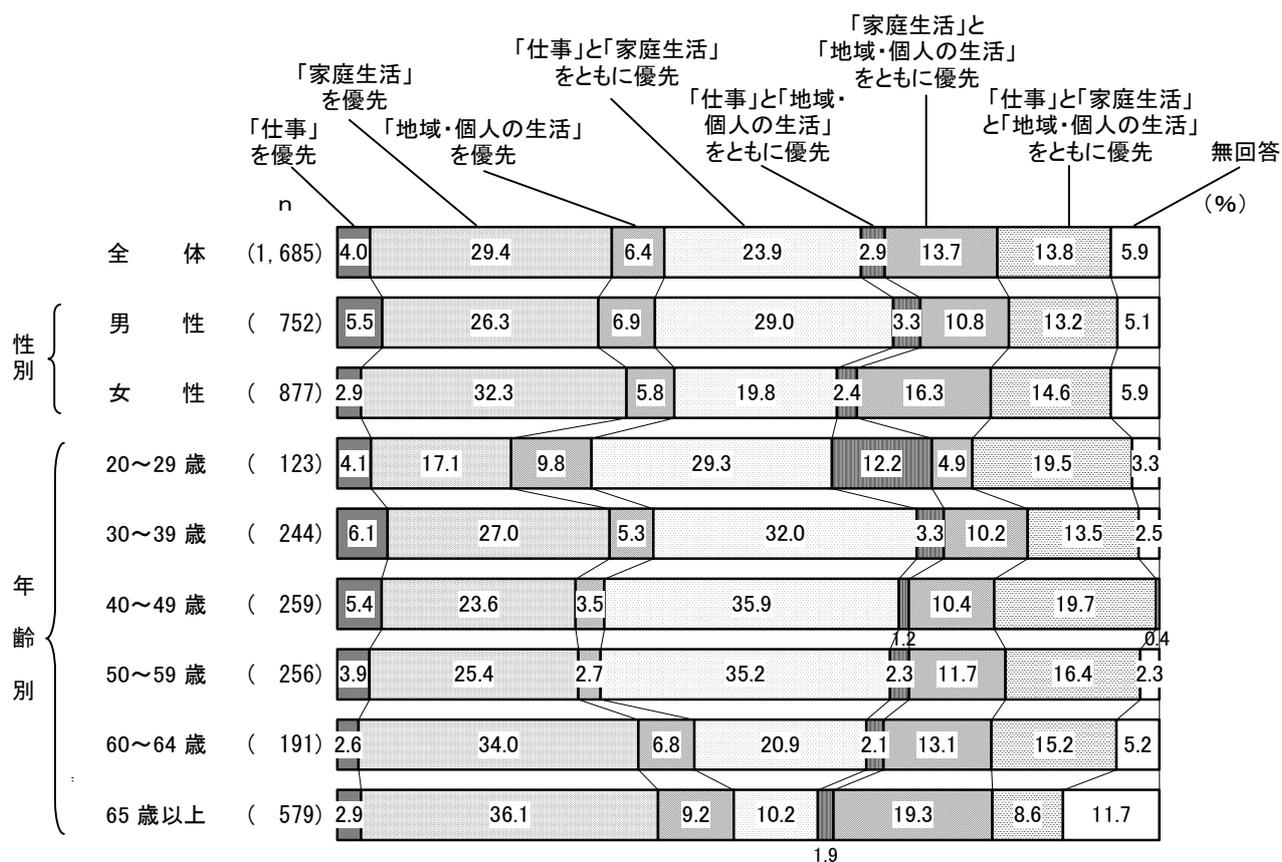
(1) あなたの望む優先度

図8-31-1



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望する優先度を聞いたところ、『「家庭生活」を優先』が3割弱（29.4%）と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（23.9%）、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（13.8%）、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（13.7%）、『「地域・個人の生活」を優先』（6.4%）、『「仕事」を優先』（4.0%）、『「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先』（2.9%）と続いている。（図8-31-1）

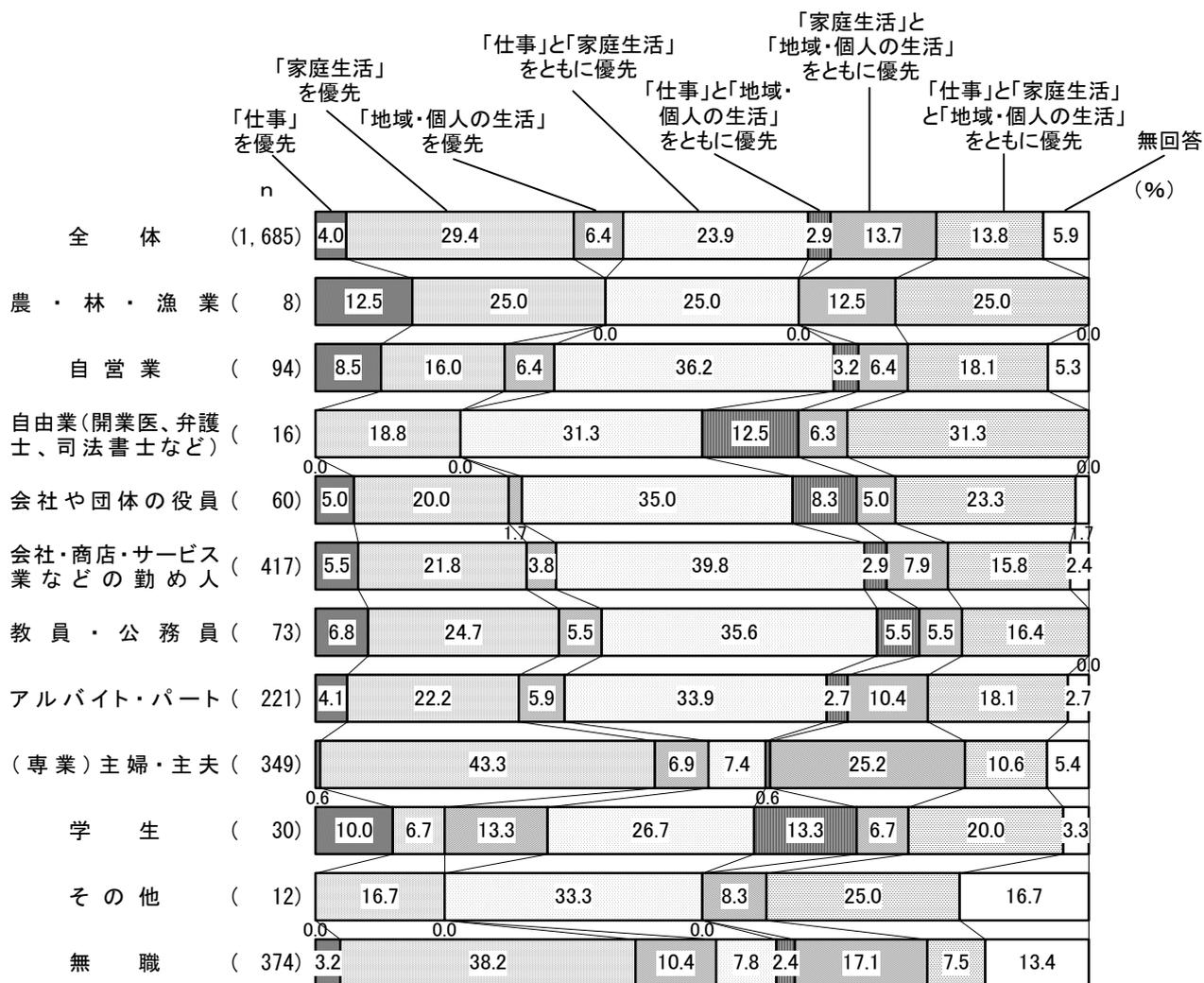
図8-31-2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度—性別・年齢別



性別にみると、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は男性が9.2ポイント高くなっている。一方、『「家庭生活」を優先』は女性が6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『「家庭生活」を優先』は65歳以上で4割近く（36.1%）と高くなっている。また、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は40~49歳（35.9%）と50~59歳（35.2%）で3割台半ばと高くなっている。（図8-31-2）

図 8-31-3 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度—職業別



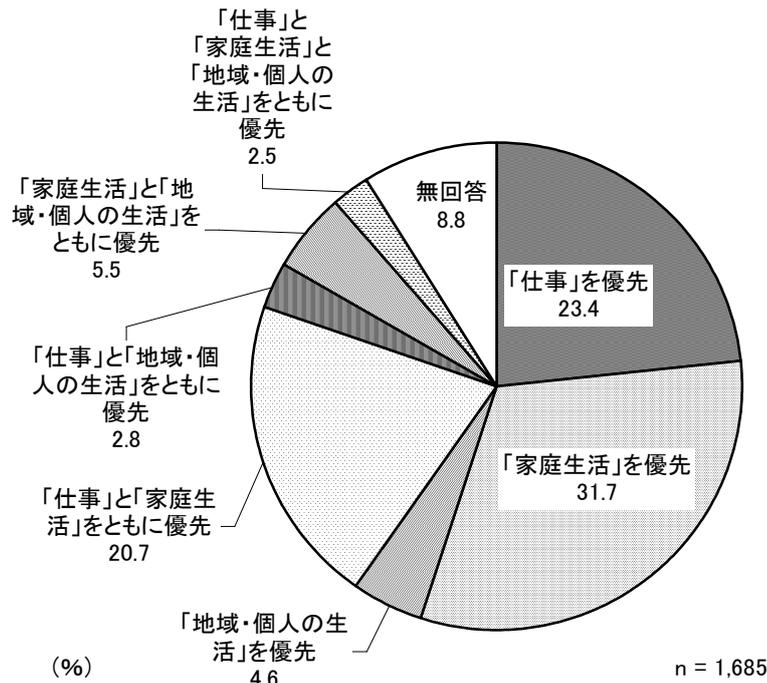
職業別にみると、『「家庭生活」を優先』は(専業)主婦・主夫で4割強(43.3%)と高くなっている。また、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は会社・商店・サービス業などの勤め人で4割弱(39.8%)と高くなっている。(図8-31-3)

◇【実際の優先度】は「家庭生活を優先」が3割強

問51 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についておうかがいします。（○はそれぞれ1つ）

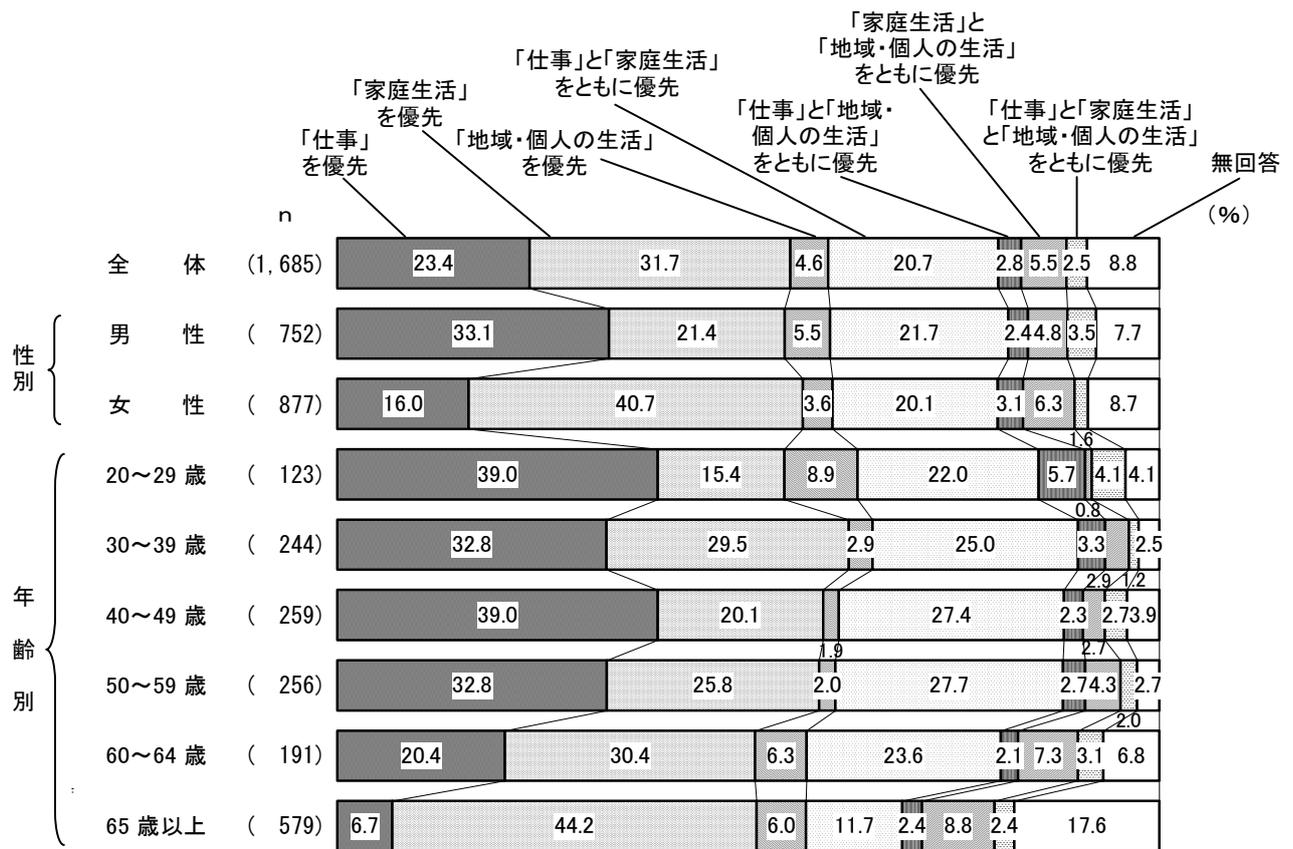
(2) 実際の優先度

図8-31-4



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の実際の優先度について聞いたところ、『「家庭生活」を優先』が3割強（31.7%）と最も高く、次いで『「仕事」を優先』（23.4%）、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（20.7%）、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（5.5%）、『「地域・個人の生活」を優先』（4.6%）、『「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先』（2.8%）、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（2.5%）と続いている。（図8-31-4）

図 8-31-5 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度—性別・年齢別

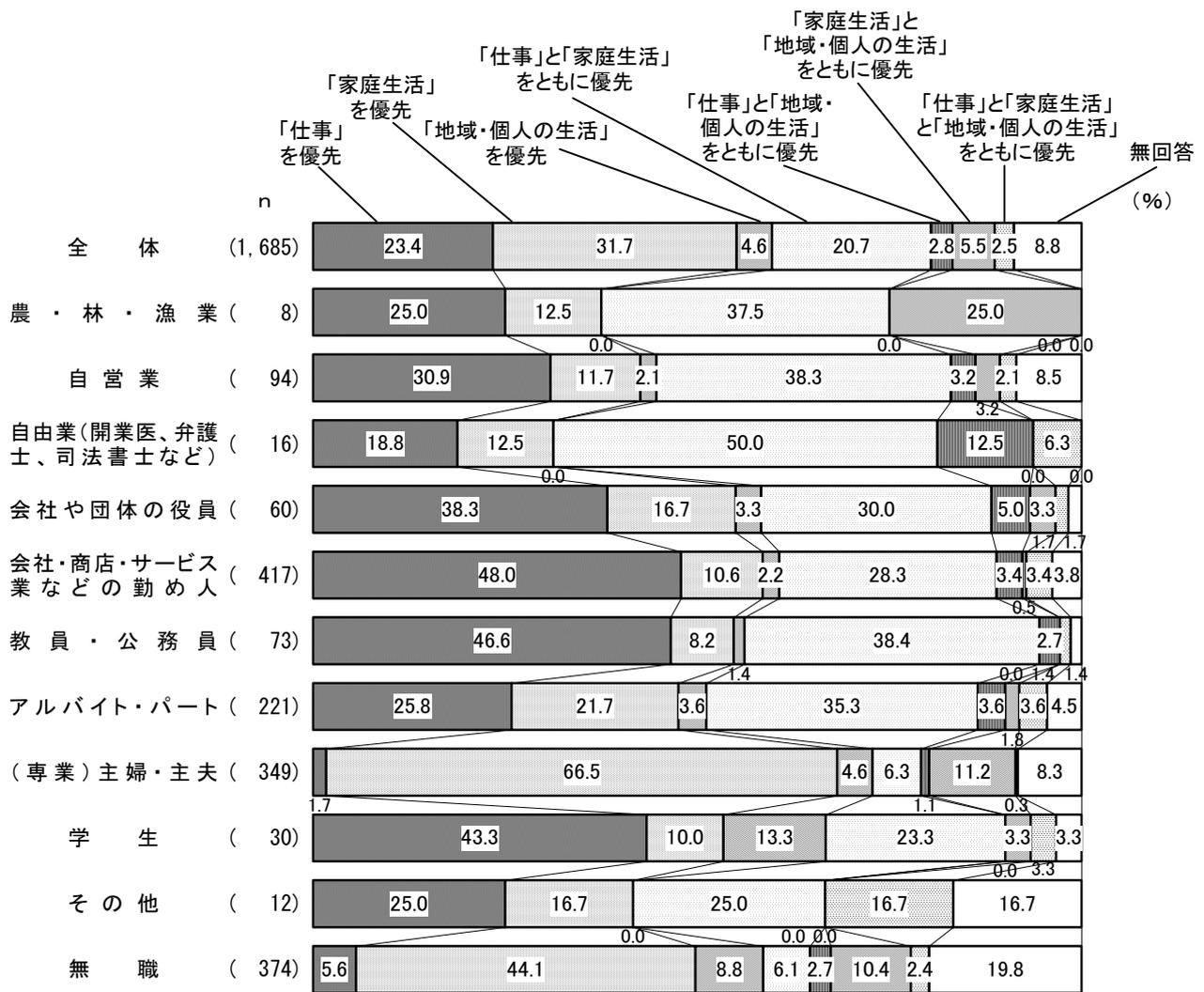


性別にみると、『「家庭生活」を優先』は女性が19.3ポイント高くなっている。一方、『「仕事」を優先』は男性が17.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『「仕事」を優先』は20~29歳と40~49歳で4割弱（39.0%）と高くなっている。また、『「家庭生活」を優先』は20~29歳で1割台半ば（15.4%）と低くなっている。

(図 8-31-5)

図8-31-6 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度—職業別



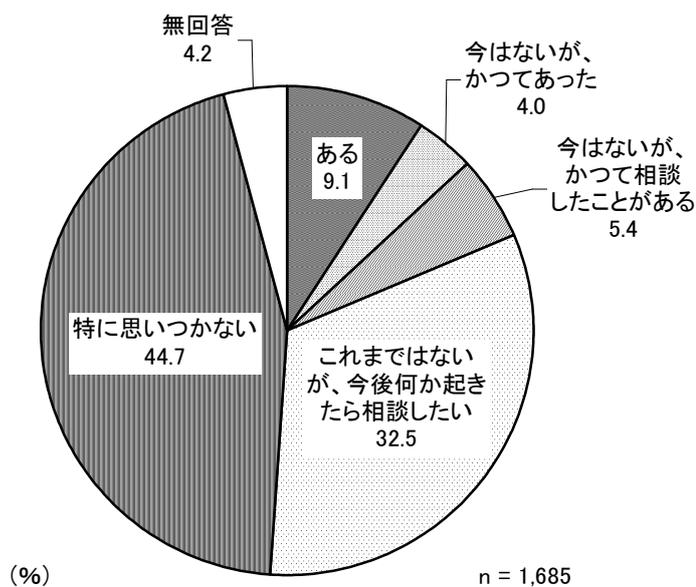
職業別にみると、『「仕事」を優先』は会社・商店・サービス業などの勤め人（48.0%）と教員・公務員（46.6%）で5割近くと高くなっている。また、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は自由業で5割（50.0%）と高くなっている。（図8-31-6）

8-32 市に相談したいことの有無

◇「特に思いつかない」が4割台半ば

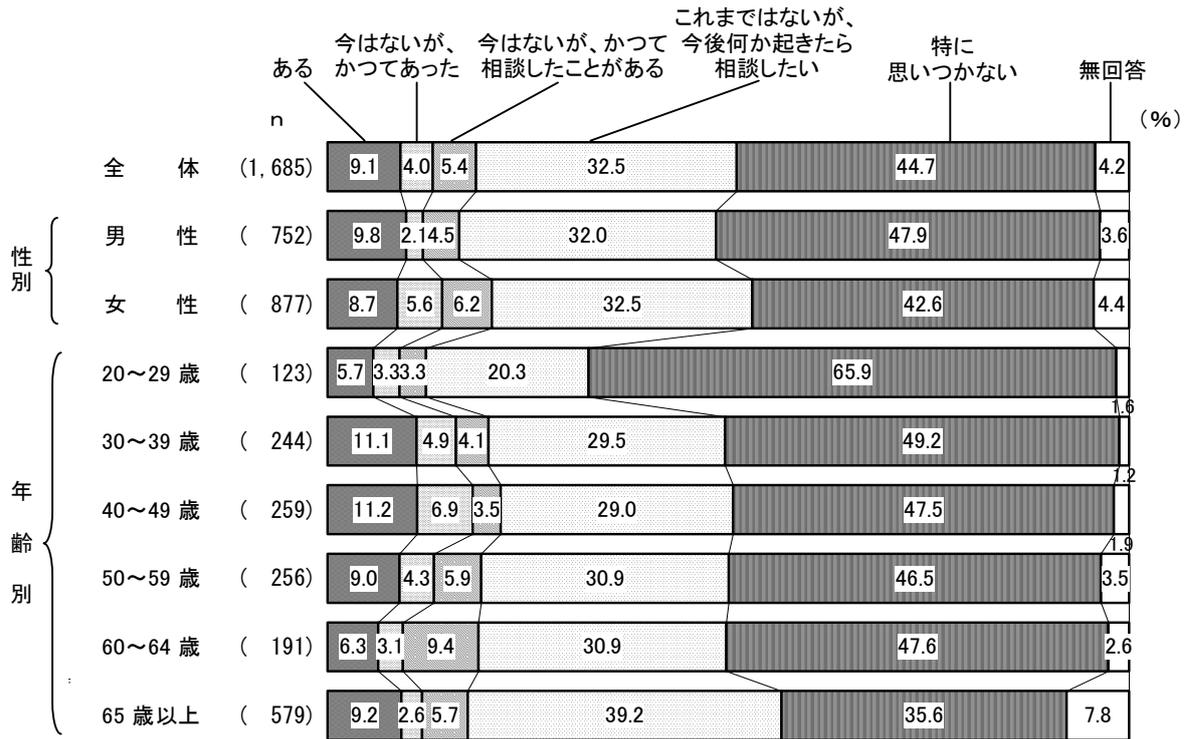
問52 あなたは、日常生活における問題やトラブルなどについて、市に相談したいことはありますか。(○は1つだけ)

図8-32-1



日常生活における問題やトラブルなどについて、市に相談したいことはあるかを聞いたところ、「特に思いつかない」が4割台半ば（44.7%）と最も高くなっている。また、「これまではないが、今後何か起きたら相談したい」は3割強（32.5%）、「ある」は1割弱（9.1%）、「今はないが、かつて相談したことがある」（5.4%）と「今はないが、かつてあった」（4.0%）は1割未満となっている。（図8-32-1）

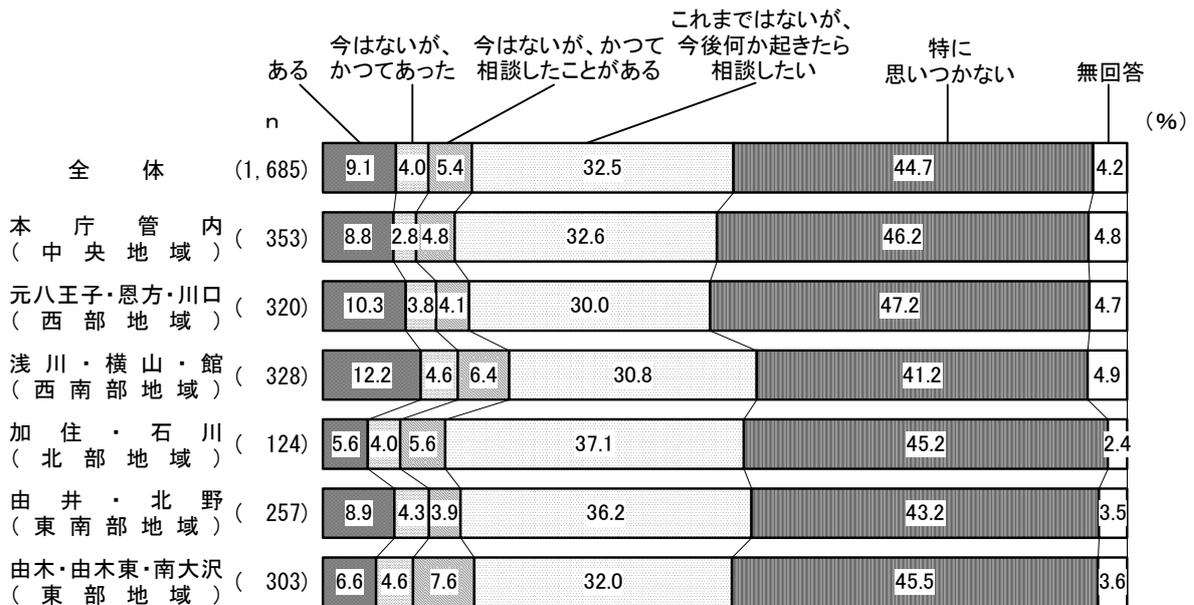
図8-32-2 市に相談したいことの有無－性別・年齢別



性別にみると、「特に思いつかない」は男性が5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「特に思いつかない」は20～29歳で6割台半ば（65.9%）と高くなっている。また、「これまではないが、今後何か起きたら相談したい」は65歳以上で4割弱（39.2%）と高くなっている。（図8-32-2）

図8-32-3 市に相談したいことの有無－居住地域別



居住地域別にみると、「これまではないが、今後何か起きたら相談したい」は加住・石川（北部地域）（37.1%）、由井・北野（東南部地域）（36.2%）で4割近くと高くなっている。

（図8-32-3）

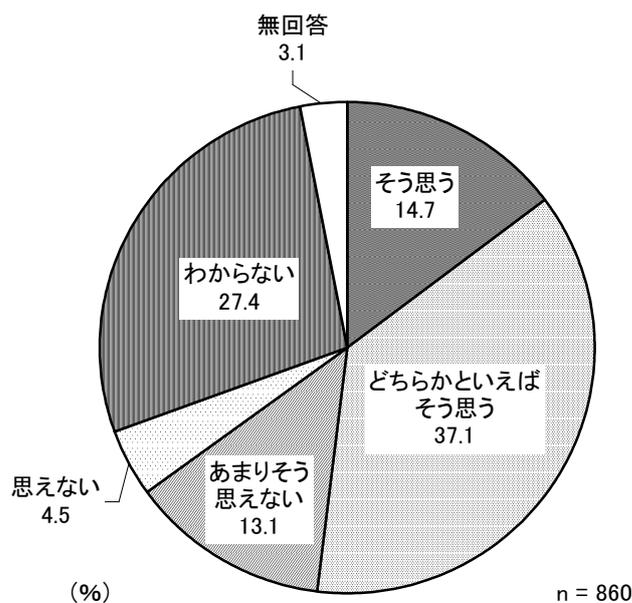
8-33 市の相談体制の満足度

◇ 《そう思う》が5割強

(問52で、相談したいことがある(あった)とお答えの方に)

問52-1 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

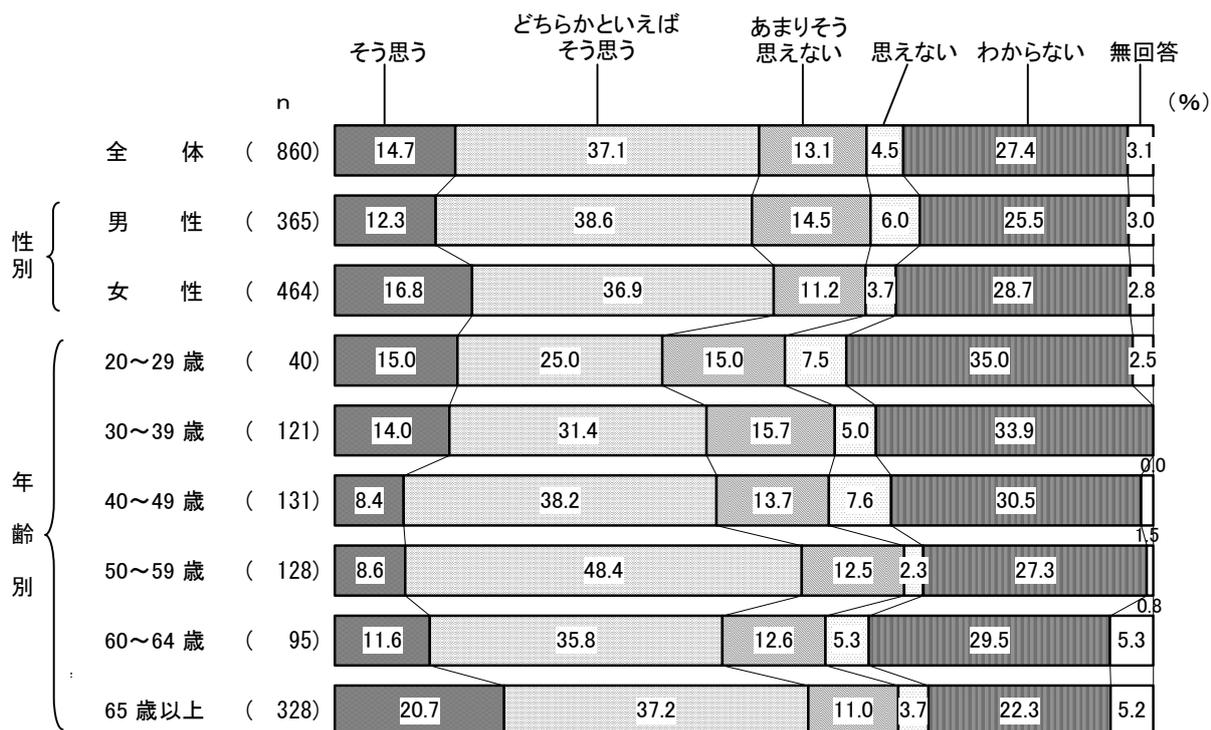
図8-33-1



市に相談したいことの有無で、相談したいことがある(あった)と答えた人(860人)に市の相談体制が充実していると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が4割近く(37.1%)で最も高く、これに「そう思う」(14.7%)を合わせた《そう思う》は5割強(51.8%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(13.1%)と「思えない」(4.5%)を合わせた《思えない》は2割近く(17.6%)、「わからない」は3割近く(27.4%)となっている。

(図8-33-1)

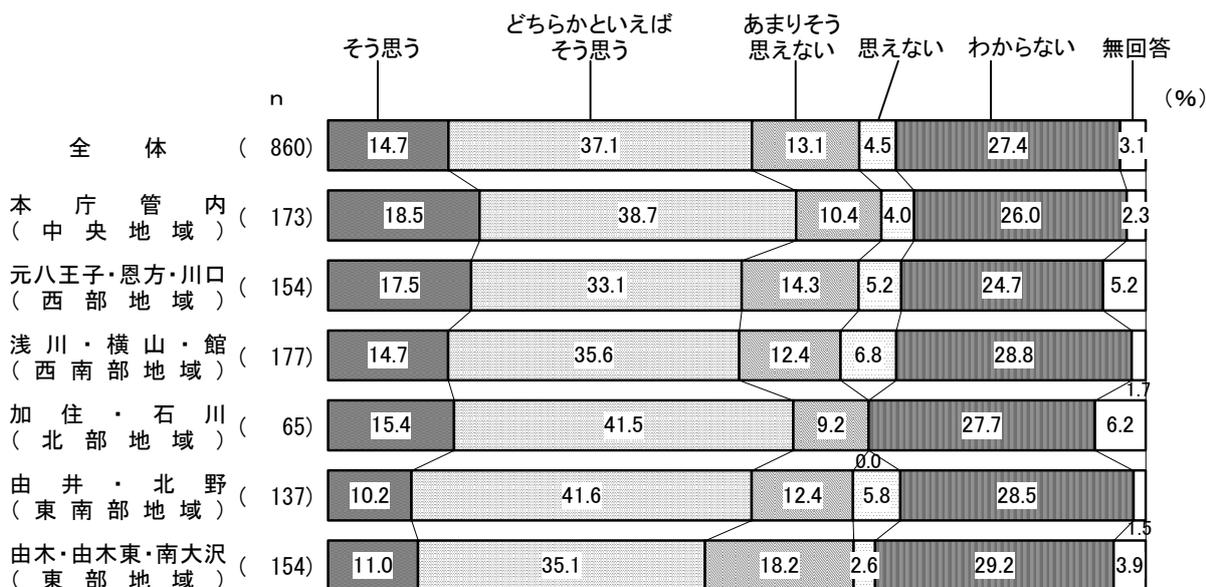
図8-33-2 市の相談体制の満足度—性別・年齢別



性別にみると、《思えない》は男性が5.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は50~59歳（57.0%）と65歳以上（57.9%）で6割近くと高くなっている。（図8-33-2）

図8-33-3 市の相談体制の満足度—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は本庁管内（中央地域）（57.2%）と加住・石川（北部地域）（56.9%）で6割近くと高くなっている。（図8-33-3）